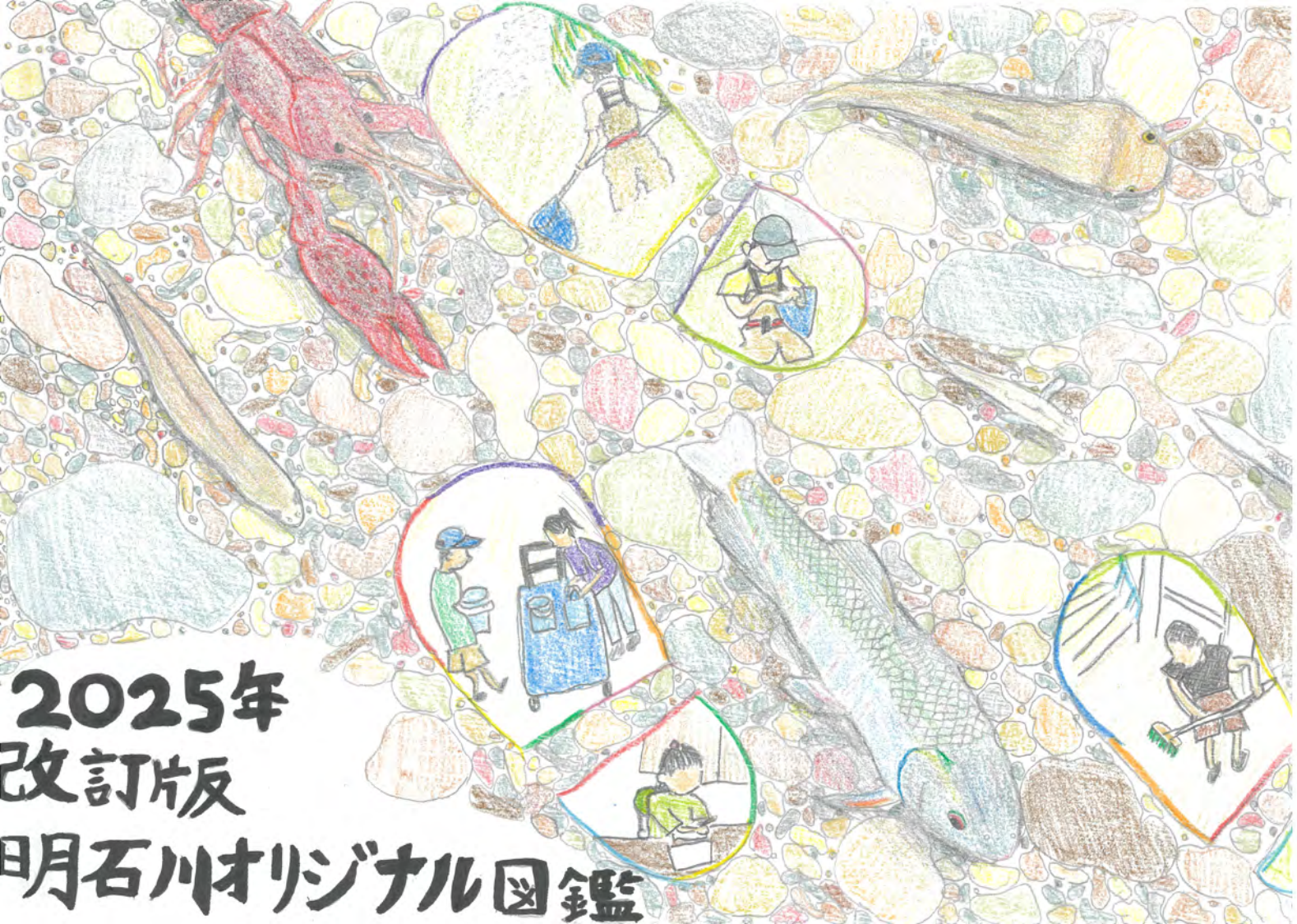


2025年
改訂版

明石川オリジナル図鑑



女台めに

神田 大和

ぼくは、玉ーアクアリウムに入って一年目ほどで「まだまだ分からないことがあるけど小田さんや先は^いいがこれは、こんな名前でこんな特ちょうがあるよと教文^しえてもらってそして、その知しきを次に入ってくる人にも伝えていきたいです。そして、これからも楽しく活動していきたいです。

今年は、園かん作成が間にあうかどうかぎりぎりだったけど午前から午後までお弁当を持って園かん作成をしたおかげでなんとか間にあいそうです。

そして何人かの人は、休みの日に個人でザリガニやカメなど外来生物をとって、小田さんの果^じ園などに持って行きウナギのえさや、果物の肥料にしています。

図鑑作成にあたって (北井涼太)

図鑑^作成で難しかったことはきれいな字を書くことです。

図鑑を読む人に分かるようになるべくにじんだりしないように書きました。

あと字をつめすぎないように字と字の間をすこし確認して、まだ習っていない漢字は、どう書くかを確認して、丁寧に書きました。

これからも明石川に関する活動をがんばります。

ハグロトンボ成虫



玉一アクアリウムとは

- メンバー: 神戸市西区の玉津第一小学校の子どもたちとリーダー、保護者
- 活動回数: 明石川で1週間に2回くらい
- 活動内容: 魚・水生生物・植物の調査・捕獲など

年間を通じて、希少種の保護、外来種の駆除をしています。



目次

(丸口 葵)

植物

チャイロカフモズク	1
スギナ	2
セキショウモ	3
イビモ	4
コカナダモ	5
オオカナダモ	6
ウチワゼニクサ	7
アササ	8
シロネ	9
タコノアシ	10
オランダガラシ	11

セイヨウカラシナ	12
キクイモ	13
オオキンケイギク	14
ツルニチニチソウ	15
キカラスウリ	16
甲殻類	
ヨシエビ	17
ウシエビ	18
テナガエビ	19
ミナミテナガエビ	20
ヒラテテナガエビ	21
スジエビ	22

ミゾレヌマエビ[〃]————— 23

カワリヌマエビ[〃]属————— 24

アメリカザリガニ————— 25

クロベンケイガニ————— 27

オオヒライソガニ————— 28

台湾ンオオヒライソガニ—— 29

台湾ンヒライソモドキ————— 31

モクズガニ————— 32

サワガニ————— 33

昆虫類

アオモンイトトンボ[〃]————— 34

ハグロトンボ[〃]————— 35

アサヒナカワトンボ[〃]————— 36

キイロサナエ————— 37

コオニヤンマ————— 38

ウチワヤンマ————— 39

台湾ンウチワヤンマ————— 40

オニヤンマ————— 41

ギンヤンマ————— 42

コシボソヤンマ————— 44

ウスバキトンボ[〃]————— 45

シオカラトンボ[〃]————— 46

コアキトンボ[〃]————— 47

コオイムシ————— 48

タイコウチ————— 49

ミズカマキリ	50
ヒメミズカマキリ	51
チラカゲロウ	52
モンカゲロウ	53
シロタニガワカゲロウ	54
タマリフタバカゲロウ	55
フタバコカゲロウ	56
ウデマガリコカゲロウ	57
サホコカゲロウ	58
シロハラコカゲロウ	59
オオトゲエラカゲロウ	60
オナシカワゲラ属	61
コガタシマトヒケラ	62

イブシアシナガドROMシ	63
ハイロゲンゴロウ	64
コガムシ	65
貝類	
ミナミタガイ	66
イシガイ	67
マツカサガイ	68
マシジミ	69
タイワンシジミ	70

魚類

アカエイ	71
イセゴイ	72
ニホンウナギ	73
アユ	75
カマツカ	77
コウライモロコ	78
コウライニゴイ	79
コイ	80
ゲンゴロウブナ	81
ギンブナ	82
ヤリタナゴ	83
タイリクバラタナゴ	84

オイカワ	86
カワムツ	88
ヌマムツ	89
タモロコ	91
モツゴ	92
チュウガタスジシマドジョウ	93
ドジョウ	94
カラドジョウ	95
ロングスガー	96
タイワンドジョウ	97
カムルチー	98
スズキ	99
オオクチバス	100

ブルーギル	102
クロホシフエダイ	104
クロホシマンジュウダイ	105
シロギス	107
ユトヒキ	108
シマイサキ	109
クロダイ	110
キチヌ	111
ムラソイ	112
マタナゴ	113
メジナ	114
カワアナゴ	115
ドンコ	117

ヒメハゼ	119
ヒナハゼ	120
アベハゼ	122
カクヨシボリ	123
シマセレヨシボリ	124
シマヨシボリ	125
ゴクラクハゼ	126
チチブ	128
ウロハゼ	129
マハゼ	130
ミミズハゼ	131
ウキゴリ	132
スミウキゴリ	133

マゴチ	134
ミナミメダカ	135
カダヤシ	137
グッピー	138
ギギ	139
ナマズ	141
テングヨウジ	144
ボラ	145
メナダ	146
クサフグ	147
シマフグ	148

両生 爬虫類

ウシガエル	149
ヌマガエル	151
スッポン	152
アカミミガメ	153
クサガメ	154
ニホンイシガメ	155
ニホントカゲ	156
ニホンカナヘビ	157
ニホンマムシ	158
ヒバカリ	159
シマヘビ	160
アオダイショウ	161

鳥類、哺乳類

カワセミ	162
キセキレイ	163
セグロセキレイ	164
ハクセキレイ	165
ホオジロ	166
ヒシクイ	167
オオマガン	168
マガモ	169
カルガモ	170
カイツブリ	171
カワウ	172
アオサギ	173

ダイサギ	174
ゴサギ	175
クロツラヘラサギ	176
ゴウノトリ	177
ヒクイナ	178
ゴチドリ	179
カヤネズミ	180
ヌートリア	181
ニホンイノシシ	182

チャイロカワモズク

茶色川海雲

神

Batrachospermum arcuatum

カワモズク科 チャイロカワモズク属

北海道～沖縄

2～12cm

準絶滅危惧

兵庫県Cランク

藻体は茶褐色で海のものと同じように粘質でヌルヌルしていて、先端までよく分枝します。

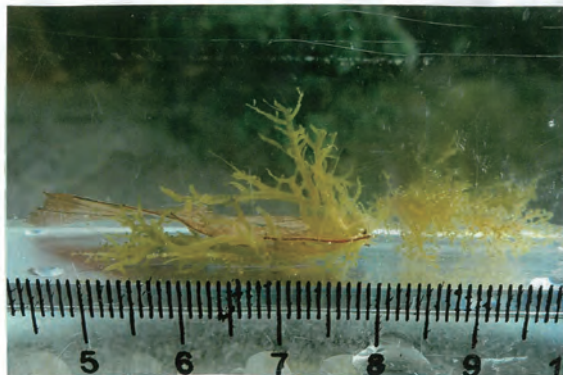
晩秋～早春に湧水が流れる細流の石などに着生し、明石川水系では支流の福知川の更に支流の印路川の源流に生えています。

湧水を守ることがチャイロカワモズクの保全につながります。

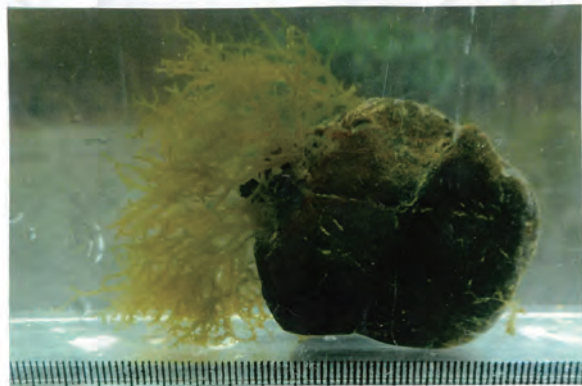
(北井涼太)



チャイロカワモズク (絵: 佐野こまろ)



明石川の支流の福知川の更に支流の印路川の源流の細流に生えていたチャイロカワモズクです。



印路川源流の細流の石に着生していたチャイロカワモズクです。撮影後に元の場所に戻しました。

スギナ

杉菜

神 明

Equisetum arvense

トクサ科トクサ属

北海道～九州

30cm

春に孢子茎のツクシを出し、ツクシが枯れると栄養茎のスギナが生えてくる多年性のシダ植物です。

スギナには珣酸が含まれていて、触るとシャリシャリとした独特の感じがします。

スギナは乾燥地でも湿地でも生育し、明石川水系では明石川中流や支流の河川敷や土手にたくさん生えています。(西岡 柚佳)



スギナの孢子茎 (絵・弓削 淳翔)



スギナの春に出てくる孢子茎がツクシです。明石川中流の土手にツクシが出ていました。



ツクシが枯れてから出てくるのが栄養茎のスギナです。明石川中流の河原にたくさん生えていました。

セキショウモ

石菖藻

神 明

Vallisneria asiatica

トチカガミ科 セキショウモ属

北海道～九州

10cm～80cm 兵庫県Bランク

神戸市Bランク

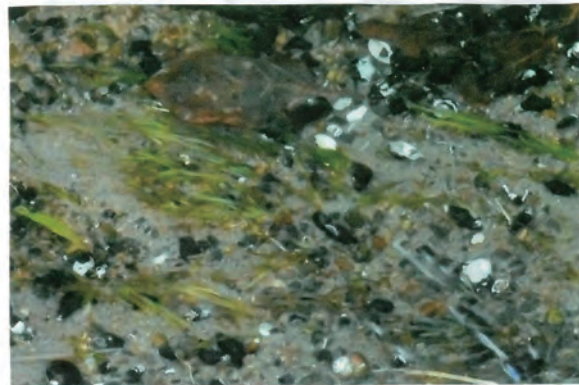
沈水性の水草で、池や川や水路などに生えていて、明石川水系では主に平野大池の用水路に生えています。
セキショウの葉に似ているので、セキショウモとされています。

以前は明石川下流の伊川合流点付近にも群生していましたが、大雨で増水した後に川底の砂泥ごと流されて消失してしまいました。平野大池の用水路でも減っています。(西岡龍介)

セキショウモ



(絵・弓削 朱花梨)



平野大池の用水路に生えているセキショウモです。以前は群生していましたが、用水路をコンクリートで固める工事をしてから減っています。



明石川下流の伊川合流点付近に生えていた消失寸前のセキショウモです。増水した後に川底が削られて、このようにバラバラになって消失しました。

エビモ

蝦藻



Potamogeton crispus

ヒロムシロ科 ヒロムシロ属

日本全国

30cm ~ 1m

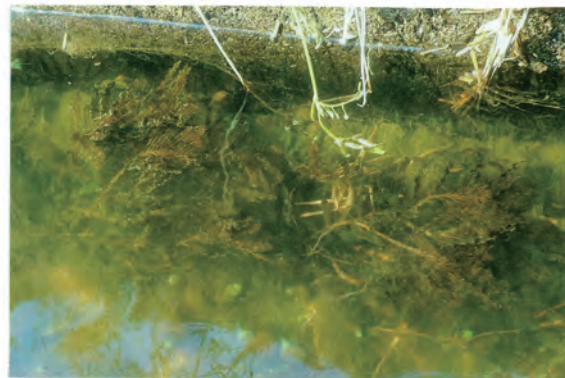
河川や湖沼、池、水路などに沈水状態で生育し、明石川水系では明石川や池とつながる用水路に生えています。

茎は丸くなく楕円形で中央がくびれています。

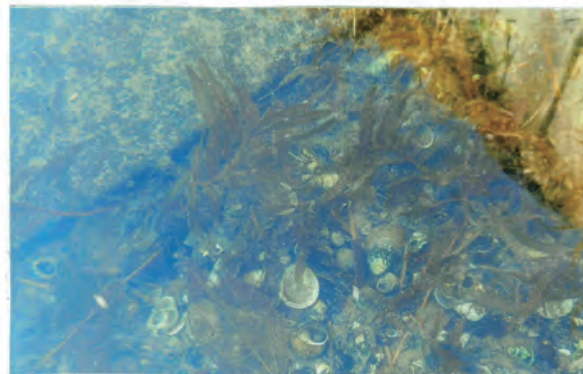
明石川水系の用水路に生育するエビモは水温が高くなるためか、夏眠のための硬い殖芽をよく作ります。(佐野こころ)



エビモ (絵: 佐野こころ)



明石川と平野大池をつなぐ用水路に生えているエビモです。たくさん生えています。



同じ用水路に生えるエビモです。名前の通りヌマエビとスジエビとテナガエビの絶好の隠れ家になっています。

コカナダモ

小加奈陀藻

神

Elodea nuttallii

トチカガミ科 コカナダモ属

北海道～沖縄

総合対策外来種 20～50cm 兵庫県注意種
重点対策外来種 神戸版ブラックリスト
外来生物種

日本在来の水草のクロモに似ていますが、コカナダモは北アメリカ原産で実験用として持ち込まれたものが野生化しました。20～50cmに生長し、初夏～秋に水面に白い花を咲かせます。池や水路に生え、明石川水系では明石川中流につながる用水路などに群生しています。

コカナダモはオオカナダモに比べて小型で輪生する葉はコカナダモで普通3枚、オオカナダモで普通4枚です。(徳田 桜花)

コカナダモ



(絵・弓削 淳翔)



明石川中流につながる用水路の冬の様子です。水底にはたくさんのコカナダモが繁茂しています。



抜き取ったコカナダモです。コカナダモはオオカナダモに比べて小型で、プチプチと折れやすいのが特徴です。

オオカナダモ

大加奈陀藻



Egeria densa

トチカガミ科 オオカナダモ属

本州、四国、九州

総合対策外来種 1m 兵庫県警戒種
重点対策外来種 神戸版ブラックリスト
外来生物種

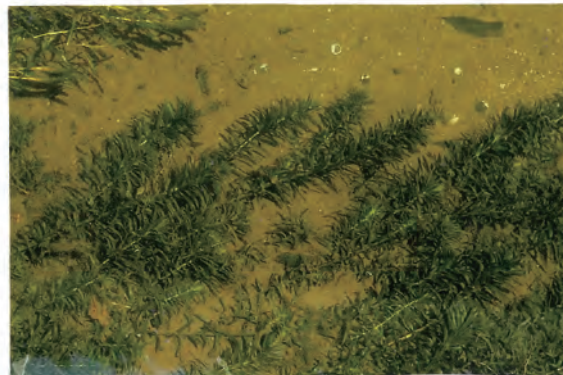
日本在来の水草のクロモに似ていますが、オオカナダモは南アメリカ原産で実験用として持ち込まれたものが観賞用として普及し日本で野生化し、今もアナカリスという名で売られています。

1m以上に生長し、初夏から秋にかわいい3弁の白い花を水面に咲かせます。

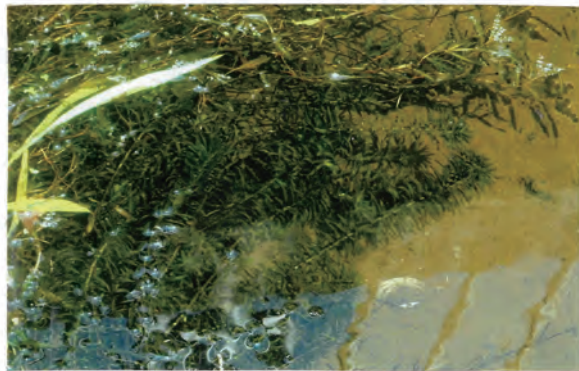
川や池や湖に生えますが、明石川水系では支流の田中川や平野大池の用水路などに生えています。(徳田 桜花)



オオカナダモ(絵・徳田 桜花)



明石川中流で合流している用水路に生えているオオカナダモです。エビモと一緒に生えていました。



同じ用水路の別の場所に生えていたオオカナダモです。コカナダモほどは群生していませんでした。

ウチワゼニクサ

団扇銭草

神

Hydrocotyle verticillata

ウコギ科 ナドメグサ属

本州～沖縄

匍匐性

生態系被害防止外来種

水槽やビオトープなどでウォーター・マッシュルームやウォーター・コインと呼ばれる熱帯魚用の水草で、北アメリカ南部原産の多年草の抽水～湿生植物です。

明石川水系では明石川中流の川岸や迂回型魚道などで繁殖して住宅地の中の湿った畑や溝でもふつうに生育しています。

観賞用に輸入されたものが捨てられたり自分で茎を伸ばして、河川や池や水路や湿地で野生化しています。(神田 大和)



ウチワゼニクサ (絵・弓削 淳翔)



明石川中流の迂回型魚道の水際(中央部分)に群生するウチワゼニクサです。



少しずつですが、ウチワゼニクサが増えすぎないように駆除をしています。

アサザ

浅沙

神

Nymphoides peltata

ミツガシワ科 アサザ属

日本全国

水面一面に広がる **兵庫県Bランク**

準絶滅危惧

神戸市今見られない

湖沼や池などの浅い場所に浮葉して水面を覆うように群生して生育し、明石川水系では明石川中流の本流につながっている浅いわんどや、そのすぐ近くの明石川とつながっている用水路など限られた場所に生えています。

初夏～秋にかけて、きれいな黄色い花を咲かせます。

神戸市環境局からは栽培種の可能性が高いと言われていますが、川で生育していた事例もあると言う専門家もいて、詳しいことはわかりません。(丸口 葵)

アサザ(絵:弓削 淳翔)



明石川中流とつながっている用水路に生えているアサザです。限られた場所に少だけ生えています。



一部を持ち帰って玉津第一小学校のビオトープで育てています。きれいな花をよく咲かせます。

シロネ

白根

神 明

Lycopus lucidus

シソ科 シロネ属

北海道～九州

80～120cm

明石市Bランク

茎が4角形で枝分かれせず、まっすぐ伸び、秋に葉のもとに小さな白い花を咲かせます。

池や河川の湿地に生え、明石川水系では明石川中流～下流の川岸や河川敷に生育しています。

地下茎が白くて太いのでシロネと言ひ、白い地下茎は食べることができます。(西岡 龍介)



シロネ

(絵、弓削 朱花梨)



明石川中流の川岸に生えていたシロネです。川の水に浸るような場所に生えていました。



明石川中流の河川敷に生えていたシロネです。わりと乾燥した場所で、他の草と競合しながら生えていました。

タコリアシ

蛸の足

神 明

Penthorum chinense

タコリアシ科 タコリアシ属

本州、四国、九州

30 ~ 70 cm

準絶滅危惧

神戸市Cランク

明石市Bランク

河原や田んぼや湿地などに生える多年草で、水が少なすぎても多すぎても上手く生育できません。

何本にも枝分かれした先につくたくさんの小さな黄白色の花や赤い実が蛸の足のように見えることから名前がつけられました。

タコリアシの種は、オレンジ色の粉のようなとても小さな種で、湿った地面にそのまま播くとよく発芽し、その苗を明石川に帰す活動もしています。
(竹葉 眞心)



タコリアシ

(絵・藤澤太一)



明石川中流の川岸に生えていたタコリアシです。ガマと一緒に生えていました。



玉津第一小学校のビオトープで種から育てたタコリアシです。明石川産のタコリアシの種をまいて増やし、明石川に帰す活動もしています。

オランダガラシ

和蘭辛子

神 明

Nasturtium officinale

アブラナ科 オランダガラシ属

北海道～九州

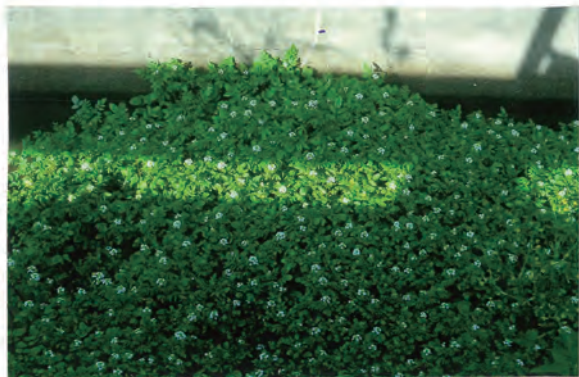
総合対策外来種 30～50cm 神戸版ブラックリスト
重点対策外来種 外来生物種

ユーラシア大陸原産の水中や湿地に生える多年草で、クレンソウやウォーター クレスという別名でも知られています。

明石川水系では中流辺りや支流や用水路などにも生えていて、湧き水が流れるきれいな沢に生育すると言われていますが、ヘドロが溜まった田中川用水路や排水溝にふつうに生えていて、繁殖力が強くてすぐに大きくなりよく増えます。(藤澤太一)



オランダガラシ(絵・佐野こころ)



ヘドロが溜まった田中川用水路に群生するオランダガラシです。水と養分があればどこでも繁殖します。



明石川中流の河原に生えているオランダガラシです。春先には1本だったのが、初夏にはこんなに大きくなります。

セイヨウカラシナ

西洋芥子菜

神 明

Brassica juncea

アブラナ科 アブラナ属

北海道～沖縄

1～1.5m

食用として輸入されたものが野生化し、荒地や河川敷などで群生しています。

明石川水系では明石川中流～下流や支流の田中川、櫛谷川、伊川などでも多く見られます。

黄色い菜の花を咲かせ、若葉やつぼみや花を食べたり、種をマスタードとして香辛料に利用できます。(北井 涼太)



セイヨウカラシナ

(絵・藤澤 太一)



明石川中流の田中川合流点付近の河原で咲き始めたセイヨウカラシナの花です。



明石川下流の伊川合流点付近の河川敷に咲く満開のセイヨウカラシナの花です。

キクイモ

菊芋

(神)(明)

Helianthus tuberosus

キク科 キク亜科 ヒマワリ属

日本全国

1~2m

兵庫県注意種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

北アメリカ原産で食用や観賞用に移入されたものが主に河川敷や畑、荒地などの肥料分の多い湿った場所で野生化しています。

明石川水系では明石川中流~下流、支流の櫛谷川や伊川の河川敷や土手に生えています。

秋には小さなヒマワリのようなきれいな黄色い花を咲かせ、塊茎はジャガイモと同じ調理方法で食べられ、玉-アクリウムは駆除をかねてキクイモチップスにして美味しくいただいています。

(弓削朱花梨)

キクイモ



(絵・宮本彩音)



明石川中流の河川工事の跡地に咲くキクイモの花です。ヒマワリのようなきれいな黄色い花です。



明石川下流の伊川合流点付近の河川敷で掘ったキクイモの芋(塊茎)です。皮ごとうすくスライスして油で揚げてキクイモチップスにすると、とても美味しいです。

オオキンケイギク

大金鶏菊

神 明

Coreopsis lanceolata

キク科 キク亜科 ハルシヤギク属

日本全国

30 ~ 70cm

特定外来生物
総合対策外来種
緊急対策外来種

兵庫県警戒種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

北アメリカ原産で、日本に園芸種として観賞用に持ち込まれ栽培されていましたが野生化し、きれいな花が咲く強い植物として故意に野外に植えられたことで更に広がりました。

放っておくと大群落を作るので、初期の対策が重要です。若芽や花は春菊のような香りと味で美味しいです。

(神田大和)



(絵・弓削 淳翔)



明石川支流の田中川の護岸コンクリートの割れ目に生えていたオオキンケイギクです。遅く花を咲かせていました。



明石川中流の土手で花を咲かせていたオオキンケイギクです。これ以上増えないように玉-アクアリウムも駆除を続けています。

ツルニチチソウ

蔓日々草

神

Vinca major

キョウチクトウ科 ツルニチチソウ属

日本各地

1~2m

総合対策外来種

神戸版ブラックリスト

重点対策外来種

外来生物種

ヨーロッパ原産の多年草で春~初夏にニチチソウによく似た青紫色の花をたくさん咲かせます。

園芸の観賞用に栽培されていたものが住宅地の近くで野生化しツルを伸ばして群生し大繁殖しています。

日なたを好みますが日陰でもよく育ち群落を作るので、初期の対策が重要です。(弓削 淳翔)



ツルニチチソウ (絵: 藤澤 太一)



明石川中流の土手を覆い尽くすツルニチチソウです。日なたではこんなに繁茂します。



明石川中流の竹やぶの中で咲くツルニチチソウの花です。日陰でもよく育ちます。

キカラスウリ

黄鳥瓜

神

Trichosanthes kirillowii

ウリ科 カラスウリ属

北海道～沖縄

10m

つる性の多年草で河川沿いや山麓、荒地などに自生し、明石川水系では中流や支流の川沿いに生えています。

雌雄異株で花は主に夜に咲き5弁の白い花の先端は糸状に細裂していて、とてもおしゃれです。

キカラスウリはカラスウリに似て黄色い実をつけることから名づけられ、明石川中流や中流で合流する支流では、カラスウリよりもキカラスウリの方が多いです。

実は食べることが出来ます。(藤澤太一)



キカラスウリの花 (絵・佐野こころ)



明石川中流の河川沿いに咲いているキカラスウリです。花は主に夜咲きますが、昼も咲いています。



花の写真です。白い花の先端は糸状に細かく裂けていて、とてもおしゃれです。

ヨシエビ

葦 虫 蝦

明

Metapenaeus ensis

クルマエビ科 ヨシエビ属

関東地方より南

15~18cm

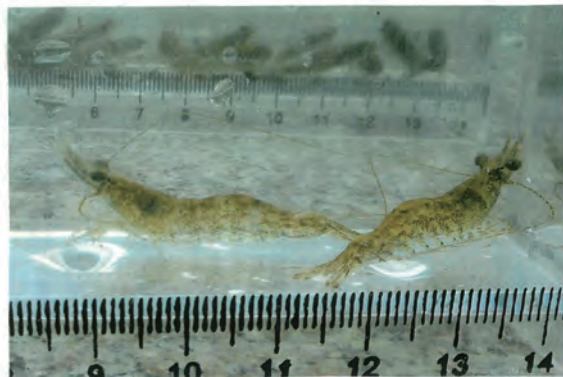
内湾や汽水域の砂泥底に生息し、明石川では河口付近の流れによって深くなった橋脚まわりの泥底に多くいます。

海~河口にいて、明石川下流の淡水域まで進入してくることはありません。

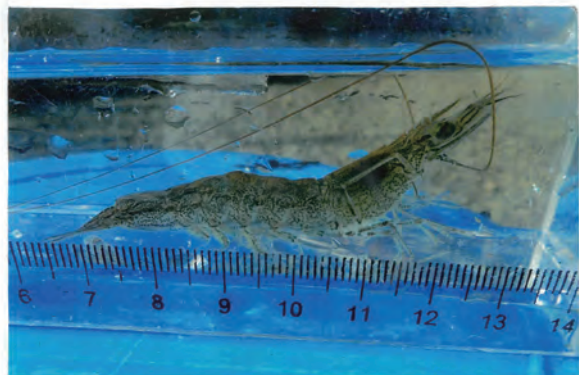
食用としても売られています。(西岡 龍之介)



ヨシエビ (絵・永田 惇人)



明石川河口付近で捕まえたヨシエビの幼体です。海水~汽水域にいます。



観察ケスに入れて観察しました。ヨシエビは明石川水系では河口付近でしか捕れません。

ウシエビ

牛蝦

明

Penaeus monodon

クルマエビ科 ウシエビ属

東京湾より南

30 cm

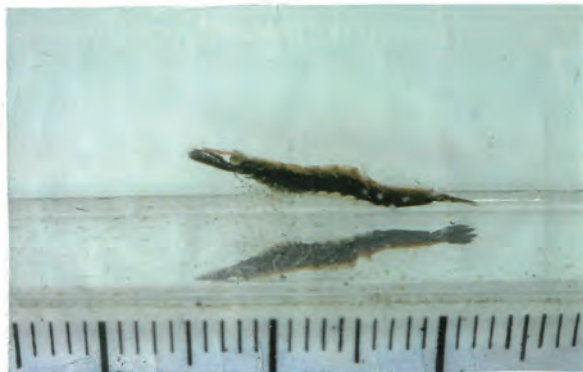
インド太平洋の熱帯や亜熱帯地域に分布していますが、西日本にも生息し、明石川河口付近でも発見しました。

明石川では年々捕れる数が増えている、地球温暖化や海水温上昇が影響している可能性もあります。

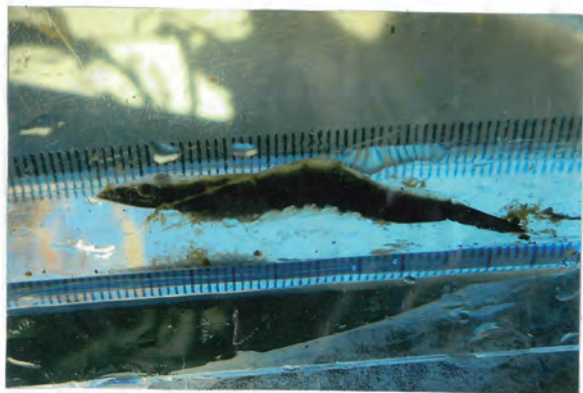
主に海域にいますが、汽水域や淡水域にも進入します。クルマエビに似ていますが全体的に黒く、別名のブラックタイガーとして食用に養殖もされています。(西岡 龍之介)



ウシエビ (絵・永田 惇人)



干潮の明石川河口付近で捕まえたウシエビの幼体です。ウシエビが明石川にいるとは思いませんでした。



上の写真とは別個体のもう少し成長したウシエビの幼体です。海水温が高くなっているからなのか、時々下流～河口で捕れるようになりました。

テナガエビ

手長蝦

神 明

Macrobrachium nipponense

テナガエビ科 テナガエビ亜科 テナガエビ属

本州、四国、九州

10 cm

明石川水系では、源流～河口近くまでの広い範囲、そして多くの支流やその用水路など様々な場所に生息しています。

流れが弱い多少石がある砂底が好きですが環境の変化に強く、時には流れのないヘドロが溜まっている汚いコンクリート張りの用水路などにもいます。

ヒラテナガエビや、ミミテナガエビよりも足が細くて弱く、足の爪が長いです。(西岡 龍介)



テナガエビ (絵・永田 惇人)



明石川下流で捕れたテナガエビの成体です。胸にはm字型のようなぼやけた模様があります。



明石川中流で捕れたテナガエビの成体です。ミミテナガエビよりも足の爪が長いです。

ミナミテナガエビ

南手長蝦

明神

Macrobrachium formosense

テナガエビ科 テナガエビ亜科 テナガエビ属

福島県、福井県より西の本州、四国、九州

10cm

神戸市Cランク

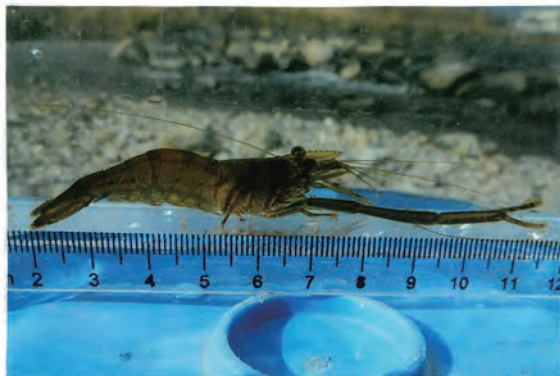
明石川水系では中流～下流や支流の伊川に生息しています。

テナガエビととてもよく似ていますが、テナガエビよりも胸のM字型の模様がはっきりしていて、足の爪の長さも短いです。

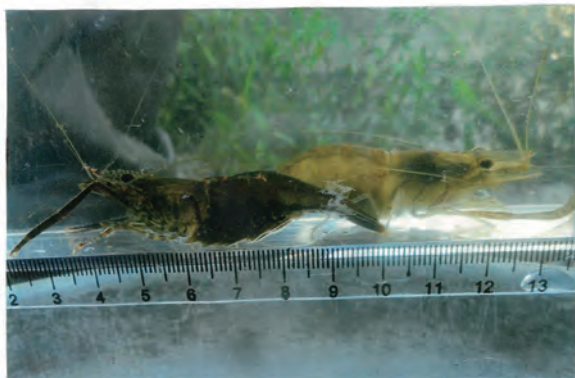
ヒラテナガエビより下流にいることが多く、足の爪の長さはヒラテナガエビよりも長く、テナガエビよりも短く、性質は中間くらいです。(西岡龍介)



ミナミテナガエビ (絵・永田 惇人)



明石川下流で捕れたミナミテナガエビの成体です。テナガエビよりも足の爪が短いのも特徴です。



明石川下流で捕れたミナミテナガエビの成体のペアです。胸のM字型の模様がはっきりしているのも特徴です。

ヒラテテナガエビ

平手手長蝦

神 明

Macrobrachium japonicum

テナガエビ科 テナガエビ亜科 テナガエビ属

千葉県より南の本州、四国、九州

7~9cm 兵庫県Aランク
神戸市Bランク

明石川水系では、中流～下流や支流の伊川や櫛谷川などに生息していて、ミナミテナガエビよりも上流まで遡り、浅くて石が多くて流れが早い瀬淵が好きで、石の下にかくれています。

足が強くて陸上でも歩こうとします。

神戸市Bランクですが、明石川中流～下流には多く生息しています。(西岡龍介)



ヒラテテナガエビ(絵・永田 惇人)



明石川中流で捕れたヒラテテナガエビの成体です。第2胸脚が長くて太く平たくなっていて、足も太くて丈夫でタモ網で捕ると登ってくることもあります。



明石川中流で捕れたヒラテテナガエビの成体のペアで上がオスで下がメスで第2胸脚(はさみ足)の大きさが違います。胸に縦糸高模様が有り足の爪は短いです。

スジエビ

筋蝦

(神)(明)

Palaemon paucidens

テナガエビ科 テナガエビ亜科 スジエビ属
北海道～九州、種子島、屋久島

3.5cm～5cm

明石川水系では中流～下流、支流、用水路などにも生息しています。

テナガエビ属は川底の石の下にかくれていることが多いのに対して、スジエビは水中の草の茂みの中にかくれていることが多いです。

体に7本のスジがあり、複眼が飛び出ているように見えるのが特徴です。(西岡 龍之介)



スジエビ (絵・永田 惇人)



平野大池の用水路で捕まえたスジエビの未成体です。
明石川本流の堰の下や用水路で大量発生します。



明石川中流で捕まえたスジエビのメスの成体です。
お腹に卵を抱えています。

ミゾレヌマエビ

曇沼蝦

明神

Caridina leucosticta

ヌマエビ科 ヒメヌマエビ亜科 ヒメヌマエビ属

新潟県・千葉県より西の本州、四国、九州
南西諸島

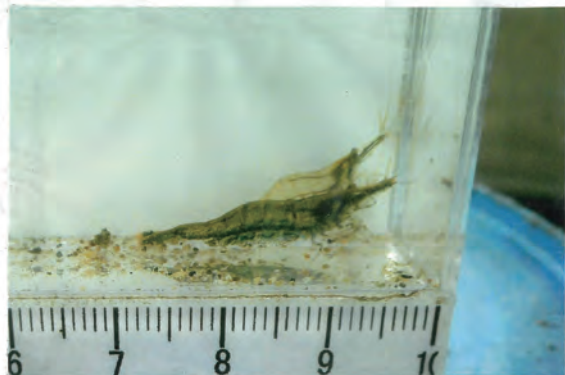
2cm~3cm

明石川下流の草の茂みに多く生息し、支流の伊川や
明石川中流にも数は少ないですが生息しています。

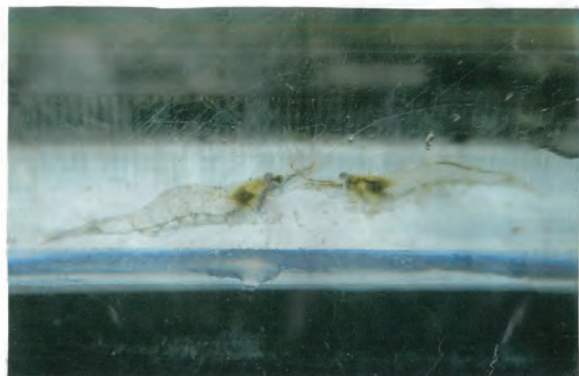
透明感のある、きれいで細長いヌマエビでカワリヌマ
エビ属に比べて少し弱く、カワリヌマエビ属よりは飼い
にくいヌマエビです。(西岡龍介)



ミゾレヌマエビ (絵・永田惇人)



明石川下流で捕まえたミゾレヌマエビです。下流の
流れの弱い草の茂みにはたくさんいます。



明石川中流で捕まえたミゾレヌマエビです。数は
多くありませんが、中流にもカワリヌマエビ属と共に
ミゾレヌマエビも捕れます。

カワリヌマエビ属

変わり沼蝦

神 明

Neo caridina

ヌマエビ科 カワリヌマエビ属

日本各地

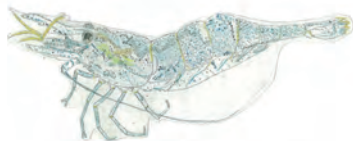
2~3 cm

外来種

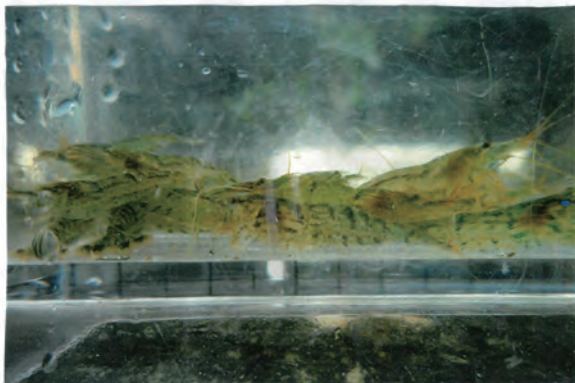
明石川水系の本流や支流、用水路などにとても多く、住宅地の水路にもいます。

釣り餌のフツエビとして、飼育用のミナミヌマエビとして中国や韓国から輸入されたものが逃げたり放流されたものが増えたと言われてますが詳細は不明です。

色や模様は変化が多く、在来種のミナミヌマエビにとても良く似ています。(西岡 龍え介)



※イラストはミナミヌマエビです (絵・永田 惇人)



明石川支流の田中川用水路で捕まえたカワリヌマエビ属の未成体~成体です。明石川水系にはとてもたくさんいます。



明石川水系の平野大池用水路で捕まえたカワリヌマエビ属の成体です。オスよりメスの方が大きくなります。

アメリカザリガニ

米国螯蛄

神明

Procambarus clarkii

アメリカザリガニ科 アメリカザリガニ属

日本全国

特定外来生物 8~12 cm 兵庫県注意種

総合対策外来種

緊急対策外来種

神戸版ブラックリスト

外来生物種

泥の多い田んぼや用水路や池などの流れが緩やかな場所や流れのない場所に生息し、明石川水系では明石川本流よりも流れが緩やかな支流の細流や用水路や土砂で塞ぎ止められた魚道などに生息しています。

駆除を続けてきた結果 現在は減ってきています。

(北井 涼太)



アメリカザリガニ成体 (絵・弓削 朱花梨)



明石川水系の用水路で捕れたアメリカザリガニの幼体～未成体です。駆除を続けているので大きな成体が捕れることは少なくなりました。



以前に明石川中流の緩やかな流れの草の茂みで捕まえたアメリカザリガニの大きな成体です。



平野大池の用水路で久しぶりに捕れたアメリカザリガニのオスの成体です。



明石川支流の印路川源流で捕れたアメリカザリガニのメスの成体です。お腹に少ないですが幼体を抱えています。



以前、明石川支流の田中川で釣りで大量に釣り上げたアメリカザリガニです。ほとんどが成体でした。



釣れたアメリカザリガニは寄生虫予防のため30分茹でて身を取り出し、天ぷらやエビチリ(サリチリ)にして美味しくいただきました。

クロベンケイガニ

黒弁慶蟹

明

Orisarma dehaani

ベンケイガニ科 クロベンケイガニ属

本州より南

3cm 兵庫県Cランク

神戸市Cランク

明石川水系では下流～河口に生息していて、石組みの間や泥の中に穴を掘って生活しています。

見かける確率は、水の中よりも湿った陸上の方がかなり高く、下流～河口の土手や水辺から少し離れた道や公園や野原などでも見かけることがあります。(神田大和)



クロベンケイガニ (絵・弓削朱花梨)



冬に明石川下流の伊川合流点付近の土手でキクイモの駆除をしていて土中の部屋にいるのを見つけたクロベンケイガニの成体です。冬眠していることを知りました。



明石川下流の石組みの隙間に隠れていたクロベンケイガニの成体です。湿っていますが水のない場所です。

オオヒライソガニ

大平磯蟹

明

Varuna litterata

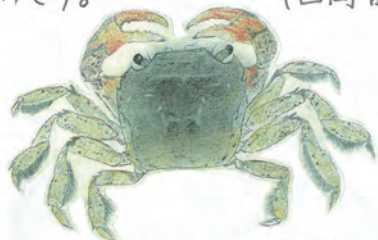
モズガニ科 オオヒライソガニ属

インド洋・太平洋海域

5 cm

体が平べったくて、モズガニに似ています。
明石川下流の茂みにいまげが、ハサミではなく足にやわらかい毛が密に生えていました。

2021年11月に明石川下流で初めて捕れたメスの成体の標本の生殖口が卵形の突出したボタンのような形状から神戸市環境局の土井さんがオオヒライソガニと同定してくださいました。2023年12月の時点で、オオヒライソガニと同定されたのは、この1匹だけです。
(西岡龍介)



オオヒライソガニ(絵・永田惇人)



明石川下流の伊川合流点付近の明石川右岸の茂みにいたオオヒライソガニの成体です。



明石川で初めて捕れたので標本にして、兵庫県立人と自然の博物館に標本登録されています。

台湾オオヒライソガニ

台湾大平磯蟹

明神

Varuna yui

モクズガニ科 オオヒライソガニ属

インド洋 太平洋海域

情報不足 5 cm

2022年7月に明石川下流でオオヒライソガニ属では2匹目に捕れたメスの未成体の標本の生殖口が小さな低いオタンのような形状の上に半円形のふたがあり、また2023年7月にはオスの未成体も捕れ第1腹肢の先が切れ込んでいることから神戸市環境局の土井さんがいずれも台湾オオヒライソガニと同定してくださいました。

明石川下流の伊川合流点付近ではオオヒライソガニ属のメガロパ幼生～幼体がたくさん捕れるようになりましたが、その多くが台湾オオヒライソガニのようです。(佐野 ころ)



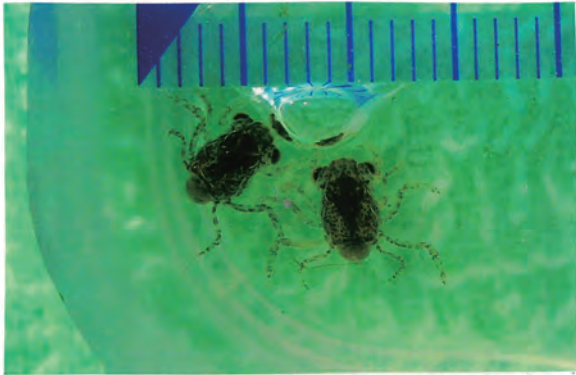
台湾オオヒライソガニ (絵: 永田 惇人)



明石川下流の伊川合流点付近の明石川左岸の浅瀬を歩いていた台湾オオヒライソガニの未成体です。



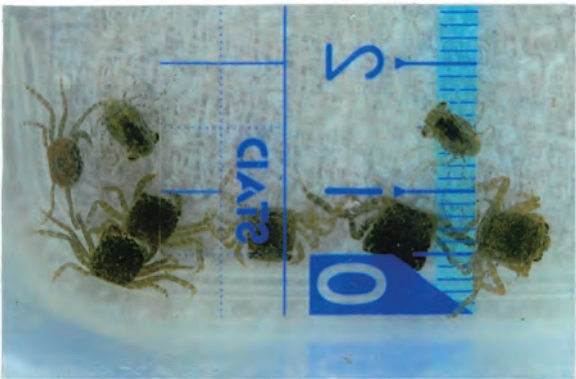
明石川で捕れた2匹目なので標本にして、兵庫県立人と自然の博物館に標本登録されています。



2023年11月に明石川下流の伊川合流点付近で捕れた
オヒライソガニ属のメガロパ幼生です。



2024年1月には全て幼体になりました。その多くが
台湾オヒライソガニのようです。



2023年11月～12月は明石川下流でメガロパ幼生から
幼体に成長することもわかってきました。



春近くになると、こんなに大きくなりました。晩秋～
初冬にかけてメガロパ幼生から幼体に成長し、春から
先はさらに成長し成体になっているみたいです。

台湾ヒライソモドキ

台湾平磯擬

明

Ptychognathus ishii

モクズガニ科 ヒライソモドキ属

静岡県より西の本州太平洋岸 四国、九州、沖縄

10~15mm

兵庫県Bランク

原産は台湾付近で、暖かい地方の汽水~内湾に生息して、明石川水系では汽水域の下流~河口の石の下にいます。

ケフサイソガニに似ていますが、ハサミ脚の指の元には長い軟毛が幅広く密生し、歩脚にも毛が生えています。

(藤澤 太一)



台湾ヒライソモドキ (絵・藤澤 太一)



明石川下流の河口に近い汽水域の石の下にいたのを捕まえた台湾ヒライソモドキです。



上の写真とは別個体の台湾ヒライソモドキです。2024年に発見しましたが、以前は似ているケフサイソガニと混同していた可能性があります。

モクズガニ

藻屑蟹

(神 明)

Eriocheir japonica

モクズガニ科 モクズガニ属

小笠原諸島を除く日本全国

7~8 cm

明石川本流や支流の伊川、櫛谷川、田中川、福知川などどこでもよく見かける大きめのカニです。

支流の用水路や水路にもいますが、成体になると海に下り、海で産卵します。

生まれた幼生は海でプランクトンとして成長し、幼体となって水底に降り川を遡ります。

はさみに藻の屑のような毛が生えているのが特徴です。
(藤澤 太一)



モクズガニ(絵・弓削 朱花梨)



脱皮したばかりのモクズガニのオスです。脱皮直後のモクズガニのはさみの毛は白いです。



明石川中流で捕れたモクズガニの成体です。この個体も脱皮して間がなく、甲羅がやわらかくまだ脱力感があります。

サワガニ

沢蟹 (神)

Geothelphusa dehaani

サワガニ科 サワガニ属

青森県～トカラ列島

2～3cm

日本固有種で一生を淡水で過ごす純淡水性のカニで、明石川水系では源流～上流に生息していて、支流の蛇谷川源流や印路川源流や福知川、時には校区内の櫛谷川のニッ屋橋～若宮橋付近で見つかることもあります。

水のきれいな場所が大好きで、きれいで冷たい本流の川の水が流れ込む用水路なら、用水路にもたくさん生息しています。(佐野こころ)



青いサワガニ (絵、弓削 朱花梨)



明石川支流の櫛谷川のニッ屋橋付近にいたサワガニの成体です。近づいたらすぐに逃げました。



高知県宿泊研修の時に高知県の国分川上流の支流の新改川にいた青いタイプのサワガニの成体です。とてもきれいな色でした。

アオモンイトトンボ

青紋系蜻蛉

神 明

Ischnura senegalensis

イトトンボ科 アオモンイトトンボ属

本州、四国、九州、南西諸島

19~22mm

河川や池に生息し、明石川水系では上流~河口近くまで幼虫がいます。

卵から生まれた幼虫は1か月半~8か月位で羽化します。

ハグロトンボの幼~若齢期の幼虫と感じがよく似ています。

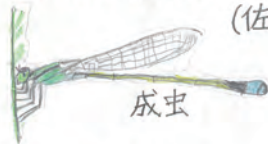
オスの成虫は尻尾の先が青く、メスの成虫はオスの成虫と同じ色のタイプと違うタイプがあり、羽化をして成虫になったばかりの頃は、きれいなオレンジ色の個体もいます。

尻尾のえらを横から見ると、鳥の羽のような形をしています。

(佐野ころ)

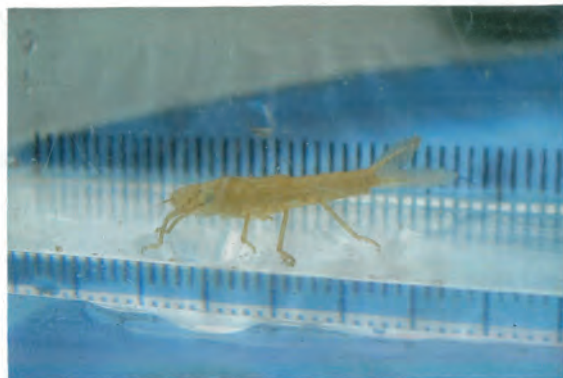


幼虫



成虫

アオモンイトトンボ (絵、藤澤 太一)



明石川中流の流れの緩やかな草の茂みで捕まえたアオモンイトトンボの幼虫です。河口近くにもいます。



明石川支流の榎谷川の河川敷の草の茂みにいたのを捕まえたアオモンイトトンボの成虫です。小さくてあまり目立たないけれどたくさんいます。

ハグロトンボ

羽黒蜻蛉

神 明

Atrocalopteryx atrata

カワトンボ科 アオハグトンボ属

本州、四国、九州

35 ~ 46 mm

水草が多い河川の中流に生息し、明石川水系では上流～下流や支流にとてもたくさんの幼虫がいます。

卵から生まれた幼虫は1～2年位で羽化します。

幼虫はヤゴの種類の中では弱々しく見え、体をゆらゆら左右に振って泳ぎます。

羽化した成虫は黒い羽をひらひらさせてゆるやかに飛び、しばらくは暗い林の中などで生活し、成長したら元の水辺に戻ってきます。(北井涼太)



ハグロトンボ (絵・藤澤太一)



明石川支流の櫛谷川で捕まえたハグロトンボの幼虫です。水辺に草がたくさん生えている明石川水系にはたくさんいます。



夏の朝早く明石川中流に来ると、水辺の朝露の入った草の葉に留まって休んでいるハグロトンボの成虫をよく見かけます。

アサヒナカワトンボ

朝比奈川蜻蛉

神

Mnais pruinosa

カワトンボ科 カワトンボ属

本州、四国、九州

5cm

山地や郊外の木に覆われた溪流や細流に生息し、明石川水系では支流の印路川源流や福知川、蛇谷川源流などにいます。

幼虫はハグロトンボの幼虫を太く短くした感じで、成虫は春早くから飛び始めます。

幼虫も成虫も小さな虫を食べる肉食です。(北井 涼太)



幼虫

成虫

アサヒナカワトンボ (絵・藤澤 太一)



明石川支流の蛇谷川の源流付近で捕まえたアサヒナカワトンボの幼虫です。



明石川支流の蛇谷川の源流付近の沢沿いの山道にいたアサヒナカワトンボの成虫です。幼虫も成虫も感じがハグロトンボに似ています。

キイロサナエ

黄色早苗蜻蛉

神 明

Asiagomphus pryeri

サナエトンボ科 アジアサナエ属

本州、四国、九州

33 ~ 37mm

準絶滅危惧

兵庫県 Bランク
神戸市 Cランク

河川の上流～中流に生息し、明石川水系では源流～下流に幼虫がいます。

卵から生まれた幼虫は2～4年位で羽化します。

ヤマサナエの幼虫ととてもよく似ていますが、ヤマサナエの腹部第9節の幅が広がっているのに対して、キイロサナエの腹部第9節は幅が狭く細長くなっています。(神田大和)



成虫

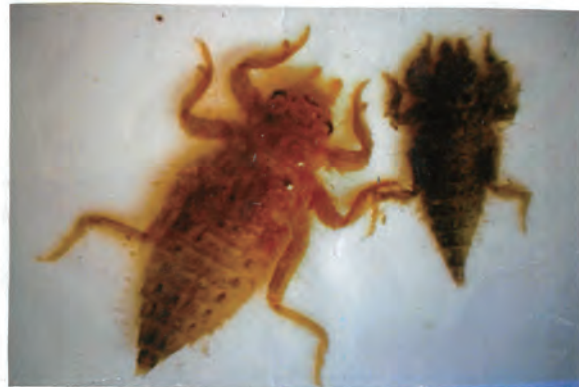


幼虫

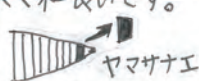
キイロサナエ (絵・藤澤 太一)



明石川支流の印路川源流で捕まえたキイロサナエの幼虫です。源流付近は幼虫が好む砂泥底で多くいます。



左がヤマサナエで、右がキイロサナエです。ヤマサナエの腹部第9節は幅が広いですが、キイロサナエは幅が狭く細長いです。



コオニヤンマ

小鬼蜻蛉

神 明

Sieboldius albardae

サナエトボ科 コオニヤンマ属

北海道 本州 四国 九州

36~40mm

河川の上流~中流に生息し、明石川水系では源流~下流に幼虫がいます。

卵から生まれた幼虫は2~4年位で羽化します。

幼虫は黒くて平べったく川底で朽ちた枯れ葉にそくりに、成虫はオニヤンマを小型にした感じで 頭部が体に比べて小さいのが特徴です。(佐野ころ)



コオニヤンマの幼虫(絵・永田 惇人)



明石川中流で捕まえたコオニヤンマの幼虫です。枯れて川底で黒くなった葉にとてもよく似ています。



高知県宿泊研修の時に高知県の国分川上流の支流の新改川で捕まえたコオニヤンマの成虫です。川の上をパトロールしながら3匹位飛んでいました。

ウチフヤンマ

団扇蜻蜓

神

Sinictinogomphus clavatus

サナエトンボ科 ウチフヤンマ属

本州、四国、九州

38～44 mm

開けた湖や大きな池などに生息し、明石川水系では平野大池に幼虫がいます。

卵から生まれた幼虫は1～2年位で羽化します。

腹部第8節に団扇のような突起があり、団扇は大きく中に黄斑があります。

開けた場所において、オスの成虫は見張りをしています。(西岡龍介)



幼虫



成虫

ウチフヤンマ (絵・弓削 朱花梨)



ウチフヤンマの抜け殻です。幼虫は深い所にいるためなかなか捕れません。



平野大池の水辺にいたウチフヤンマの成虫です。飛んだり休んだりを繰り返していました。

台湾ウチワヤンマ

台湾団扇蜻蛉

明

Ictinogomphus pertinax

サナエトンボ科 台湾ウチワヤンマ属

関東より西の本州、四国、九州、南西諸島

25 ~ 30 mm

草が茂る大きな池などに生息し、明石川水系では明石川下流の工事で河原が湿地のようになった所に幼虫がいます。

卵から生まれた幼虫は1~2年位で羽化します。

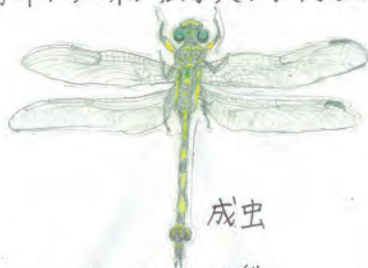
腹部第8節に団扇のような突起があり、団扇は小さく中に黄斑はなく黒色です。

ウチワヤンマの幼虫は深い所にいてなかなか捕れませんが、台湾ウチワヤンマの幼虫は浅い所にいるので捕ることが出来ます。

地球温暖化の影響で分布が北東に広がっています。(西岡龍介)



幼虫



成虫

台湾ウチワヤンマ (絵: 弓削 朱花梨)



台湾ウチワヤンマの幼虫が捕れた明石川下流の河原が湿地のようになった所です。(左側)



明石川下流で捕れた台湾ウチワヤンマの幼虫です。台湾ウチワヤンマの幼虫は、ウチワヤンマの幼虫に比べて浅い所に生息しています。

オニヤンマ

鬼蜻蜒

神

Anotogaster sieboldii

オニヤンマ科 オニヤンマ属

北海道、本州、四国、九州、沖縄島より北の南西諸島

42~51 mm

河川の上流~中流や細流や湿地などに生息し、明石川水系では源流~上流や支流の細流などに幼虫がいます。

卵から生まれた幼虫は3~4年位で羽化します。

明石川が増水した時には幼虫が中流まで流されてくることもあります。

日本のトンボの中で最も大きく、オスの成虫は同じiltを行ったり来たりしてパトロールをしながら見張りをしています。(西岡 龍之介)



幼虫



成虫

オニヤンマ (絵・永田 惇人)



明石川支流の印路川源流で捕まえたオニヤンマの幼虫です。オニヤンマの幼虫期間は3~4年位と長く、世代の違う幼虫が捕れました。



大雨で増水した後に明石川中流に流されてきたのを捕まえたオニヤンマの幼虫です。オニヤンマは成虫が大きいので幼虫も大きいです。

ギンヤンマ

銀蜻蜒

神 明

Anax parthenope

ヤンマ科 ギンヤンマ属

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

45~51mm

開けた池や緩やかな流れのある場所に生息し、明石川水系では上流~下流や支流、玉津第一小学校のビオトープにも幼虫がいます。

卵から生れた幼虫は2~9か月位で羽化します。

幼虫は下あごを瞬間的に伸ばして獲物を捕まえます。

オスの成虫はなわばりが広くパトロールをしながら見張っていて、他のオスを見つけると激しく攻撃します。(北井 涼太)



幼虫



成虫

ギンヤンマ(絵、藤澤太一)



朝、明石川支流の田中川の用水路沿いの駐車場で見つけた羽化したばかりのギンヤンマの成虫です。



明石川中流で捕まえたギンヤンマの幼虫です。明石川水系には餌となる水生昆虫やヌマエビやオイカワの幼魚などが多く、ギンヤンマの幼虫も多いです。



玉津第一小学校のビオトープで見つかったギンヤンマの抜け殻です。毎年たくさん羽化します。



国道175号線沿いの明石川中流に合流する用水路で産卵するギンヤンマの成虫のペアです。



明石川支流の櫛谷川で捕れたカラフルな縞模様のギンヤンマの幼虫です。櫛谷川にはたまにいます。



明石川支流の田中川の用水路で捕れたギンヤンマの幼虫です。黒いヘドロの中に入っていたためか黒い色をしていました。

コボソヤンマ

腰細蜻蛉

神

Boyeria maclachlani

ヤンマ科 コボソヤンマ属

北海道、本州、四国、九州

39~45mm

河川の源流~上流に生息し、明石川水系では源流~中流や支流の細流などに幼虫がいます。

卵から生まれた幼虫は1年6か月~2年位で羽化します。

幼虫は捕まえられると体を反らして固まって、擬死という死んだふりをするのも特徴の一つです。

成虫の腹部第3節がとても細く狭くなっていて、腰が細く見えることからコボソヤンマと名前がつけられています。(藤澤太一)



幼虫



成虫

コボソヤンマ (絵・藤澤太一)



コボソヤンマの幼虫は捕まえると足を縮め体を反らして固まって、擬死という死んだふりをします。



明石川中流で捕れたコボソヤンマの幼虫です。中流でも時々捕れますが、源流~上流に多くいるので、大雨の増水の時に流されてくるようです。

ウスバキトンボ

薄羽黄蜻蛉

神 明

Pantara flavescens

トンボ科 ウスバキトンボ属

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

22~27mm

田んぼや池や湿地や学校のプールなどに幼虫が生息し、明石川水系では用水路や水路などの流れが緩やかな場所にいます。

卵から生まれた幼虫は1か月~2か月位で羽化します。

初夏の頃から現れて7月の終わりから8月のお盆の頃に最も数が増えるウスバキトンボは精霊トンボとも呼ばれ、世界中の熱帯や亜熱帯や温帯に分布しますが、寒さに弱く幼虫が越冬できないため明石川水系では冬に死滅します。

それでも毎年、自分で海を飛んで渡って日本に来て、夏の暑い時期に繁殖を繰り返しています。(北井 涼太)



ウスバキトンボ (絵・弓削 淳翔)



明石川支流の田中川の用水路で捕れたウスバキトンボの幼虫です。中肢と後肢の先が黒いのも特徴の一つです。



明石川中流の土手の木の枝で休んでいるウスバキトンボの成虫です。7月の終わりから8月頃は明石川の空にたくさんのウスバキトンボが飛んでいます。

シオカラトンボ

塩辛蜻蛉

神 明

Orthetrum albistylum

トンボ科 シオカラトンボ属

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

19~24 mm

池や湿地や田んぼや河川の淀みなどに生息し、明石川水系では上流~下流や支流、泥が多くて汚いと思うような用水路などにもたくさん幼虫がいます。

卵から生まれた幼虫は2~8か月位で羽化します。

よく似ているオオシオカラトンボの幼虫とは背棘がないことで見分けられ、成虫は水辺だけでなく校区内の住宅地の中の田んぼにもふつうにいます。(北井涼太)



幼虫



成虫(オス♂)

シオカラトンボ (絵、藤澤太一)



明石川支流の田中川の用水路で捕まえたシオカラトンボの幼虫です。藻や泥の中にいました。



明石川中流の土手で休んでいたシオカラトンボのオスの成虫です。しばらくして飛んで行きました。

コフキトンボ

粉吹蜻蛉

明

Deilelia phaon

トンボ科 コフキトンボ属

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

20~23mm

背の高い水生植物がたくさん生えている池や流れが緩やかな水路などに生息し、明石川水系では明石川下流の河原が河川工事で掘り返された後に草が生えて湿地のようになった所に♀がいます。

卵から生まれた幼虫は3か月~1年位で羽化します。

成虫はシオカラトンボを小さくしたような感じで、成熟すると粉を吹いたようになることからコフキトンボと名前がつけられました。

(西岡龍介)



幼虫



成虫

コフキトンボ (絵・藤澤太一)



明石川下流の工事で河原が湿地のようになった場所で捕れたコフキトンボの幼虫です。



成虫はシオカラトンボに似ていますが、幼虫も感じがシオカラトンボに似ています。足の縞模様がよく目立ちます。

コオイムシ

子負虫

(神)(明)

Appasus japonicus

コオイムシ科 コオイムシ属

北海道、本州、四国、九州、対馬

1.7 ~ 2.6 cm

準絶滅危惧

水生植物が多い開けた止水域を好みですが、明石川水系では上流～下流や支流、用水路の淀みの茂みの中に多く生息しています。

卵を背中に背負っている成虫が時々捕れますが、メスがオスの背中に卵を産んでオスが大切に育てるので、卵を背負っているのはメスではなくオスです。

成虫とそっくりな小さな幼虫がたくさん捕れることもあり、最近をよく増えています。(北井涼太)



コオイムシ成虫 (絵: 永田 惇人)



明石川中流の流れの弱い茂みで捕れたコオイムシの成虫です。1匹捕れると次々に見つかる場合が多いです。



学校で飼っていたコオイムシが卵孵化しました。生まれたきた幼虫は共食いをしないように1匹ずつ紙コップに入れてヌマエビの小さな幼体を餌にして大切に育て、成虫を捕まえた元の場所にリリースしました。

タイコウチ

太鼓打虫

神

Laccotrepes japonensis

タイコウチ科 タイコウチ属

本州～沖縄

3cm～4cm

太鼓を打つように前足を交互に動かすため、タイコウチと呼ばれています。

呼吸管の長さは体長と同じ長さで、水生昆虫やオタマジャクシや小魚などの体液を吸う肉食です。

明石川水系では草の茂みなどに生息していて、最近ではほとんど見なくなりましたが、2024年5月に明石川中流で確認しています。

(西岡龍之介)



タイコウチ成虫 (絵・永田 惇人)



泥の多い用水路の藻の中にいたのを捕まえたタイコウチの成虫です。呼吸管が分かれています。



明石川中流の流れの弱い草の茂みで捕まえたタイコウチの成虫です。捕れるのはいつも草の茂みの水面近くの浅い所です。

ミズカマキリ

水 蝸 螂

(神)(明)

Ranatra chinensis

タイコウチ科 ミズカマキリ属

日本全国

神戸市要調査

4cm~5cm

田んぼや池沼に生息していますが、明石川水系にも生息して、2022年10月に明石川中流の溜まりで初めて捕れ、その後は明石川支流の福知川や明石川下流でも捕れています。

水生昆虫やオタマシクシや小魚などの体液を吸う肉食で、呼吸管の長さが体長と同じか体長より少し長いので、大きさ以外でもヒメミズカマキリと見分けられます。

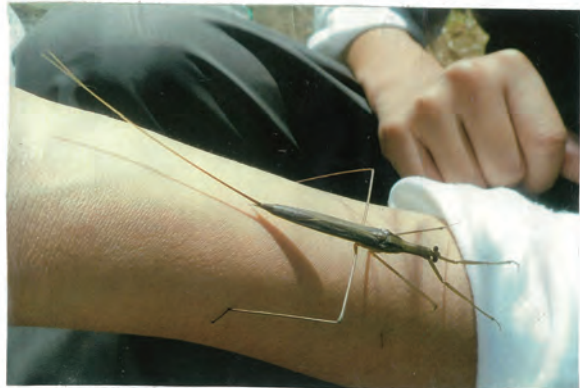
明石川ではヒメミズカマキリよりも個体数はかなり少ないです。(西岡 龍介)



ミズカマキリ成虫(絵・永田 惇人)



明石川で初めて捕れたミズカマキリ(成虫)です。明石川中流の溜まりで捕れました。ヒメミズカマキリより大型で、呼吸管が体長と同じ位か、それより少し長いです。



明石川下流の汽水域で捕れたミズカマキリの成虫です。呼吸管の先が2つに分かれています。

ヒメミズカマキリ

姫水端蟷螂

神 明

Ranatra unicolor

タイコウチ科 ミズカマキリ属

日本全国

2.5cm ~ 3cm

明石川水系の中流～下流、支流、用水路にも生息し、田んぼや池沼にいるミズカマキリと違って、明石川水系の流れの弱い草の茂みにいます。

タイコウチやミズカマキリは、水生昆虫やオタマジャクシや小魚などの体液を吸いますが、ヒメミズカマキリはアメンボやミズムシなどの水生昆虫が主です。

明石川水系ではミズカマキリよりも個体数が多くて、まとめて捕れることが多く、呼吸管の長さが体長よりも短いです。

(西岡 龍之介)



ヒメミズカマキリ成虫 (絵・永田 惇人)



平野大池用水路で捕まえたヒメミズカマキリの成虫です。ミズカマキリよりも小さく呼吸管も短いです。



明石川中流の流れの弱い草の茂みで捕まえたヒメミズカマキリの成虫です。1匹捕れたらその近くを探すと何匹も捕れることが多いです。

チラカゲロウ

ちら 蜉蝣

神

Isonychia japonica

チラカゲロウ科 チラカゲロウ属

日本全国

2 cm

上流～中流にかけて広く分布していますが、明石川では源流～上流の流れが早いところに生息しています。

チラカゲロウは前足に長い毛が生えていて、この長い毛で流れてくる小さな餌をひっかけて食べています。(西岡龍之介)



チラカゲロウ幼虫 (絵・永田小享人)



明石川支流の蛇谷川の源流付近で捕まえたチラカゲロウの幼虫です。明石川水系では源流～上流に生息していて中流ではほとんど見られません。



写真でも前足に長い毛が生えているのがよくわかります。流れの早い所でこの長い毛を使って流れてくる餌をひっかけて食べています。

モンカゲロウ

紋蜉蝣

神

Ephemera strigata

モンカゲロウ科 モンカゲロウ属

北海道、本州、四国、九州

2 cm

中流に分布していますが、明石川では源流～上流の流れのゆるやかなところに生息しています。

幼虫はいつも石の中にもぐっていて、成虫の前翅には黒い帯状の紋があります。(西岡 龍え介)



モンカゲロウ幼虫
(絵・藤澤 太一)



明石川支流の虫谷川の源流付近で捕まえたモンカゲロウの幼虫です。明石川水系では源流～上流に生息していて中流ではほとんど見られません。



明石川支流の虫谷川の源流付近で捕まえたモンカゲロウの亜成虫です。まわりでもたくさん羽化していました。

シロタニガワカゲロウ

白谷川蜉蝣

(神)(明)

Ecdyonurus yoshidae

ヒラタカゲロウ科 タニガワカゲロウ属

本州、四国、九州

1cm~1.5cm

明石川水系の上流~中流の流れのある場所に生息し、平べったい形をして石の下にいて、石の表面を這うように動き、石などに生える藻類を食べています。

季節や場所によって、たくさん捕れたり捕れなかつたりします。

頭の先端部分に白い小さな斑点が同じ間隔で4つ並んでいるのが特徴です。(西岡 龍介)



シロタニガワカゲロウ幼虫 (絵、永田 惇人)



明石川中流で捕れたシロタニガワカゲロウの幼虫です。3本の長い尾があり、写真ではわかりにくいですが、頭の先端に白い斑点が4つ等間隔に並んでいます。



明石川中流の川底の石をひっくり返して見つけたシロタニガワカゲロウの幼虫です。石を這うように動きます。時には明石川下流の伊川合流点付近でも見つかります。

タマリフタバカゲロウ

溜まり双翅蜉蝣

神

Cloeon ryogokuensis

コカゲロウ科 フタバカゲロウ亜科 フタバカゲロウ属

北海道、本州、四国、九州

6~8mm

幼虫は湖沼や河川敷の溜まりやプールなどに生息し、明石川水系では明石川中流の用水路が合流する所の溜まりになった場所で捕れました。

止水域にいて、流れのある明石川の本流や支流にはいません。(佐野こころ)



タマリフタバカゲロウ (絵: 駒板なみ)



明石川中流のタマリフタバカゲロウの幼虫が捕れた溜まりになった場所です。



3本の尾の中央の1本は両側の尾よりもやや短く、尾の2~3節おきに濃褐色の節があり、帯斑はありません。

フタバコカゲロウ

双翅小昆虫

神 明

Baetiella japonica

コカゲロウ科 フタバコカゲロウ属

北海道、本州、四国、九州

4~7mm

幼虫は上流~下流、湖沼などに生息し、明石川水系でも上流~下流や支流の榎谷川や伊川などにも生息しています。流れが早い浅い場所の石の下にいますが、ウデマガリコカゲロウやサホコカゲロウと比べて数が少ないです。

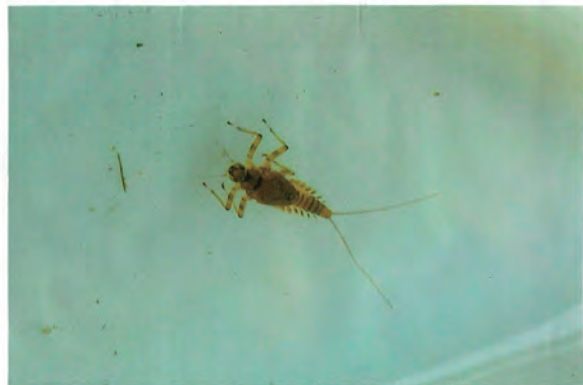
同じ長さの2本の尾があり、幼虫はウデマガリコカゲロウと同じく1年中見られます。(佐野ころ)



フタバコカゲロウ (絵、佐野ころ)



明石川中流の石の下にいるのを捕まえたフタバコカゲロウの幼虫です。明石川本流の他に支流の榎谷川や伊川にも生息しています。



長い2本の尾があります。尾が短いミジカオフタバコカゲロウもいます。

ウデマガリコカゲロウ

腕曲がり小蜉蝣

神明

Baetis flexifemora

コカゲロウ科 コカゲロウ属

北海道、本州、四国、九州

3～8 mm

幼虫は、付着藻類などを食べています。

幼虫は平地の上流～下流にかけて広く分布していますが明石川水系では中流～下流や支流の榎谷川や伊川などにも生息しています。

流れが早い浅い場所の石の下にたくさんいます。

(西岡 龍介)



ウデマガリコカゲロウ幼虫 (絵、永田 惇人)



明石川下流の石の上にいるウデマガリコカゲロウの亜成虫です。明石川本流の他に支流の榎谷川や伊川にも生息しています。



3本の尾の中央の本は両側の尾よりも短く、両側の尾の先には帯斑があります。

サホコカゲロウ

佐保小蜉蝣

神 明

Baetis sahoensis

コカゲロウ科 コカゲロウ属

北海道、本州、四国、九州

7~8mm

幼虫は河川の上流~中流に生息し、明石川水系では上流~下流や支流の櫛谷川や伊川などにも生息しています。

流れが早い浅い場所の石の下にいて、よくウデマガリコカゲロウと一系者にいますが、ウデマガリコカゲロウの幼虫は1年中見られるのに対してサホコカゲロウは冬の間見られない時期があります。(西岡 龍介)



サホコカゲロウ (絵・藤澤 太一)



明石川水系で多いコカゲロウ2種です。右上がウデマガリコカゲロウで、左下がサホコカゲロウです。



3本の尾の中央の1本は両側の尾よりもやや短く、真ん中あたりに3本とも帯斑があります。

シロハラコカゲロウ

白腹小蜉蝣

神

Baetis thermicus

コカゲロウ科 コカゲロウ属

北海道、本州、四国、九州

8mm

河川の上流～中流に生息し、明石川水系では源流～中流や支流の櫛谷川や印路川源流などに幼虫がいます。

幼虫は付着藻類などを食べています。

流れが早い場所の石の下や周りに多くいて、ウデマカリコカゲロウやサホコカゲロウよりもきれいで冷たい水を好みます。(西岡龍介)

若齢幼虫



成虫オス



成虫メス



幼虫



明石川中流の石の下にいるのを捕まえたシロハラコカゲロウの若齢幼虫です。明石川源流～中流の他に支流の櫛谷川や印路川源流にもいます。



3本の尾の中央の1本は両側の尾よりかなり短く、尾に帯斑がありません。

オトゲエラカゲロウ

大棘 鯰 蜉 蝣

神

Thraulys grandis

トビロカゲロウ科 トゲエラカゲロウ属

本州、四国、九州、沖縄

1 cm 兵庫県要注目
神戸市Bランク

丘陵地の落ち葉が溜まる流れのゆるやかな細流といった特殊な環境に生息するカゲロウで、明石川水系では支流の蛇谷川の源流付近で生息を確認しました。

頭は四角形で体は平たく、フサフサした魚鳃が特徴です。
(西岡 龍之介)



オトゲエラカゲロウ幼虫 (絵、弓削 朱花梨)



ゆるやかな細流や水溜まりの落ち葉の中など特殊な環境で生息しているカゲロウで、明石川支流の蛇谷川の源流付近にもいました。



流れのすぐ側の水溜まりのような止水環境に生息しているので、酸素を効率良く取り込むために魚鳃が発達しています。

オナシカワゲラ属

尾無川 螻蛄

神

Nemoura sp.

オナシカワゲラ科 オナシカワゲラ属

北海道、本州、四国、九州

8mm

幼虫は河川の上流～中流に生息し、明石川水系では支流の蛇谷川源流や印路川源流などの源流域に生息しています。

流れが穏やかな浅い場所の石の下や落ち葉の中において、落ち葉などを食べる草食です。

幼虫の時には2本の長い尾がありますが、名前の通り成虫の尾は短くてほとんど見えません。

春の早い時期から成虫に羽化します。(北井 涼太)



オナシカワゲラ属(絵・佐野こころ)



3月に明石川支流の印路川源流で捕まえた成虫です。春の早い時期から成虫に羽化します。



明石川支流の印路川源流の穏やかな流れの落ち葉の中においたオナシカワゲラ属の幼虫です。明石川水系では源流の細流に生息しています。

コガタシマトビケラ

小型 縞飛虫

神明

Cheumatopsyche brevilineata

シマトビケラ科 コガタシマトビケラ属

北海道, 本州, 四国, 九州, 沖縄

7mm

幼虫は河川の上流～中流や湖などに生息し、明石川水系では源流～下流や支流の櫛谷川や伊川などにも生息しています。

流れが早い浅い場所の石の下に巣を作り、流れてくる藻類や植物片などを食べています。

源流のとてもきれいな水質から下流の少し汚れた水質まで広く生息しています。(西岡 龍介)



幼虫



成虫

コガタシマトビケラ (絵・弓削 朱花梨)



コガタシマトビケラの幼虫は、頭の前の部分が凹んでいるので、他のシマトビケラ科と見分けることができます。



明石川中流の石の下にいるのを捕まえた幼虫です。時期や場所が合えば、とてもたくさん捕れます。

イブシアシガドロムシ

燻足長泥虫

神 明

Stenelmis nipponica

ヒメドロムシ科 アシガミゾドロムシ属

東海地方より西の本州、四国、九州、対馬

3mm

幼虫も成虫も川底で暮らし、明石川水系では中流～下流や支流の櫛谷川や伊川などの流れが早い瀬の石の下などにいます。

ヒメドロムシの中では少し汚れた水質でも大丈夫なので明石川水系でも多く生息し、小さなヒメドロムシの中では体長が大きい方なので見つけやすいです。(神田大和)



イブシアシガドロムシ (絵・北井涼太)



明石川下流と支流の伊川の合流点付近の瀬にいたイブシアシガドロムシの成虫です。



明石川支流の櫛谷川の早瀬にいたイブシアシガドロムシの成虫です。住宅地を流れる明石川水系の川にも多くいます。

ハイロゲンゴロウ

灰色源五郎

神 明

Eretes griseus

ゲンゴロウ科 ハイロゲンゴロウ属

北海道、本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島

1~1.7cm

水生植物がない開けた止水域を好みますが、明石川水系では中流~下流や支流、田んぼや水路などに生息しています。

栄養が多く水温の高い場所に多くいて、水から出るとすぐに飛ぶことができるので、時には雨のあとにできた水溜まりでも見られることがあります。

ハイロゲンゴロウは、捕まえて手のひらに乗せてすぐに「ブブブ」と震動を感じたら、それが飛び立つ合図です。(北井 涼太)

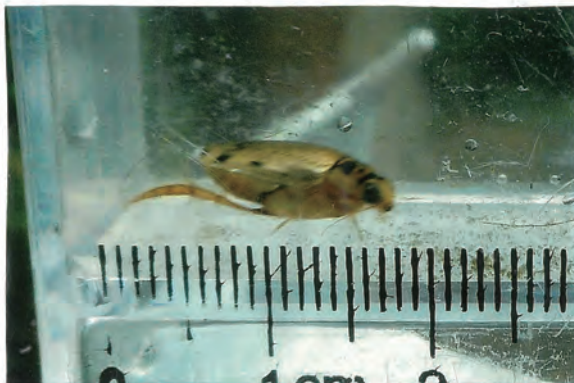


成虫



幼虫

ハイロゲンゴロウ (絵・藤澤 太一)



田んぼで捕まえたハイロゲンゴロウの成虫です。田んぼや学校のプールなど開けた場所にも多くいます。



明石川中流の流れの弱い茂みで捕れたハイロゲンゴロウの成虫です。1匹捕れると次々に見つかる場合が多いです。

コガムシ

小牙虫

神 明

Hydrochara affinis

ガムシ科 コガムシ属

北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島

16~18mm

情報不足

田んぼなどの浅い止水域に生息し、明石川水系では幼虫や成虫が流れのない水路や田んぼにいて、成虫は上流~下流の流れが弱い淀みの草が茂った場所にもいます。

腹側中央にあるトゲのような後胸腹板突起が牙のようにも見えることから牙虫(ガムシ)と名前がつけられました。

コガムシの生息数は、ガムシより多くヒメガムシやマメガムシより少ないです。(北井 涼太)



幼虫



成虫

コガムシ(絵・駒板 なみ)



腹側の真ん中に胸からお腹にかけてトゲのような後胸腹板突起があり、それが牙のようにも見えることから牙虫(ガムシ)と名前がつけられました。(写真はヒメガムシです)



明石川中流の流れが弱い淀みの茂みにいたコガムシの成虫です。足は赤褐色をしています。

ミナミタガイ

南田貝

神

Beringiana fukuharai

イシガイ科 ドブガイ属

西日本各地

10cm

神戸市Cランク

明石川水系では本流や支流ではなく、明石川に直接つながる用水路や支流の田中川につながる用水路、平野大池と明石川をつなぐ用水路など、様々な用水路に生息しています。

また、ミナミタガイがいる用水路にはタイリクバラタナゴもいます。

捕れる貝は成貝がほとんどで、幼貝～未成貝が見つからず心配でしたが、2025年6月の田中川用水路調査で少しですが幼貝～未成貝が見つかり安心しました。(西岡 龍介)



ミナミタガイ (絵: 弓削 朱花梨)



今までは捕れるミナミタガイはほとんどが成貝でしたが、2025年の田中川用水路調査では世代の違うミナミタガイが捕れました。



同じ田中川用水路で別の日に捕ったミナミタガイの成体です。分類頁の前はドブガイと呼ばれていて、名前の通りドブの中にいます。(右上の小さな貝は マッカサガイの成貝です)

イシガイ

石貝

神

Nodularia douglasiae

イシガイ科 イシガイ属

本州、四国、九州

9cm

兵庫県Cランク
神戸市Bランク

明石川水系では、明石川中流で合流している用水路のみで生息を確認しています。

その場所は砂底でオイカブやカマツカやヨシボリなどが生息しています。

捕れるイシガイは成貝もありますが小さな幼貝も多く、2025年の調査では成貝の数は多くありませんでしたが幼貝はとてたくさんいました。(中村颯希)



イシガイ (絵、弓削淳翔)



明石川中流の用水路で捕ったイシガイの幼貝です。幼貝が多く、明石川水系でイシガイの生息を石確認できているのは、この用水路だけです。



この用水路の2025年のイシガイとマジジミの調査の様子です。貝が弱らないように日陰に置いて水もかけながら1匹ずつ数を数えました。

マツカサガイ

松笠貝

神

Pronodularia japonensis

イシガイ科 マツカサガイ属

北海道、本州、四国、九州

6cm

準絶滅危惧

明石川水系では、支流の田中川の用水路に点在して生息しています。

田中川用水路には、ミナメダカやタイリクバラタナゴが多く生息し、ヤリタナゴも石確認しています。

マツカサガイは捕れる貝は成貝が多く幼貝は少ないです。生息している箇所が少しずつ減っています。(西岡 龍之介)



マツカサガイ (絵、弓削 朱花梨)



明石川支流の田中川用水路で捕ったマツカサガイの未成貝～成貝です。幼貝が少なくて心配です。



田中川用水路各でも場所によってはマツカサガイの幼貝が捕れる箇所もあります。

マシジミ

真 蜆

神

Corbicula leana

シジミ科 シジミ属

本州～九州

3cm

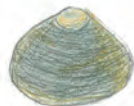
絶滅危惧II類

兵庫県要注目
神戸市Cランク

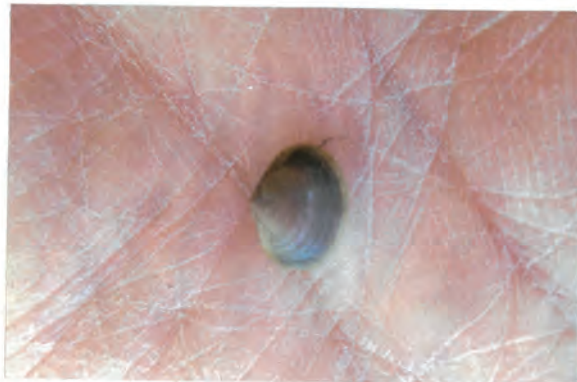
明石川水系では、中流で合流しているイシガイのいる明石川用水路でマシジミの生息も確認しています。

外来種のタイワンシジミは明石川水系のいろんな場所で見つかりますが、マシジミは今のところこの場所と田中川用水路だけでしか見つかりません。

捕れるマシジミは成貝が多いですが小さな幼貝もいて、増えています。(駒板 なみ)



マシジミ (絵・人見 歩)



明石川中流につながる明石川用水路で捕ったマシジミの幼貝です。砂の中にいました。



マシジミの未成貝～成貝です。明石川用水路では増えています。

台湾シジミ

台湾蜆

神 明

Corbicula fluminea

シジミ科 シジミ属

本州～九州

3cm

兵庫県警戒種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

総合対策外来種

その他の総合対策外来種

明石川水系では、本流や支流、用水路など様々な場所に生息していますが、特に小さな用水路に多いです。

底に泥が溜まっていて、あまりきれいではない用水路にシジミ貝が大量にいる場合は、台湾シジミの可能性がとても高いです。

「まずい」と言われていて、茹でたものを味付けせずに食べる少し泥臭いですが、甘辛く佃煮にすると、とてもおいしいです。(駒板なみ)



台湾シジミ (絵: 駒板なみ)



明石川水系の平野大池用水路で台湾シジミを含めた二枚貝の調査をしているところです。



平野大池用水路でも、たくさんの台湾シジミが見つかっています。

アカエイ

赤鱧

明

Dasyatis akajei

アカエイ科 アカエイ属

日本各地沿岸

100cm

成魚は砂や泥の海底に生息していますが、幼魚は砂浜近くのとても浅い海や河口でも見られ、明石川や福田川の河口でもよく見られます。

尻尾のトゲには強い毒がありますが、身は食用になります。

卵胎性といって卵ではなく、そのまま幼魚を産みます。

(西岡 龍之介)



アカエイ (絵・弓削 朱花梨)



明石川河口で釣りをしている時に現れたアカエイの幼魚です。



釣りをしている足元をゆうゆうと泳いで行きました。

イセゴイ

伊勢鯉

明

Megalops cyprinoides

イセゴイ科 イセゴイ属

太平洋の暖海沿岸地域

1 m

別名パシフィックターポンとも呼ばれ、小魚や甲殻類を食べる肉食性の海水魚で、幼魚は汽水域～淡水域に進入します。

イセゴイは、ニホンウナギと同じようにレプトケファルス幼生からエカ魚になり、そのレプトケファルス幼生を2022年11月に明石川下流の嘉永橋付近で捕まえ、2023年11月にも明石川下流の伊川合流点付近で捕まえました。(藤澤 太一)



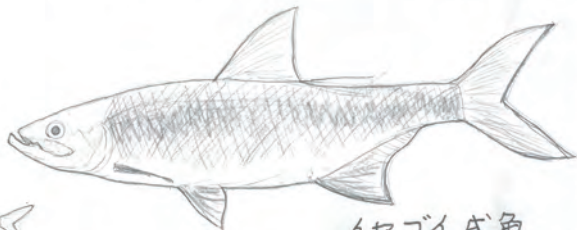
2022年11月に明石川下流の嘉永橋付近で初めて捕まえたイセゴイのレプトケファルス幼生です。



翌年の2023年11月にも明石川下流の伊川合流点付近でイセゴイのレプトケファルス幼生を捕まえました。



イセゴイのレプトケファルス幼生



イセゴイ成魚

(絵: 弓削 朱花梨)

ニホンウナギ

日本鰻

明神

Anguilla japonica

ウナギ科 ウナギ属

北海道より南

IUCN絶滅危惧IB類 | m 兵庫県Cランク

絶滅危惧IB類

神戸市Cランク

明石市Bランク

海の沿岸～河川の上流に生息し、明石川水系では上流～河口
において上流に行く程数が少なく下流に行く程数が多いです。

捕まえて容器に入れると後ろに後退し尾びれから逃げようとします。

夜行性が強く昼間は捨てられたパイプの中や大きめの石の下や砂
の中に隠れていることが多いです。

生命力の強い魚ですが腹部が弱く捕まえようとして腹部を強く
握ると死んでしまうので取り扱いには注意が必要です。(神田大和)



ニホンウナギ (絵・弓削 朱花梨)



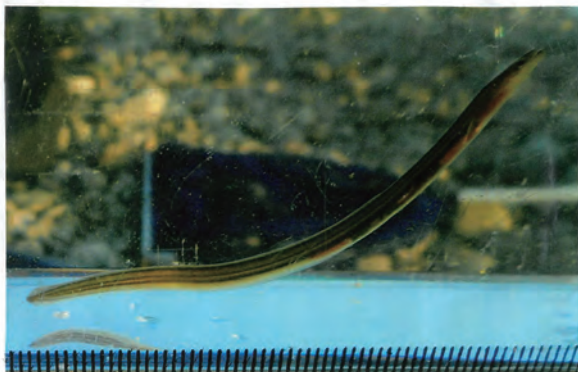
明石川下流で捕れたニホンウナギの幼魚です。明石川下流
には、このサイズのニホンウナギの幼魚から成魚までたくさん
います。



明石川下流で合流している支流の伊川の岩かげから現れ
たニホンウナギの成魚です。人がいることがわかるとすぐに
隠れてしまいました。



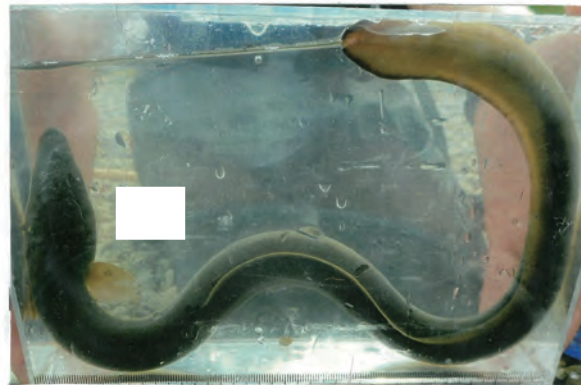
透明なシラスウナギから体が色づき始めているクロコです。明石川下流～河口にはたくさんいます。



明石川下流で捕れたクロコと呼ばれるニホンウナギの幼魚です。10cm位で体は黒っぽくなっています。



明石川中流で捕れたニホンウナギの幼魚です。上流～中流にもニホンウナギはいます。



明石川下流で捕れたニホンウナギの成魚です。捨てられたパイプの中や大きな石の下に隠れていることが多いです。

アユ鮎

(明) (神)

Plecoglossus altivelis altivelis

アユ科 アユ属

北海道西部から屋久島までの日本各地

15～25 cm

神戸市Cランク

明石市Bランク

河川の上流～中流に生息する両側回遊魚で明石川水系では3～6月頃に下流に幼魚が姿を見せますが、中流まで遡って来ることはほとんどありません。

岩や石の表面に生えた藻やコケを食べますが、水生昆虫なども食べます。

群れを作るアユと群れを作らず単独でなわばりを持つアユの2種類がいて、なわばりを持つアユは他のアユが自分のなわばりに入ると激しく攻撃します。(西岡 龍え介)



アユ (絵: 弓削 朱花梨)



玉津第一小学校で飼っていたアユの未成魚が、なわばり争いをしているところです。藻類の他に川魚用の粒エサやヌマエビの幼体などもよく食べていました。



神戸市の都市河川の都賀川で捕まったアユの成魚です。12月なのにまだ中流にいました。



都賀川の河口付近で婚姻色のまま死んでいたアユの成魚です。体が黒くなり、ひれやお腹は橙色になります。



高知県宿泊研修の時に高知県の仁淀川で増水後の河原に取り残されていた石に、アユのたくさんのはみあとを見つけました。アユがたくさんいることがわかります。



穴栗市の揖保川中流で揖保川漁協の方々にアユの友釣りという貴重な体験をさせていただきました。



友釣りで2匹の天然アユが釣れました。上の2匹が天然アユで、下の1匹は養殖のおとリアユです。天然アユの方が糸身できれいです。

カマツカ

鎌柄

(神) (明)

Pseudogobio esocinus

コイ科 カマツカ亜科 カマツカ属

富山県、静岡県より西の本州、四国、九州、毫岐

12~20 cm

明石市Bランク

河川の中流~下流や湖の沿岸部、用水路などに生息し、明石川水系では上流~下流や支流、用水路などにいます。

感じはコウライニゴイに似ていて、口は砂の中の小さな生き物を食べやすいように下を向き、口の先を突き出して砂ごと吸い込むようにして食べ物だけを飲み込み、砂はえらぶたから上手に吐き出します。

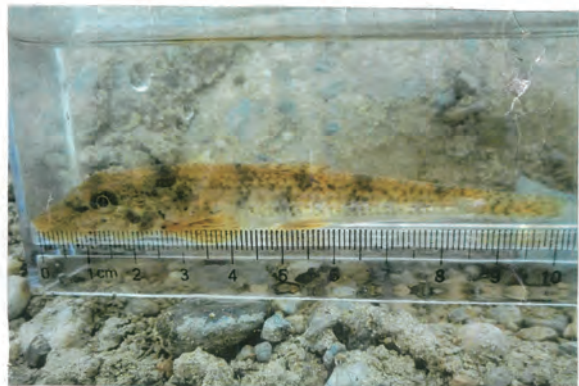
砂底を好み、川底が石から泥に変わるといなくなり、最近では増えたり減ったりを繰り返しています。(神田大和)



カマツカ (絵・弓削 朱花 梨)



明石川支流の櫛谷川で砂ごと掬って捕まえました。多い時はこれぐらいたくさん捕れます。



明石川中流で砂ごと掬って捕まえたカマツカの成魚です。明石川上流~下流や支流に生息しています。

コウライモロコ

高麗諸子

神 明

Squalidus chankaensis tsuchigae

コイ科 カマツカ亜科 スゴモロコ属

中部、本州瀬戸内海側 四国北東部

8~11cm 神戸市Cランク

明石市Bランク

河川の中流~下流とそれにつながる水路に生息し、明石川水系では中流~下流や支流の伊川や明石川下流でつながる水路にもいます。

以前はほとんどいませんでしたが、2015年頃から捕れるようになり一時は中流でたくさん捕れ、コウライモロコの群れも見られるようになっていましたが、最近はずいぶん減っています。

同じモロコでもコウライモロコはタモロコと違ってカマツカの仲間なのでカマツカと金属的な感じがよく似ています。(宮本 彩香)



コウライモロコ (絵、弓削 朱花梨)



冬の明石川中流の淀みで捕まえたコウライモロコの幼魚です。一時はこんなに捕れていました。



明石川中流で捕まえたコウライモロコの未成年魚です。この未成年魚も流れが弱い淀みにいました。

コウライニゴイ

高麗似鯉

明神

Hemibarbus labeo

コイ科 カマツカ亜科 ニゴイ属

中部地方～山陽地方、四国

50 cm

コイよりも細長く、目をよく動かすことができるので、まばたきをしているように見えることがあります。

口が下向きについて、砂底の生き物などを食べていますが、大きくなるとオオクチバスのように小魚なども追いかけて食べるようになります。

以前は明石川中流～下流に生息していましたが、今は明石川中流ではほとんど見なくなりました。

初夏に明石川下流で幼魚の群れが見られます。



コウライニゴイ (絵 弓削 朱花梨)



2024年8月に久しぶりに明石川中流で捕まえたコウライニゴイです。最近では明石川中流でほとんど捕れなくなりました。



以前、玉津第一小学校の水槽で飼っていたコウライニゴイです。又マエビをあげると追いかけて良く食べていました。

コイ飼育型

鯉

神 明

Cyprinus carpio

コイ科 コイ亜科 コイ属

日本全国

50cm ~ 1m

外来種

兵庫県注意種

アクアリウム要注意種(オリジナル名称)

昔の人は川で育ったコイを捕ってふつうに食べていたので、コイの成魚が増え過ぎることなく、小魚が多く多様性が保たれていました。

しかし、今は誰も捕って食べなくなり、天敵のいない大きなコイの成魚が増えています。

コイは雑食で成魚になると大きな口でオオクチバスやブルーギルと同じように魚の卵や小魚や水生昆虫を食べてしまうので、成魚だけを駆除しています。(神田大和)



コイ(絵:弓削朱花梨)



産卵場所に向かうため 明石川支流の伊川の浅瀬を遡るコイの成魚です。



明石川中流で捕まえたコイの幼魚です。フナ類に似ていますが、口ひげの有無や背びれの形や、うろこの黒い縁取などで見分けられます。

ゲンゴロウブナ

源五郎鮒

神 明

Carassius cuvieri

コイ科 コイ亜科 フナ属

日本全国 (本来は琵琶湖水系固有種)

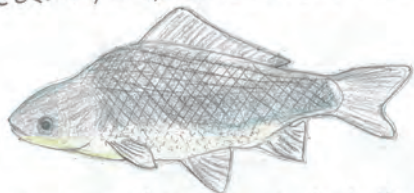
20~40 cm

国内外来種

琵琶湖では沖合の上層~中層に生息し(幼魚は沿岸部や内湖)、明石川水系では池や下流や支流の伊川において、ギンブナよりも下流において、ギンブナよりも大きくなります。

明石川水系の印路新池では水面近くを成魚の群れが泳いでいるのを見られ、植物プランクトンを主に食べてヘラブナやカワチブナとも呼ばれています。

琵琶湖水系では絶滅危惧種ですが、明石川水系ではギンブナを守るために駆除をしていますが最近では減ってきました。(神田 大和)



ゲンゴロウブナ(絵・弓削 朱花梨)



明石川下流で捕まえたゲンゴロウブナの幼魚です。下流や池につながる用水路に多くいます。



明石川下流で合流する支流の伊川で捕まえたゲンゴロウブナの成魚です。ギンブナよりも大きくなります。

ギンブナ

銀鮒

神 明

Carassius sp.

コイ科 コイ亜科 フナ属

日本 全国

15~30 cm 神戸市Cランク

明石市Bランク

池や水路、河川の中流~下流に生息し、明石川水系では中流~下流や用水路、本流や支流につながっている池などにいます。

明石川水系には主に神戸市や明石市の絶滅危惧種のギンブナと、ギンブナより大きくなる国内外来種のゲンゴロウブナの2種類のフナがいて、ギンブナはほとんどメスしかいないと言われています。

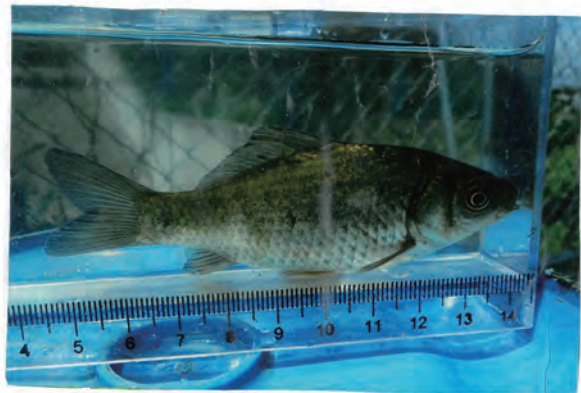
(神田大和)



ギンブナ (絵・弓削 朱花梨)



明石川中流で捕まえたギンブナの未成魚です。ゲンゴロウブナより体高が低いです。



明石川とつながっている平野大池の用水路で捕まえたギンブナの未成魚です。平野大池の用水路や明石川ではギンブナが増えてきました。

ヤリタナゴ

槍魚鱈

神

Tanakia lanceolata

コイ科 タナゴ亜科 アブラボテ属

本州、四国、九州

準絶滅危惧

5~10 cm

兵庫県 Bランク

神戸市 Bランク

明石市 Aランク

河川の中流~下流、細流や用水路などに生息し、明石川水系では支流の田中川の用水路で数年前に確認しています。

この用水路を調査するとミナミタガイやマツカサガイも見つかり、また外来種のタイリクバラタナゴもたくさんいたので競争を避けるためにタイリクバラタナゴの駆除を続けています。

明石川水系では絶滅寸前です。(西岡 龍之介)



ヤリタナゴ (絵、弓削朱花梨)



田中川の用水路でアカミガメ捕獲用の仕掛けのカゴに入っていたヤリタナゴのオスの成魚です。



観察ケースに入れて観察した田中川の用水路のヤリタナゴの成魚です。水が濁っていて見えにくかったです。

タイリクバラタナゴ

大陸薔薇鯉

神

Rhadeus ocellatus ocellatus

コイ科 タナゴ亜科 バラタナゴ属

総合対策外来種 日本全国 兵庫県注意種
重点対策外来種 4~8cm 神戸版ブラックリスト
外来生物種

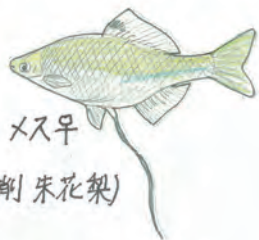
細流や用水路などの流れが緩やかなり易所や池などに生息し、明石川水系では本流や支流につながっている池や用水路で見られ、ミナミガイやマツカサガイなどの二枚貝がいる支流の田中川の用水路ではとても増えていましたが駆除を続けた結果、今は減っています。

中国原産のタイリクバラタナゴは日本原産のニッポンバラタナゴと交雑することや在来種タナゴの産卵母貝を奪ってしまうことで、ニッポンバラタナゴや在来種タナゴを絶滅の危機に追い込んでいます。

(藤澤太一)

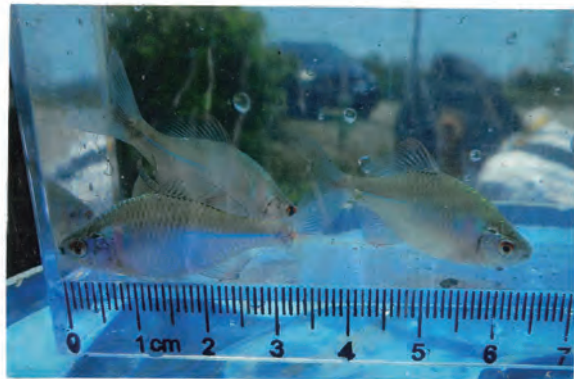


オス♂



メス♀

タイリクバラタナゴ (絵・弓削朱花架)



明石川支流の田中川の用水路で捕まえたタイリクバラタナゴの成魚です。大型二枚貝のいるところには必ずと言っていい位 タイリクバラタナゴがいます。



玉津第一小学校で飼っていたタイリクバラタナゴです。とても飼いやすく大型二枚貝を入れると簡単に産卵シンを観察できます。



田中川の用水路で捕れたタイリクバラタナゴです。
多い時はこれだけたくさん捕れていました。



上のたくさん捕れたタイリクバラタナゴを1か月以上泥
抜きをして佃煮にしました。タナゴは内臓が苦いと
言われていますが苦くなく骨もやわらかくて美味し
かったです。



田中川の用水路で捕れたミナミタガイとマツカサガイです。
タイリクバラタナゴやヤリタナゴの産卵母貝もいます。



増水した後の明石川中流で捕れたタイリクバラタナゴ
です。田中川の用水路のタイリクバラタナゴとは感じが
少し違っていました。

オイカワ

追河

(神)(明)

Opsariichthys platypus

コイ科 クセノキpris 亜科 ハス属

本州、四国、九州

15cm

明石川水系の上流～下流、支流、用水路など様々な場所に生息し、明石川中流の橋の上から見ると、川底に生えた藻類を身をひる返しながら食べるので、キラキラと光る様子が見えます。

ヌマエビや昆虫なども大好きで、オスの婚姻色はとても美しく明石川で一番多い魚で、明石川のシンボルフィッシュです。群れを作り幼魚は特に多く、とても増えています。

(佐野 ころ)

オイカワ オス♂



オイカワ メス♀



オイカワ 幼魚



(絵: 弓削 朱花梨)



明石川支流の田中川でペアで寄り添って産卵するオイカワの成魚を水面観察しました。



明石川支流の田中川でフトミズを餌にして釣れたオイカワのオスの成魚です。婚姻色が出てきれいです。



田んぼにつよがる用水路で捕れた オイカワの違形の幼魚です。用水路ではたまに見つかります。



オイカワの幼魚～未成魚の中にある ミナミメダカの成魚です(矢印)。オイカワの幼魚をメダカだと思っている人は意外に多いです。



玉津第一小学校で飼っていたオイカワの成魚です。粒餌の他にヌマエビもよく食べていました。



オイカワの幼魚



メダカの成魚

(絵 永田博人)



明石川中流で捕れた オイカワの成魚です。オイカワは明石川水系で一番多い魚です。

カワムツ

河鯰

神

Nipponocypris temminckii

コイ科 クセキアリス亜科 カワムツ属

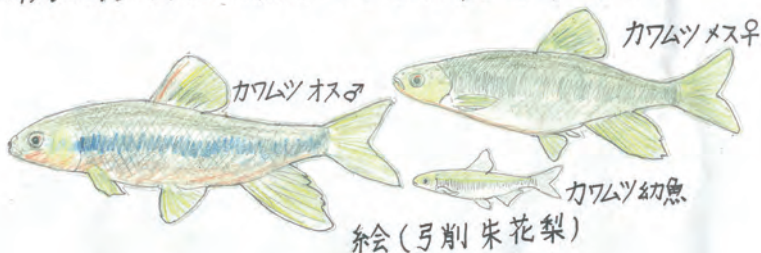
静岡県より西の本州、四国、九州

15 cm

又マムツととてもよく似ていますが、又マムツよりも口の先が丸くなっていて、ひれの黄色が強いです。

又マムツと同じく流れがゆるやかで草が多く茂っている場所が好きですが、生息域はアユがすんでいるような水が冷たい川の上流～中流で、オイカワや又マムツがすんでいる所よりもきれいな所が好きです。

明石川水系では上流の押部谷付近にすんでいますが大雨の後に明石川中流で捕れることがあります。(神田大和)



明石川上流の支流の蛇谷川源流域で捕まえたカワムツの幼魚です。たくさんいました。



明石川中流で捕まえたカワムツの成魚です。いつもは明石川上流にいますが、大雨の増水の後に流されてきていたのを捕まえました。

ヌマムツ

沼鮭

神 明

Nipponocypris sieboldii

コイ科 クセキプリス亜科 カワムツ属
静岡県より西の本州、四国、九州

15cm

明石市Bランク

カワムツととてもよく似ていますが、カワムツよりも口の先が尖っていて、ひれの赤みが強いのが特徴です。
オスの成魚の婚姻色はとても美しいです。

明石川水系の本流よりも流れが弱くて草が多く茂っている支流の福知川や田中川、櫛谷川、用水路などに生息しています。

福知川のように増えている場所もあれば、田中川用水路のようにマニアがヌマムツ目当てに乱獲し、全くなくなった場所もあります。(中村 颯希)



(絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の櫛谷川で捕れたヌマムツのオスの成魚です。婚姻色が出てきれいです。



明石川支流の福知川で捕れたヌマムツの若い成魚です。福知川にはたくさんいます。



明石川支流の田中川の用水路で捕れたヌムムツの達形(トビ)の幼魚です。用水路で見つかります。



明石川支流の田中川の用水路で捕れたヌムムツの老成魚です。体色が退色しています。



明石川中流で捕れたオイカワとヌムムツの幼魚です。同じ垂科なので体形がよく似ていて、左がオイカワ、右がヌムムツです。



明石川支流の田中川でフトミズを餌にして釣れたヌムムツの成魚です。田中川にヌムムツはいますが、数は減っています。

タモロコ

田諸子

(神) (明)

Gnathopogon elongatus elongatus

コイ科 バルブス垂科 タモロコ属

東海地方より西の本州、四国

5~9cm

河川の中流~下流や湖沼、用水路や池などに生息し、明石川水系では中流~下流や支流、用水路、明石川につながっている池などにいます。

以前は明石川中流に多くいましたが今は少なくなり、支流や用水路の方に多くいます。

同じような場所にいるモツゴとよく似ていますが、尾びれのつけ根に黒い斑点があることや、口ひげがあること、口が下を向いていることなどでも見分けることができます。(佐野こころ)



タモロコ(絵: 弓削 朱花梨)



明石川中流の淀みの茂みで捕れたタモロコの幼魚です。小さくても尾びれのつけ根の黒い斑点がわかります。



明石川中流で捕れたタモロコの成魚です。最近では明石川の本流で捕れることは少なくなり、支流や用水路で捕れることが多くなりました。

モツゴ

脂魚

神 明

Pseudorasbora parva

コイ科 ヒガイ亜科 モツゴ属

関東より西の本州、四国、九州

4~8cm

河川の中流~下流や湖沼、用水路や池などに生息し、明石川水系では中流~下流や支流、用水路、明石川につながっている池などにいますが環境の悪化には強いです。

明石川中流~下流にも支流や用水路にもたくさんいます。脂が滲んだように光り、見る角度によって虹色に変化します。

体側に黒い縦帯があり、若い個体は濃くなり、繁殖期のオスの縦帯は消えます。

同じような場所にいるタモロコとよく似ていますが、口ひげがないことや口が小さく上を向いていること、尾びれのつけ根に黒い点がないことなどで見分けることができます。(丸口 葵)



モツゴ (絵・弓削朱花梨)



明石川につながっている平野大池の用水路で捕れたモツゴの未成年魚です。黒い縦帯が濃く、口が小さく上を向いています。



明石川中流で捕れた繁殖期のモツゴの成魚です。明石川の本流でも用水路でもモツゴは増えています。

チュウガタスジマドジョウ

中型筋縞泥鰌

神 明

Cobitis striata striata

ドジョウ科 マドジョウ亜科 マドジョウ属

本州、四国の瀬戸内海側

絶滅危惧II類 10cm 神戸市Bランク
明石市Aランク

明石川水系では、明石川上流〜下流や支流の榎谷川や伊川に生息しています。

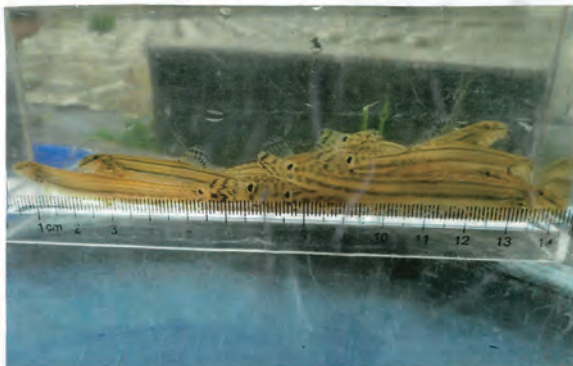
体形や模様がオオマドジョウに似ていますが縦縞が点ではなく線なので見分けることができますが、幼魚は点になっています。

よく石外に替り、きれいでゆるやかな流れの水と、きれいな石が好きて、水が汚れたり泥が溜まるといなくなります。

増えたり減ったりを繰り返しています。(中村 颯希)



チュウガタスジマドジョウ (絵: 弓削 朱花梨)



明石川中流の流れの弱いきれいな砂底で捕れたチュウガタスジマドジョウです。捕れる時にはたくさん捕れます。明石市の明石川下流の支流の伊川でも捕れました。



玉津第一小学校で飼っていたチュウガタスジマドジョウです。2024年は、明石川上流でも明石川下流でも捕れました。

ドジョウ

泥魚 (神) (明)

Misgurnus anguillicaudatus

ドジョウ科 シマドジョウ亜科 ドジョウ属

日本全国

準絶滅危惧

10~15cm

兵庫県要注目
神戸市Cランク
明石市Aランク

田んぼや用水路、湿地などに生息し、明石川水系では、上流~下流にいますが、本流よりも支流の細流や用水路などに多く、流れのあまりない水はそれほどきれいでもなくても泥底のプランクトンがたくさんいるような場所にいます。

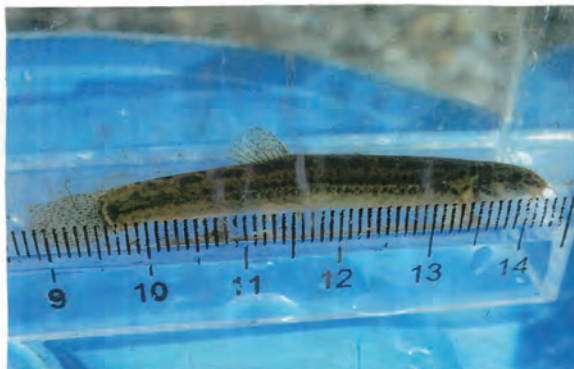
最近では明石川中流~下流の本流でも増えてきましたが、食用や生き餌に輸入された中国大陸由来の外来ドジョウやカラドジョウも確認しているのでご注意ください。(佐野こころ)



ドジョウ (絵、弓削 朱花梨)



明石川支流の田中川の用水路で捕れたドジョウの成魚です。田中川の用水路にはミナミダカやニ枚貝がたくさんいて、そういう場所にドジョウもいます。



明石川中流の石の中を探って捕まえたドジョウの未成年魚です。明石川中流~下流で捕れることも多くなりましたが、中国大陸由来の外来ドジョウやカラドジョウが捕れることも多くなりました。

カラドジョウ

唐泥鰌

神

Misgurnus dabryanus

ドジョウ科 ドジョウ属

本州、四国、九州

10～20cm

総合対策外来種

その他の総合対策外来種

日本では田んぼや用水路などに住みついていると言われ、明石川水系では2024年5月に明石川中流で初めてカラドジョウと思われる個体が捕れました。

中国大陸などが原産で食用や餌用に輸入されたものが逃げ出し、逃げがされた可能性が高く、体色が明るくて口ひげが長く、尾びれのつけ根の体高が高いなどの特徴があります。

明石川水系にはカラドジョウの他に中国大陸由来の外来種のドジョウもいます。
(藤澤 太一)



カラドジョウ (絵・藤澤 太一)



2024年5月の明石川中流調査の様子です。
この時初めてカラドジョウが捕れました。



明石川水系で初めて捕れたカラドジョウです。
口ひげの長さや尾びれのつけ根の体高の高さなどがよくわかります。

ロングノーズガー

神

Lepisosteus osseus

ガー科 レピソステウス属

本来はカナダ～メキシコ

特定外来生物 60cm～120cm

総合対策外来種

その他の定着予防外来種

2012年頃に当時のアクアリウムメンバーが明石川支流の伊川でタモ網で捕まえました。

「木の枝が動いている!!」と思ってタモ網で捕ったらロングノーズガーだったそうです。

捕まえた時には50cmもあって、多分食いきれなくなった人が逃がしたものだと思います。

最後まで責任を持って飼ってほしいです。(西岡 龍介)



ロングノーズガー(絵・弓削 侏花梨)



明石川支流の伊川で捕まえたロングノーズガーです。ガーが明石川水系にいたことに驚きました。



ロングノーズガーは、タイワンドジョウやカムルチーと同じように空気呼吸ができるので、水中の酸素が少なくても生きていけます。

タイワンドジョウ

台湾泥鰌

明神

Channa maculata

タイワンドジョウ科 タイワンドジョウ属

和歌山県、兵庫県、香川県、沖縄県

30cm ~ 60cm

外来種

全国的にはカムルチーの方が多くですが、明石川水系ではカムルチーよりもタイワンドジョウの方が多いです。

明石川下流や支流の伊川に生息していますが、5年以上ぶりに2024年11月に明石川中流でも幼魚が捕れました。

小さな斑紋が並んで線のように見えるのが特徴です。

(西岡 龍之介)



タイワンドジョウ (絵: 弓削 朱花梨)



2024年11月、明石川中流の溜まりで久しぶりに捕まえたタイワンドジョウの幼魚です。



明石川下流で捕まえたタイワンドジョウの成魚です。下流では時々見かけます。

カムルチー (神明)

Channa argus

タイワンドジョウ科 タイワンドジョウ属

北海道、本州、四国、九州

50cm ~ 1m

外来種

池や大きな川の水たまりなどの止水域に生息し、明石川水系では、明石川とつながっている平野大池や平野大池の用水路、明石川下流などにいます。

明石川水系では、タイワンドジョウより、カムルチーの方が数が少ないです。

頭から尾ひれまで小さな斑点が並んで線のようにつながって見えるタイワンドジョウと違って、斑点が大きく所々で背中からお腹にかけて斑点がつながっています。(西岡 龍文介)



カムルチー (絵・弓削 朱花梨)



明石川とつながる平野大池の用水路で捕れた未成魚です。藻の中に隠れていました。



明石川下流で捕れた成魚です。流れの緩やかな茂みの中に隠れていました。

スズキ

魚

明神

Lateolabrax japonicus

スズキ科 スズキ属

日本各地

50cm~1m

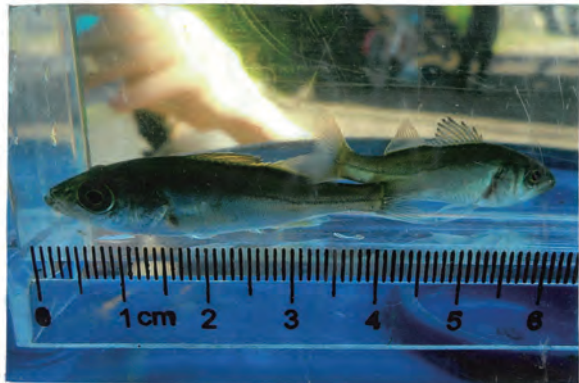
海水魚ですが、幼魚~未成魚は河川の水温が高くなる晩春~晩秋は河川の下流の淡水域まで遡り甲殻類を食べて大きくなり、成魚は海に戻り主に小魚を食べます。

明石川水系でも晩春~晩秋は幼魚~未成魚が河口~下流によく姿を見せ、下流で合流している支流の伊川や下流につながる水路にも進入します。

海にいるブラックバスという意味で、釣り人からは「シーバス」とも呼ばれています。(西岡 龍介)



スズキ (絵・弓削朱花梨)



明石川下流の淡水域で捕れたスズキの幼魚です。晩春~晩秋は明石川下流にもよく姿を見せます。



明石川河口で釣れたスズキの未成魚です。秋に河口でよく釣れます。

オオクチバス

大口ばす

神 明

Micropterus salmoides salmoides
サンフィッシュ科 オオクチバス属
放流により日本全国

30 ~ 60 cm

特定外来生物
総合対策外来種
緊急対策外来種
兵庫県警戒種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

河川の下流や湖沼、池などに生息し、明石川水系では源流～下流や明石川につながっている池などにおいて適応できる環境の幅は広いです。

オオクチバスが一時期増えたこともありましたが、駆除の結果現在は減っています。

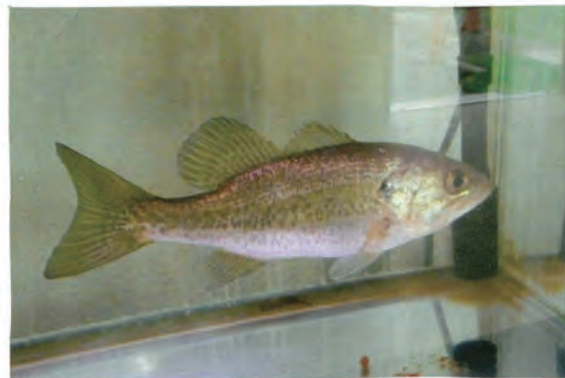
駆除をしたオオクチバスは、以前は美味しくいただいていたのですが PFAS が検出されて今は肥料にしています。(神田大和)



オオクチバス (絵・弓削 朱花梨)



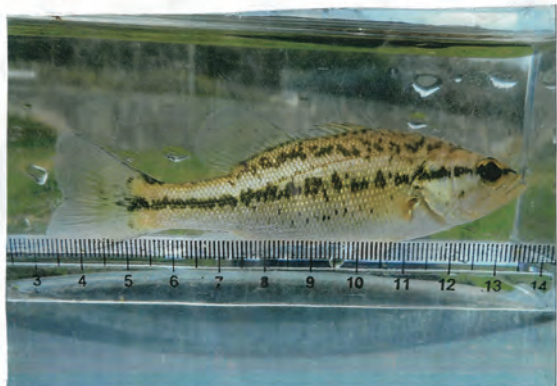
環境省と農水省に許可をもらって玉津第一小学校で飼いはじめた頃の2代目のオオクチバスです。



今ではこんなに大きくなりました。
みんなに外来種のことを知ってもらうために飼っています。



明石川中流で捕れた今年生まれたオオクチバスの幼魚です。大雨の後、増水すると流されてきます。



明石川支流の福知川の印路川源流で捕れたオオクチバスの未成魚です。源流のとてもきれいな場所で、ヘビトンボやカワゲラといました。



明石川支流の田中川は3面コンクリート張りていかに降られないので釣りで馬区除をしています。



田中川で釣れたオオクチバスの未成魚です。生きミズを餌にして、幼魚～成魚に近いサイズまでよく釣れます。

ブルーギル

ぶるーぎる

神 明

Lepomis macrochirus macrochirus

サンフィッシュ科 ブルーギル属

放流により日本全国

10～25 cm

特定外来生物

兵庫県警戒種

総合対策外来種

神戸版ブラックリスト

緊急対策外来種

外来生物種

河川の下流や湖沼、池などに生息し、明石川水系では源流～河口や明石川につながっている池などにおいて適応できる環境の幅はとても広いです。

淡水魚ですが、海水～汽水にも適応していると思われます。

元は上皇さまが食用に持ち帰られたものなので上品な白身肉でとても美味しい魚で、ブルーギルとは「青いえら」という意味です。

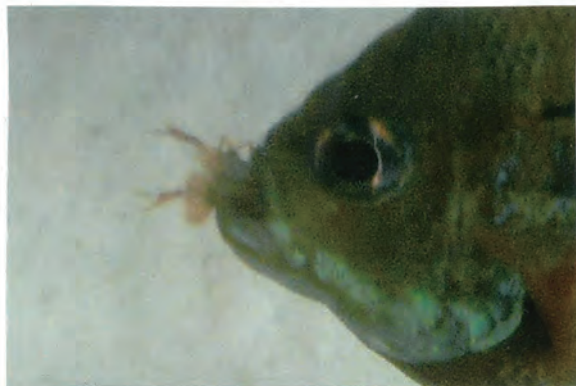
(神田大和)



ブルーギル (絵: 駒板 なみ)



環境省と農水省に許可をもらって玉津第一小学校で飼っている2代目のブルーギルです。



明石川水系の調査の時に捕れたアメリカザリガニは学校で飼っているオオクチバスやニホンウナギの餌にあげていますが、幼体なら口が小さいブルーギルでも食べることができます。



明石川支流の福知川の印路川源流で捕れたブルーギルの幼魚です。2025年4月にヘビトンボやカワゲラのいる印路川源流で初めて捕れました。



明石川支流の田中川で釣れたブルーギルの成魚です。生きたミズを餌にして幼魚へ成魚がよく釣れます。



明石川下流で捕れた大量のブルーギルの幼魚です。明石川下流につながる水路にいたブルーギルの幼魚が大雨の後の増水で流されてきていました。



明石川支流の檀谷川の用水路で捕れたブルーギルの成魚です。明石川水系の用水路にもこんなに大きなブルーギルの成体がありました。

クロホシフエダイ

黒星笛鯛

明

Lutjanus russellii

フエダイ科 フエダイ属

神奈川県、相模湾より南

30～50 cm

インドから西太平洋の熱帯域の沿岸に生息する海水魚ですが、幼魚は川を遡り淡水域まで進入します。体側の後方に黒斑があるのが特徴で、食べても美味しい魚です。

明石川河口の汽水域で釣れました。(西岡 龍介)



クロホシフエダイ (絵・弓削 朱花梨)



明石川河口で釣れたクロホシフエダイの幼魚です。上から見ても体側後方の黒斑が目立ちます。



横から見ると大きな黒斑があり、穴があいているように見えて印象的です。

クロホシマンジュウダイ

黒星 饅頭 鯛

明

Scatophagus argus

クロホシマンジュウダイ科 クロホシマンジュウダイ属

和歌山県より南～インド太平洋
インド洋や太平洋の熱帯域

35cm

幼魚は一部赤色ですが、成長するとなくなります。
内湾や汽水域に生息していて幼魚は淡水域まで進入します。
成魚は食用魚として、幼魚は学名のスカットファークラスと
いう名前で観賞魚として売られています。

ほぼ毎年、明石川下流～河口で秋～冬にかけて幼魚が
捕れますが、2023年9月には1度に幼魚40匹が捕れました。

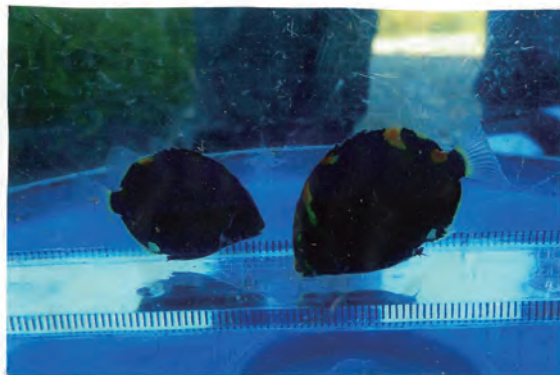
(西岡 龍介)



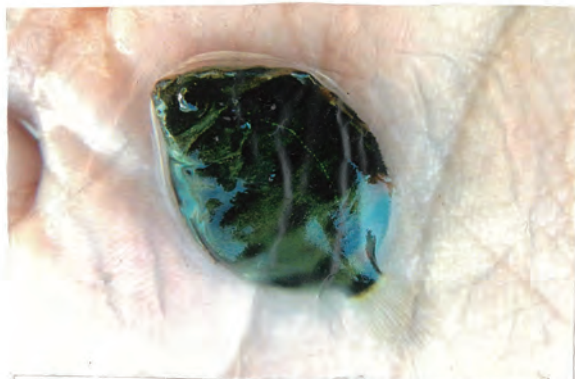
クロホシマンジュウダイ (絵・永田 惇人)



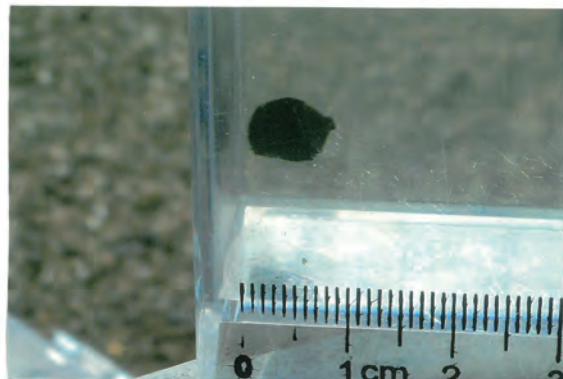
明石川下流の汽水域で干潮時に溜まりで捕まえたクロホシマンジュウダイの幼魚です。写真は飼育時の様子です。



明石川下流の淡水域で草の茂みをガサガサして捕まえたクロホシマンジュウダイの幼魚です。



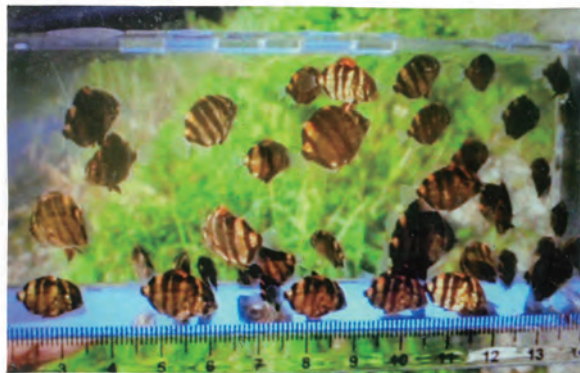
捕獲したばかりのクロホシマンジュウダイの幼魚です。
捕ったばかりは、こんな色をしています。



時にはこんなに小さなクロホシマンジュウダイの幼魚
が捕れることもあります。



玉津第一小学校で飼っていたクロホシマンジュウダイ
の幼魚です。生きたヌマエビを追いかけて食べて
いました。



2023年9月には幼魚40匹が捕れました。
小さな幼魚や幼魚が大量に捕れるのは、近くの
海で産卵している可能性があることもわかってしま
した。

シロギス

白鱈

明

Sillago japonica

キス科 キス属

北海道南部より南

30cm

石少地や石少浜の続きなど、浅い海のきれいな石少底がある場所が大好きで、明石川河口もきれいな石少底が多く、夏はシロギスがよく進入します。

肉食性で甲殻類やゴカイ類を主に食べています。

明石川河口で釣れたシロギスを先輩が以前天ぷらにして食べたそうで、とてもおいしかったそうです。(西岡 龍え介)



シロギス (絵・弓削 朱花梨)



秋に明石川下流～河口で釣れたシロギスの成魚です。明石川の河口付近にもシロギスがいます。



シロギスは同じ場所にいるマハゼと姿や形や透明感がよく似ています。どちらもきれいな石少底が好きな底生魚です。

コトヒキ

琴 弾

明 神

Terapon jarbua

シマイサキ科 コトヒキ属

本州中部より南

30 cm

体側に曲がっている3本の縦帯線があり、明石川下流～河口や溜まりに小さな幼魚が群れていることがあります。

明石川下流の淡水域や明石川下流で合流している伊川まで逆ります。

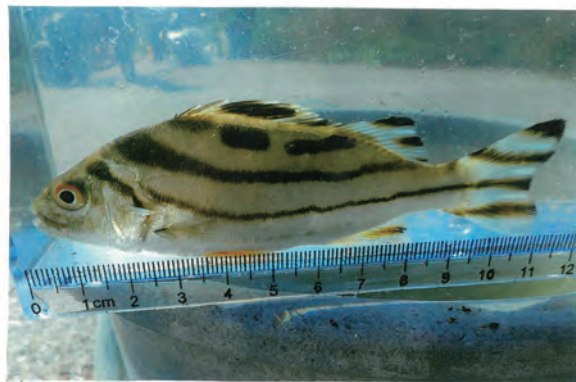
えらぶたに刺があり、さわると痛いです。(徳田 桜花)



コトヒキ (絵、弓削 朱花梨)



真上から見たコトヒキの幼魚です。身の厚さから水面観察でもコトヒキの幼魚はすぐにわかります。



明石川河口で釣れたコトヒキの未成魚です。えらぶたの刺に刺されると痛いです。

シマイサキ

縞伊佐幾

明神

Phynchopelates oxyrhynchus

シマイサキ科 シマイサキ属

青森県より南(沖縄県を除く)

20~40cm

内湾~河口にかけて生息し、明石川水系では幼魚が初夏~晩秋にかけて淡水域の明石川下流まで遡ります。

体側に4本の縦帯があり、3本目の縦帯は口から目を通り尾びれまで伸びていて、口元は尖っています。

幼魚は川底の石のまわりや草の茂みや捨てられたタイヤなどに隠れていることが多く、1匹捕れると次々に捕れることが多いです。

(佐野ころ)

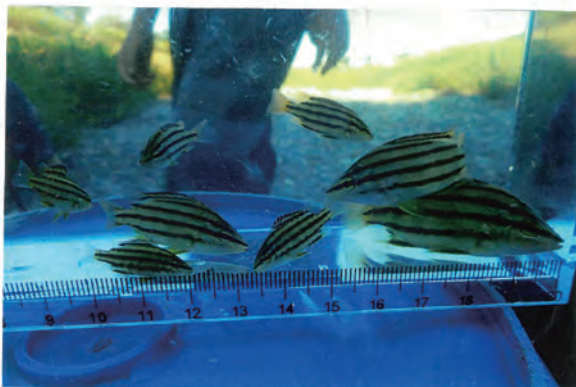


幼魚



成魚

シマイサキ (絵・弓削 朱花梨)



明石川下流の淡水域で捕れたシマイサキの幼魚です。体側に4本の黒い縦帯があり、上から3本目の縦帯は口から目を通して、尾びれのつけ根まで伸びています。



シマイサキの成魚です。食用魚としても売られています。

クロダイ

黒鯛 (明神)

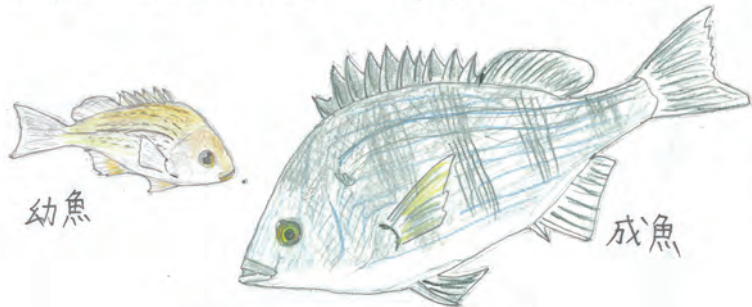
Acanthopagrus schlegelii

タイ科 クロダイ属
北海道～九州

50cm

内湾～河口に生息していますが、川の水温が高くなる初夏～晩秋は明石川下流でも幼魚や成魚をよく見ます。甲殻類や貝類の他に藻類も食べる雑食です。釣れた時やタモ網で捕れた時は、その瞬発力の強さに驚きます。

よく似たキチヌと違って、春～初夏に産卵します。(中村 颯希)



幼魚

成魚

クロダイ (絵・弓削 朱花梨)



夏の明石川下流の汽水域でタモ網で捕まえたクロダイの幼魚です。草の茂みにかくれていました。



明石川河口で釣れたクロダイの未成魚です。とても引きが強かったです。

キチヌ

黄知奴

(明) (神)

Acanthopagrus latus

タイ科 クロダイ属

千葉県、新潟県～九州

40cm

クロダイとよく似ていますが、体の色がクロダイと比べて白っぽく、腹びれと尻びれと尾びれの下部が黄色いことで見分けられます。

クロダイの産卵期は春ですが、キチヌは秋です。

クロダイと同じように初夏～晩秋は明石川下流に幼魚や未成魚が遡ります。(中村 颯希)



キチヌ(絵・弓削 朱花梨)



冬の明石川下流の汽水域で群れを追い込んでタモ網で捕まえたキチヌの幼魚たちです。



明石川河口で釣れたキチヌの未成魚です。腹びれが黄色くて体色がクロダイよりも白っぽく見えます。

ムラソイ

斑曹以

明

Sebastes pachycephalus

メバル科 メバル属

北海道南部～宮崎県までの太平洋岸
日本海沿岸 瀬戸内海 東シ海

15cm～30cm

浅い海の岩礁に生息し、防波堤の下やテトラポットなどにもいて、
甲殻類や魚やゴカイ類を食べる肉食です。

夏～秋は岸に岩が多い明石川河口でも釣れます。

海釣りをする人には、おいしい魚としても有名です。(中村 颯希)



ムラソイ (絵、弓削 朱花梨)



ムラソイが釣れた明石川河口です。岩と岩の間に餌のアオイソメを入れて釣れました。



明石川河口で釣れたムラソイの未成魚です。
水温が高いときは河口でも釣れます。

マタナゴ

真鰈

明

Ditrema temminckii pacificum

ウミタナゴ科 ウミタナゴ属

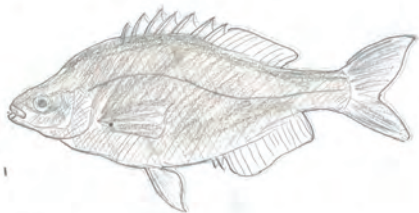
関東地方より南の太平洋沿岸

25cm

漁港に係留している漁船の下や防波堤などで群れていることが多いですが、水温の高い時期には明石川の河口にもよく進入します。

卵胎生でメスが産仔した稚魚は大きく、すぐに泳ぐことができます。

タナゴという名前がついていますが、川にいるタナゴの仲間ではありません。(中村 颯希)



マタナゴ(絵・弓削 朱花梨)



明石川河口で釣れたマタナゴ(上)とクロタイ(下)です。どちらも同じ場所に生息していて、同じスズキ目なので体形がよく似ています。



明石川河口で釣れたマタナゴの成魚です。明石川河口にもたくさんマタナゴがいます。

メジナ

眼仁奈

明

Girella punctata

イヌズミ科 メジナ属

北海道～沖縄

40～60cm

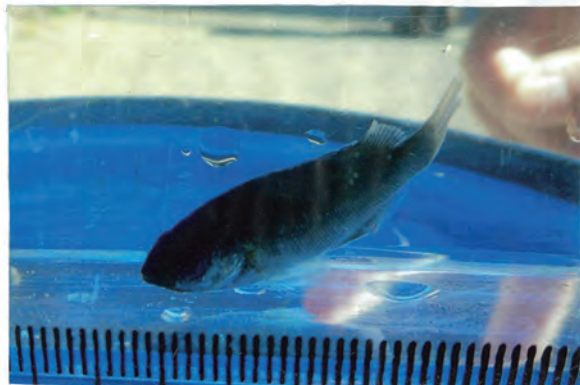
沿岸の浅い海の岩礁に生息し、幼魚や未成魚は防波堤などにもよ姿を見せます。

明石川水系では2023年6月に河口より少し上流の明石川の汽水域で干潮時の溜まりにメジナの幼魚などと共にいるのをタモ網で捕まえました。

釣り人にはグレと呼ばれています。(西岡龍介)



メジナ幼魚 (絵・弓削 朱花梨)



干潮時の明石川河口より少し上流の明石川の汽水域の溜まりで捕れたメジナの幼魚です。



玉-アクアリウムの林崎漁港(明石市)の防波堤是釣りでは以前にメジナの幼魚が釣れたことがありましたが、明石川でタモ網で捕れたのは初めてです。

カワアナゴ

川穴子

明神

Eleotris oxycephala

カワアナゴ科カワアナゴ亜科カワアナゴ属

茨城県より南～屋久島

15～25cm 兵庫県Aランク

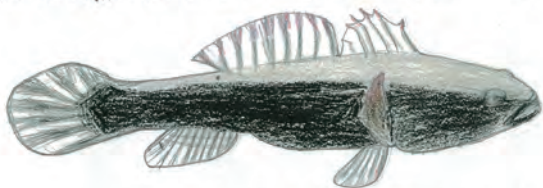
神戸市Bランク

明石市Bランク

明石川水系では、明石川下流で合流している支流の伊川の淡水域から河口の汽水域まで生息していて、川底の石の下や流木の下や捨てられたタイヤや空きカンの中に入ることが多いです。

いつもは暗褐色に背中が灰褐色ですが、背景や感情で体の色を全体的に黒くしたり、横帯の縞模様を出したりして、変化させることができます。

2015年の夏頃から伊川や明石川下流～河口で、カワアナゴの幼魚がよく捕れるようになりました。（西岡龍介）



カワアナゴ（絵・藤澤太一）



明石川下流の淡水域でカメラ捕獲用の仕掛けに入ったカワアナゴの未成魚と成魚です。横帯の縞模様が出ています。



明石川下流の汽水域で釣り上げたカワアナゴの成魚です。テナガエビを釣るつもりでしたが、カワアナゴが釣れました。



明石川下流の伊川合流点付近の淡水域でタモ網で捕まえたカワアナゴの小さな幼魚です。



加古川水路の淡水域の石の下にいたのをタモ網で捕まえたカワアナゴの成魚です。(加古川水系産)



明石川下流で合流している支流の伊川の淡水域で水面観察で見つけたカワアナゴの大きめの幼魚です。



明石川下流の汽水域で川底のタイヤの中にかくれていたのをタモ網で捕まえたカワアナゴの成魚です。

ドンコ

鈍子

(神) (明)

Odontobutis obscura

ドンコ科 ドンコ属

新潟県 愛知県より西の本州、四国、九州

15～25cm

河川の中流、用水路、池などに生息し、明石川水系では上流～下流や支流の福知川、田中川、樫谷川や細流などにもいます。

ヨシボリ類よりも数が少なく、石の下よりも草の茂みに隠れていることが多いです。

吸盤がなく、ぬめりも少ないので、うろこのザラザラ感がよくわかります。

水がきれいな所なら泥の多い所にもいます。(竹葉真心)



ドンコ(絵・弓削朱花梨)



小石の中で上手に身を隠しているドンコの成魚です。よく見ないとどこにいるのかわかりません。



明石川支流の福知川で捕れたドンコの成魚3匹です。上の黒い2匹がオスで、下の1匹がメスです。



ドンコの1cmくらいの幼魚です。市松模様のような模様があり感じがヒカゼに似ています。



ドンコのメスの成魚です。産卵前でお腹が卵で月膨らんでいます。



ドンコの未成魚です。ヨシボリ類と違って石の下よりも茂みに隠れていることが多いです。



ドンコのオスの成魚です。産卵前で体の色が黒くなっています。

ヒメハゼ

姫鯊

明

Fayonigobius gymnauchen

ハゼ科 ハゼ亜科 ヒメハゼ属

北海道～西表島

7cm

捕れた時はマハゼの未成魚だと思いましたが、模様が違っていたので調べたらヒメハゼでした。

河口～内湾でよく見られるそうですが、明石川では下流～河口でたまに捕れます。

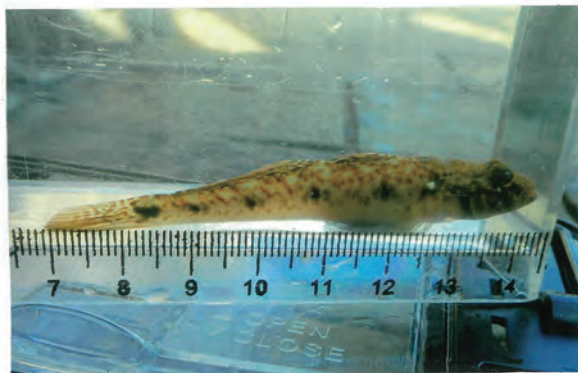
背中や体側にモザイク模様があります。(西岡 龍之介)



ヒメハゼ (絵・弓削朱花梨)



河口で捕れたヒメハゼです。捕れた時は感じがマハゼによく似ていました。



観察ケースに入れたヒメハゼです。上の写真とは別個体です。住吉川産です。

ヒナハゼ

雛鯊

(明) (神)

Redigobius bikolanus

ハゼ科 ハゼ亜科 ヒナハゼ属

静岡県～西表島

3 cm 兵庫県要調査

小さくて可愛いハゼで、成魚でも3cm位にしかありません。
明石川では淡水域の下流～汽水域の河口に生息しています。
2017年6月に明石川河口で明石川水系では初めて捕れて、その後は明石川下流でも多く捕れるようになり、支流の伊川でも捕れました。

2022年7月には明石川下流の岩場で捕れたヒナハゼの成魚のオスは口が大きくなり、メスはお腹がふくらみ卵を持ち、オスメス共に産卵期の特徴があり定着していることがわかってきました。

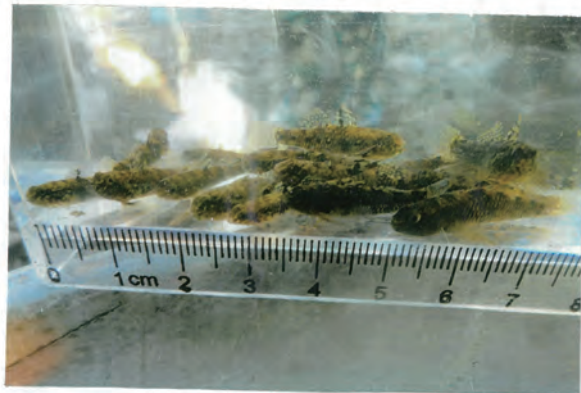
(西岡 龍之介)



ヒナハゼ (絵・永田 惇人)



明石川下流で捕れたヒナハゼの成魚です。明石川水系では2017年に初めて捕れました。



明石川下流～支流の伊川で捕れたヒナハゼの未成年～成魚です。こんなに捕れるようになりました。



2017年に初めて明石川河口付近で捕れたヒカゼです。ヨシボリの幼魚によく似ています。



メンバーが3年近く飼っていたヒカゼの成魚です。赤虫をあけるとよく食べ、長生きすることもわかりました。



明石川下流～河口では、ヒカゼの調査も含め定期的に調査をしています。



2022年の調査では 明石川下流で産卵期の特徴をもったオスとメスの成魚が多数捕れ、岩場で産卵しているらしいこともわかってきました。

アベハゼ

阿部鯊

明神

Mugilogobius abei

ハゼ科 ハゼ亜科 アベハゼ属

宮城県、富山湾より南～瀬戸内海、隠岐
対島、種子島

4cm～5cm

運河や河口などの汽水域に生息していると言われていますが
明石川水系では明石川下流の淡水域にも生息しています。

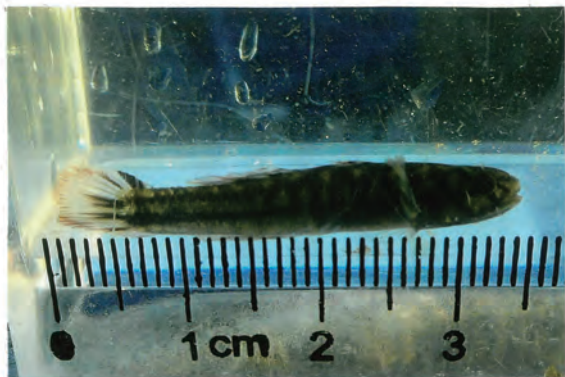
頭が丸い小さなハゼで、干潮時に泥や枯れ葉の多い溜まり
で捕れることが多いです。

淡水で飼っても長生きします。

幼魚～未成魚は小さくて地味ですが、成魚になるとオス、
メス共に婚姻色がきれいです。(西岡 龍太介)



アベハゼ (絵、弓削 朱花梨)



明石川下流の淡水域で捕まえたアベハゼの未成魚
です。流れのある川底の石の下にいました。



明石川下流の汽水域の溜まりで捕まえたアベハゼ
の婚姻色の出ているメスの成魚です。お腹に卵を
持っていました。

カワヨシノボリ

川葦登

神 明

Rhinogobius flumineus

ハゼ科 ハゼ亜科 ヨシノボリ属

富山湾、静岡県より西の本州、四国、九州北部、毫岐、五島列島
5~8 cm

河川の上流~中流に生息し、明石川水系では源流~下流や支流にもいます。

以前は明石川上流~中流や支流の櫛谷川にたくさんいましたが最近はとても減っていて、かわりに明石川下流や用水路などにいるシマヒレヨシノボリが増えています。

川底の石の下に隠れていることが多く、カワヨシノボリにとってきれいな水の流れは必ず必要で、川が塞ぎ止められて泥が溜まるといなくなります。(弓削 淳翔)



カワヨシノボリ(絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の櫛谷川の川底の石の裏に産卵していたカワヨシノボリの卵です。よく見ると卵の中に目や体が見えます。



明石川中流で捕れたカワヨシノボリの成魚のペアです。最近はとても減っています。

シマヒレヨシボリ

縞鰭葦登

神 明

Rhinogobius sp. BF

ハゼ科 ハゼ亜科 ヨシボリ属

沖縄県以外の日本全国

4cm~5cm

明石川水系では 明石川中流~下流に生息していますが
どちらかと言うと、明石川と池をつなぐ用水路に多くいて、
トウヨシボリ系縞鰭着型と呼ばれていました。

カワヨシボリと比べて月同が短く太い感じ です。

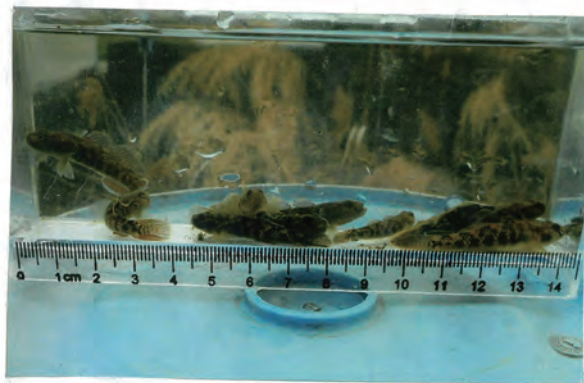
また、カワヨシボリよりも飼いやすく、ヌマエビの幼体を
よく食べ、よく成長します。(西岡 龍え介)



シマヒレヨシボリ (絵・永田 惇人)



明石川と池をつなぐ用水路で捕まえたシマヒレヨシボリ
の成魚です。カワヨシボリより 太く短い感じが します。



このシマヒレヨシボリも 用水路各で捕まえました。
用水路の泥の中にかくれていました。

シマヨシボリ

縞葦登

神 明

Phinogobius sp. CB

ハゼ科ハゼ亜科 ヨシボリ属

青森県～南西諸島

7cm

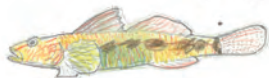
神戸市要調査

河川の中流に生息し、よく見かけるヨシボリとして知られていますが、明石川水系では明石川下流の淡水域や支流の伊川に生息していて数は少ないです。

頬に迷路のような赤い模様があり、尾びれのつけ根に「く」の字型の模様があるので他のヨシボリと見分けられます。

カワヨシボリよりも大きく、産卵期のメスの成魚はお腹が青く輝いてきれいです。(西岡 龍介)

オス♂



メス♀



シマヨシボリ(絵、弓削 朱花梨)



明石川下流で合流している支流の伊川で捕まえたシマヨシボリの成魚です。初めて見た感じや手触りがゴクラクハゼに似ていました。



シマヨシボリは第2背びれと尾びれに細かい斑点があり、尾びれのつけ根に「く」の字型の模様があります。

ゴクラクハゼ

極楽魚

明神

Rhinogobius giurinus

ハゼ科 ハゼ亜科 ヨシボリ属

茨城県、秋田県より南の本州、四国、九州
琉球列島 8cm

神戸市Cランク
明石市Bランク

河川の下流～河口に生息し、仔魚は海に下るハゼとして知られていますが、明石川水系でも下流に多く、大きな石の下や空き缶の中によくかよっています。

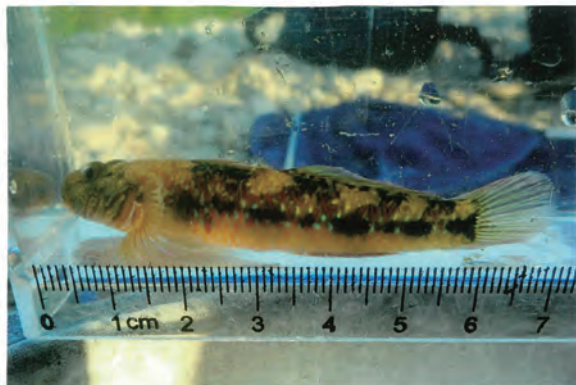
しかし、数は少ないですが明石川上流～中流や支流の伊川や田中川、明石川中流につながる用水路などにも飛び地のように生息していて、それが自然分布によるものか、他の川とつながる東播用水によるものか、放流によるものかは不明です。

成魚になると体側に青いキラキラが点在してきれいです。

(佐野ころ)



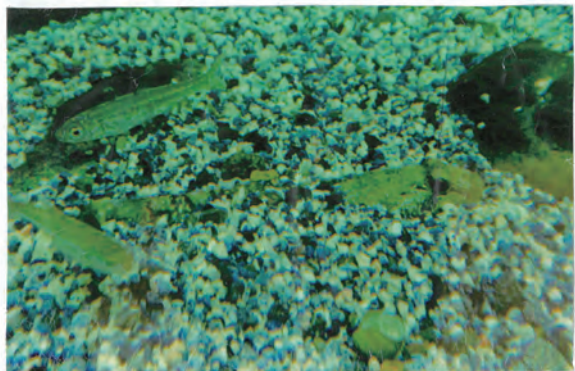
ゴクラクハゼ(絵、弓削 朱花梨)



明石川下流で捕まえたゴクラクハゼの成魚です。
明石川下流にはたくさん生息しています。



玉津第一小学校で飼っていたゴクラクハゼの成魚です。
いつも石レンガの上にはいました。



餌も食べずに冬眠するゴクラクハゼです。玉津第一小学校で飼ってみて初めて石川に潜って冬眠することがわかりました。



明石川下流にいたゴクラクハゼの成魚です。人を見てもあまりこわがらずに水面観察をしても逃げません。



明石川上流の押部谷付近で捕まえたゴクラクハゼの成魚です。下流に生息しているものと比べて小さくて、感じがヨシノボリに似ています。



明石川支流の田中川用水路の平野付近で捕まえたゴクラクハゼの成魚です。田んぼの中の水路にいて、下流に生息しているものと比べて、透き通っている感じがです。

チチブ

知知武

明神

Tridentiger obscurus

ハゼ科 ハゼ亜科 チチブ属

北海道～九州

5～10cm

河川の下流～河口、内湾に生息し、明石川水系では明石川下流で合流している支流の伊川や明石川下流～河口にいて川底の石の下や川に捨てられた大型ゴミの下や空き缶の中によく隠れています。

チチブは明石川にふつうにいるハゼですが、年によって幼魚が大量発生してチチブばかり捕れたり、反対に全然捕れなくなったり、わからないことも多いです。

オスの成魚の第1背びれの棘条は糸のように長く伸びます。

(西岡龍え介)



チチブ (絵、弓削 朱花梨)



明石川下流の汽水域で水面観察で見つけたチチブの成魚です。



明石川下流で捕れたチチブの成魚です。石の下によくいますが、幼魚～未成魚は川に捨てられた川底の空き缶の中にも多いです。

ウロハゼ

洞 鯊

(明)

Glossogobius olivaceus

ハゼ科 ハゼ亜科 ウロハゼ属

茨城県より南の本州、四国、九州、種子島

20 cm

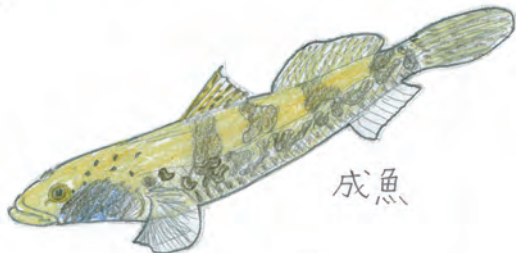
淡水と海水が混ざり合う河川の河口付近に生息し、明石川水系では下流の汽水域にも多く、川底の石の下や捨てられたタイヤやパイプの中によくかくれています。

背景や感情で体の色が大きく変化します。

ウロハゼの幼魚は、色が薄くて糸田長く、感じがマハゼやゴクラクハゼによく似ています。(佐野こころ)

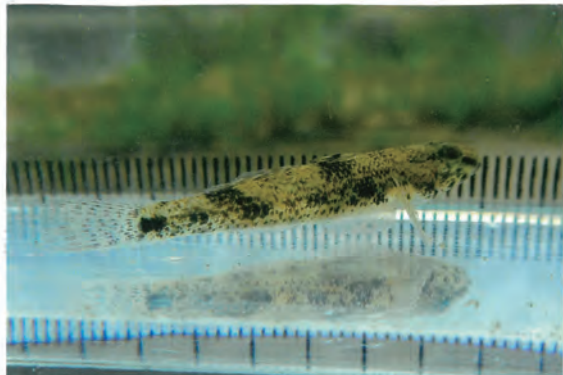


幼魚



成魚

ウロハゼ(絵、弓削 朱花梨)



明石川下流の汽水域で捕まえたウロハゼの幼魚です。感じがマハゼに似ています。



明石川下流の汽水域で捕まえたウロハゼの未成魚です。明石川下流の伊川合流点付近の下から河口にかけて生息しています。

マハゼ

真鯨

明神

Acanthogobius flavimanus

ハゼ科 ハゼ亜科 マハゼ属

北海道～種子島

15～25 cm

河川の汽水域～内湾に生息し、明石川水系では初夏～晩秋にかけて明石川下流の淡水域にも幼魚～未成魚が逆ります。

石が多く石もある所が好きで、石の下や空き缶の中に隠れていることも多く、石の上に群聚していることもあります。

成長が早くてすぐに大きくなり、初夏～初秋は明石川下流でタモ網で幼魚～成魚がよく捕れ、夏～秋は明石川河口で成魚がよく釣れます。(西岡 龍え介)

幼魚



成魚

マハゼ (絵、弓削 朱花梨)



初夏に明石川の河口近くの汽水域で捕れたマハゼの幼魚です。幼魚は感じがヨシボリ類に似ています。



夏に明石川下流の淡水域で捕れたマハゼの成魚です。マハゼは成長が早くてすぐに大きくなります。

ミズハゼ

虹 蛭 鯊

明

Luciogobius guttatus

ハゼ科 ハゼ亜科 ミズハゼ属

北海道～沖縄県

8cm 神戸市Cランク

明石市Bランク

神戸市の住吉川河口付近にはたくさん生息していますが、明石川河口付近にも生息しているのを確認しています。

石の下にかくれているので、石をめくると捕れることが多いです。2025年春には明石市の松江海岸の石少浜の石の下にかくれているのを確認しています。

1匹ずつ微妙に色が違っていて体が細長くてドジョウのようですが、うろこがなくハゼの仲間なのに第1背びれもありません。

河口から下流にも進入しますが海水が流れ込む汽水域にいて、淡水域にはいません。(西岡 龍介)



ミズハゼ (絵・弓削 朱花梨)



明石川河口で捕まえたミズハゼの成魚です。うろこがなく細長くてヌルヌルしていて見た目はハゼよりドジョウみたいです。



明石川下流の汽水域の石のげにかくれているミズハゼの成魚です。明石川下流～河口でも生息していることがわかりました。

ウキゴリ

浮魚体

明神

Gymnogobius urotaenia

ハゼ科 ハゼ亜科 ウキゴリ属

北海道、本州、九州

12cm 兵庫県Cランク
神戸市Cランク
明石市Bランク

明石川下流～河口では、スミウキゴリよりも上流の下流淡水域に生息し、スミウキゴリよりも数が少ないです。

明石川下流で合流している支流の伊川や明石川下流の流れのゆるやかな川底の石の下にいます。

第1背びれの後ろに黒い斑点があり、体はかなりヌルヌルしています。(西岡 龍介)



ウキゴリ (絵、弓削 朱花梨)



明石川下流の淡水域の流れがゆるやかな川底にいました。



ウキゴリは第1背びれの後ろに黒い斑点があるのが特徴です。頭がひしゃげのように見えます。

スミウキゴリ

墨浮鮚

明神

Gymnogobius petschiliensis

ハゼ科 ハゼ亜科 ウキゴリ属

北海道～屋久島

9cm 神戸市Cランク

ウキゴリよりも下流の汽水域に生息し、第1背びれに黒い斑点がありません。

神戸市の住吉川河口での生息は確認していましたが、2018年に明石川河口付近でも初めて捕れました。

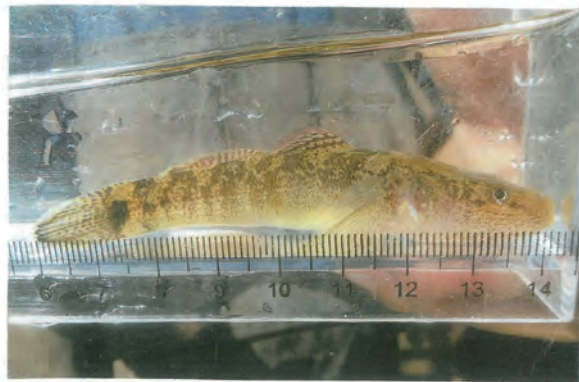
明石川下流の淡水域にはウキゴリが、明石川河口の汽水域にはスミウキゴリが生息していることがわかりましたが、時にはスミウキゴリが明石川下流の淡水域や支流の伊川で捕れることもあります。(西岡 龍え介)



スミウキゴリ (絵、弓削 朱花梨)



明石川河口付近の海にとても近い場所の流れのゆるやかな石の間にいました。



明石川河口付近で捕まえたスミウキゴリの成魚です。大きな石の下にニホンウナギとかくれています。

マゴチ

真 鱚

明

Platycephalus indicus

コチ科 コチ属

山形県・宮城県より南

50cm

成魚は砂や泥の海底に生息していますが、夏は汽水域の河口にも進入してくると言われています。

写真の個体は、河口よりもわずと上流の明石川下流の淡水域の砂底にいたところを捕まえました。

体は足で上から踏みつけられたような特徴的な体形で、頭に刺があり触ると痛いです。(西岡龍介)



マゴチ (絵、藤澤太一)



川底の石を頭にかけて上手に身を隠しているマゴチの幼魚です。体の模様が川底の景色によく似ています。



明石川下流の川底に隠れていたのを捕まえたマゴチの幼魚です。平べったい体形です。

ミナミメダカ

南目高

神 明

Oryzias latipes

メダカ科 メダカ属

本州～沖縄

絶滅危惧II類 4cm 兵庫県要注目
神戸市Cランク
明石市Bランク

明石川水系では上流～河口近くまで広く生息していますが、用水路や下流の流れが弱くて栄養分の多い所ではたくさん増えています。

口が上を向いていて、水面近くの蚊の幼虫のボウフラやミジンコや藻などを食べる雑食です。

田中川用水路や平野大池用水路や下流では、ミナミメダカが君羊れになってたくさん泳いでいる様子が見られます。(丸口葵)



オス♂



メス♀

ミナミメダカ (絵・弓削 朱花梨)



4月に明石川支流の櫛谷川の細流にいたミナミメダカの成魚のペアです。まさに春の小川です。



明石川中流の淀みの茂みで捕まえたミナミメダカの成魚です。明石川水系にはたくさんのミナミメダカがいるのでうれしいです。



明石川水系で捕まえたミナメダカの成魚です。
明石川水系ではミナメダカが増えています。



明石川支流の田中川用水路で捕まえたミナメダカ
の未成魚～成魚です。田中川用水路や平野大池
用水路や下流では、ミナメダカがたくさん泳いで
いる様子が見られるようになりました。



田中川用水路で捕まえた卵を持ったミナメダカの
メスの成魚です。すぐにリリースしました。



明石川中流の魚道で捕まえた体外光メダカです。
メダカの群れの中で泳いでいる時から目立っていました。
放流された個体のようで、メンバーが持ち帰って
飼育しました。

カダヤシ

蚊絶やし



Gambusia affinis

カダヤシ科 カダヤシ属

福島県より南の本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島

特定外来生物 3~5cm 兵庫県注意種

総合対策外来種 神戸版ブラックリスト

重点対策外来種 外来生物種

河口やわんど、用水路、池沼などに生息し、明石川水系では下水処理場の排水の出口付近や工場排水の出口付近や暗渠の中など水温の高い限られた場所にあります。

田中川用水路のカダヤシは玉一アクアリウムが駆除をしたので絶滅し、現在はミナミメダカがたくさん増えています。

卵胎生で環境の悪化にも強く繁殖力も強いと言われていますが、明石川水系ではカダヤシの数は少なくミナミメダカの方が多いです。(西岡龍之介)



メス♀



オス♂

カダヤシ (絵・弓削朱花梨)



右下の大きな1匹がメスで、左上の2匹はオスです。カダヤシはメスの方が大きくなります。



カダヤシは尻びれの位置や形でミナミメダカと見分けることができます。この個体は垂水区の福田川産です。

グッピー

(神)

Poecilia reticulata

カダヤシ科 グッピー属

北海道～九州の水温の高い場所
2.5cm～4.5cm

総合対策外来種

その他の総合対策外来種

観賞用として家で飼われ、その後逃げ出したり、逃がされたものが、水温の高い場所で生き残り増えています。

今まで明石川水系では、下水処理場の温かい排水が流れ込む水路に生息していましたが、誰かが放流したものが、2014年には明石川中流で、2019年には明石川支流の田中川の小さな水路で爆発的に増えているのを発見し、馬区除を続け現在は減っています。(竹葉真心)



オス♂



メス♀

グッピー (絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の田中川の小さな水路でグッピーの調査をしている様子です。現在は駆除を続けて減っていますが、以前はこんな小さな水路に数百匹のグッピーがいました。



上の小さな水路で捕まえたグッピーです。色がきれいなグッピーと地味な色のグッピーがいて、地味なグッピーはミナミメダカに似ていますが、尻びれなどの位置や形を見ると違いがわかります。

ギギ

義義

神(明)

Tachysurus nudiceps

ギギ科 ギバチ属

近畿より西の本州、四国、九州東北部

15~30cm

神戸市Bランク

河川の中流や大きな湖などに生息し、明石川水系では上流~下流や平野大池の用水路などにいます。

水の汚れや環境の変化に弱く、川底がきれいな砂や石礫から泥に変わると、すぐになくなります。

背びれと胸びれに棘があり、刺されると痛いと言われますが、ふつうに手のひらに乗せて刺されることはほぼありません。

水から出すとギィギィと鳴きます。(西岡 龍之介)



ギギ(絵・弓削 朱花梨)



玉津第一小学校で飼っていたギギの成魚です。餌を食べる時以外は流木の下に隠れていました。大きく育ったので、明石川の元の場所にリリースしました。



明石川中流で捕まえたギギの未成魚です。捕れることが多くなりました。



明石川中流で6月に捕まえた産卵間近のギギのメスの成魚です。すぐにリリースしました。



上のギギのメスの成魚をリリースした場所で、その後ギギの小さな幼魚が20匹ぐらい捕れました。



その後も同じ場所で幼魚が育っていました。



明石川中流の別の場所で7月に捕まえたギギの幼魚です。1回目は23匹、2回目は18匹捕れました。

ナマズ鯰

神 明

Silurus asotus

ナマズ科 ナマズ属

滋賀県、三重県より西の本州、四国、九州

50~70cm

河川の中流~下流や池や湖などに生息し、明石川水系では中流~下流や用水路、明石川につながる池などにいます。

深くて流れの弱い泥底によくいますが、きれいな水を好みます。

明石川沿いの田んぼの多くがパイプラインになり、ナマズが田んぼに進入して産卵することは難しくなりましたが、明石川中流~下流の流れの弱い茂みや藻が生えた用水路などに産卵し、幼魚が適応して逞しく成長しています。(西岡 龍え介)



ナマズ (絵: 弓削 朱花梨)



明石川中流で捕れたナマズの成魚です。60cm近くありました。



明石川支流の田中川の用水路で捕れたナマズの成魚です。用水路にもこんなに大きなナマズがいます。



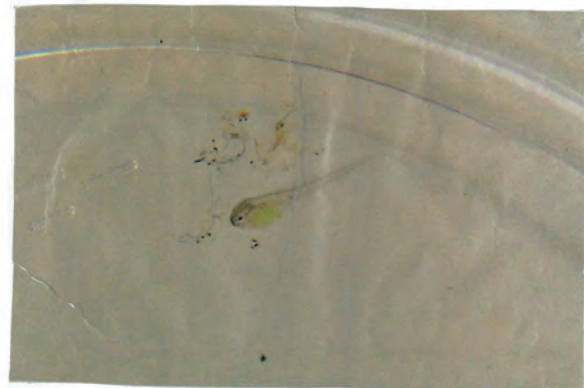
産卵するために浅くて緩やかな茂みのある場所に移動してきたナマズの成魚です。



ナマズが産卵した茂みから採取したナマズの卵です。意外と大きいです。



卵孵化する1日前のナマズの卵です。もう卵の中に形ができています。



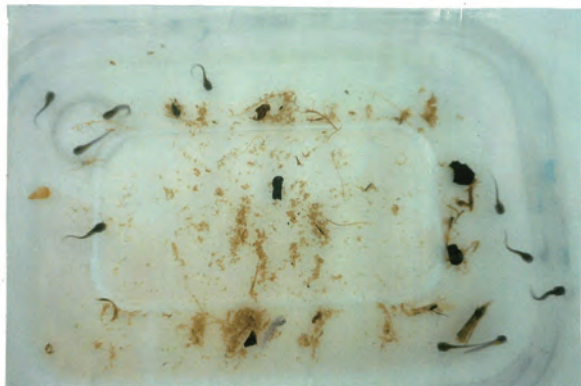
卵孵化して間もないナマズの仔魚です。まだ透明です。



卵孵化3日目のナマズの仔魚です。お腹にはまだ卵黄が残っています。



卵孵化5日目のナマズの仔魚です。お腹の卵黄がなくなっています。



卵孵化6日目のナマズの仔魚です。こんなにたくさん生まれました。



似ていると言われるオタマジャクシとナマズの幼魚の比較です。左がオタマジャクシで、右がナマズの幼魚です。

テングヨウジ

天狗楊枝

明

Microphis (Oostethus) brachyurus brachyurus

ヨウジウオ科 ヨウジウオ亜科 テングヨウジ属

相模湾より南

25 cm

河川の下流に生息し、2020年の11月に初めて明石川下流～河口の草が茂っている淡水域で捕獲しました。

その後、2022年の9月にはテングヨウジの成魚が、2023年の9月にはテングヨウジの幼魚が捕れ、2020年以降は、ほぼ毎年のようにテングヨウジが捕れています。

名前の通り、大きな楊枝や木の枝のようで、クネクネと泳がずに棒のようにゆっくりとスーッと移動します。

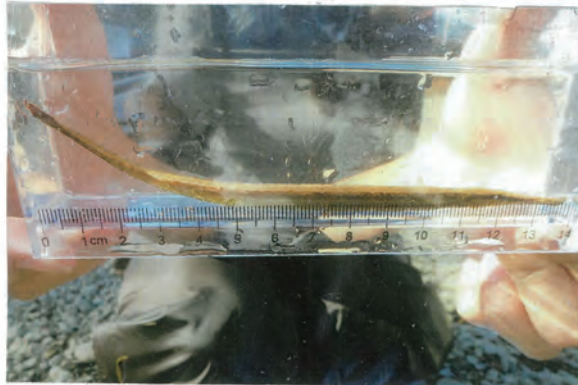
観察すると体側にごく薄い赤色の縦筋があるのもテングヨウジの特徴です。(西岡 龍え介)



テングヨウジ (絵: 永田 惇人)



捕まえてすぐにバケツに入れて上から見たテングヨウジの成魚です。体を曲げずに木の枝のようにスーッと泳ぎます。



明石川下流の淡水域で捕まえたテングヨウジの成魚です。他のヨウジウオより吻が長く、背びれが体の後方にあり、体側に薄い赤色の縦筋があります。

ボラ

魚

明神

Mugil cephalus cephalus

ボラ科 ボラ属

日本 全国

60 cm

河川の下流～内湾に生息し、春～初夏にボラの幼魚の大群が明石川下流に遡り、時には冬から遡ることもあります。

川底の石やコンクリートに生えた藻類を群れになって身をひる返しながら食べるようすは、オイカワによく似ています。

他の魚よりも胸びれが上の方について、胸びれの元には青色の斑紋があり、第1背びれと第2背びれは離れています。

追いつめられると水面を飛んで逃げます。(中村 颯希)



幼魚

成魚

ボラ (絵・弓削 朱花梨)



明石川下流で捕まえたボラの幼魚です。春～初夏に明石川を遡り、支流の伊川や下流の水路にも進入します。



明石川下流で追いつめられて捕まえたボラの成魚です。こんなに大きくなります。

メナダ^明

目奈陀

明

Chelon haematocheilus

ボラ科 メナダ属

北海道、本州、四国、九州

50cm ~ 1m

主に内湾に生息し、幼魚は春~秋に河川の汽水域に進入します。

明石川水系では明石川の河口近くに幼魚がいます。

初夏の干潮時に明石川の河口付近まで川の中を下った時に干潮でできた溜まりや水位が下がった本流で幼魚が捕れました。

幼魚はボラよりも体が細長く背中に石少のような小さな斑点があり、胸ひれの元に青色の斑紋はなく目の上部が薄い赤色をしています。

ボラの幼魚は下流まで遡りますが、メナダは遡らずに河口にいます。

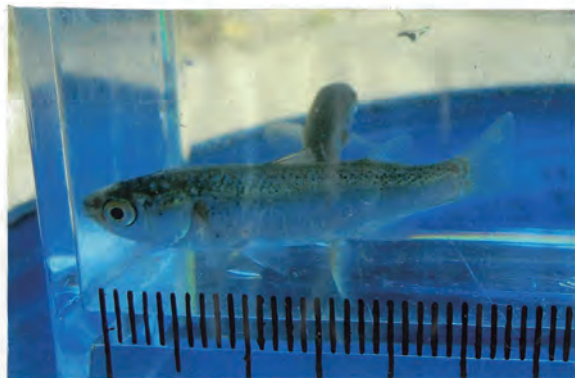


(西岡 龍介)

メナダ幼魚 (絵・弓削 朱花梨)



干潮時の明石川河口付近で溜まりにタモ網を入れて捕ったメナダの幼魚です。たくさん捕れました。



明石川河口付近で捕れたメナダの幼魚です。ボラの幼魚に似ていますが体が細長く背中に小さな斑点があり、胸ひれのつけ根にある青色斑紋がメナダにはありません。

クサフグ

草河豚

(明)

Takihugu niphobles

フグ科 トラフグ属

青森県～沖縄県

15cm

河川の河口付近～内湾に生息し、明石川河口付近に多くいて、橋の上から見ると大きなボラやコイの成魚の群れの近くでクサフグの群れがちよちよろしているのが見えます。

歯が強く噛まれたら痛いし、河口で釣りをしていると餌をとられるだけでなく、よく釣糸を切られます。

明石の浜辺でもクサフグが集団で産卵するようすが見られます。(中村 颯希)



クサフグ(絵・弓削 朱花梨)



干潮の明石川河口で逃げるクサフグの後を追いかけて捕まえたクサフグの成魚です。



捕まえたクサフグを真正面から見ると、お腹の小さなトゲトゲがよくわかります。

シマフグ

縞河豚

明

Takifugu xanthopterus

フグ科 トラフグ属

相模湾より南

45cm~50cm

日本以外では、朝鮮半島沿岸、黄海、東シナ海と南シナ海沿岸、台湾などに分布しているフグです。

2019年の秋に明石川河口の釣りによる調査で初めて2匹捕獲しました。

肝臓や卵巣に強い毒がありますが食用フグです。

(西岡 龍之介)



シマフグ(絵、弓削 朱花梨)



明石川河口で、クサフグやクロダイの幼魚などと一緒に釣れたシマフグの幼魚です。とてもきれいなフグです。



写真のようにシマフグの背中にもお腹にも小さなトゲがたくさんあって、ガザガザ感があります。

ウシガエル

牛蛙

神 明

Lithobates catesbeianus

アカガエル科 アメリカアカガエル属

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

11~18 cm

特定外来生物
総合対策外来種
重点対策外来種

兵庫県警戒種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

北アメリカ原産のカエルで、明石川水系では明石川中流～下流や、樫谷川や田中川や伊川や用水路など、水の流
れが穏やかな所に多くいます。

たまに幼生のオタマジャクシが大量発生して驚きます。

肉は鶏肉みたいで淡白で
とても美味しいです。(西岡龍介)



ウシガエル (絵: 駒板なみ)



明石川支流の伊川の上南橋付近の溜まりにいたウシガエルの幼生(オタマジャクシ)です。たくさんいました。



明石川支流の伊川の白水橋付近で捕まえたウシガエルの成体です。



明石川中流で大きなウシガエルの成体を捕まえました。きれいな場所にいたので、解体してからあげにして、美味しくいただきました。



ウシガエルの前足と後ろ足の肉で作った骨付きのからあげです。鶏肉みたいでとても美味しいです。



明石川支流の櫛谷川で大量発生したウシガエルの幼生(オタマジャクシ)です。幼生を捕って振り向いたら、またいる感じで100匹以上上馬区除できました。



明石川支流の伊川と明石川下流の合流点付近の溜まりで捕まえたウシガエルの幼生と幼体です。

ヌマガエル

沼蛙

神 明

Fejervarya kawamurai

ヌマガエル科 ヌマガエル属

本州中部より西、四国、九州、奄美、沖縄

3cm ~ 5cm

河川や池や湿地や田んぼなどに生息し、明石川水系では明石川上流～下流や用水路、田んぼなどに多く、明石川から少し離れた玉-アクアリウムの手セリ-にもたくさんいます。

虫やミズなどを食べる肉食で、ヌマガエルの前に虫やミズをポトリと落とすと、うれしそうに食べる姿がかわいいです。

ツチガエルと似ていますが、ツチガエルのお腹には斑玉紋があるのに対して、ヌマガエルのお腹は真っ白なので区別できます。

(竹葉真心)



ヌマガエル(絵: 弓削 朱花梨)



手セリ-の裏の田中川の小さな水路で捕まえたヌマガエルの幼生(オタマジャクシ)です。白い変異個体もいました。



明石川下流で捕まえたヌマガエルの成体です。明石川下流にも幼生(オタマジャクシ)や幼体や成体があります。

スッポン

鱉

(神明)

Pelodiscus

スッポン科 スッポン属

本州より南

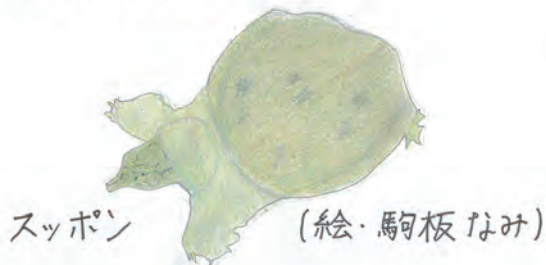
15cm～35cm 兵庫県要調査

情報不足 (在来種なら) 神戸市Cランク

明石川水系では、中流～下流や支流の深くて流れがゆるやかに川底に砂がたくさんある場所に生息しています。

日光浴が大好きですが人間の姿が見えるとすぐにかくれます。

昔、明石川中流の平野町のあたりで中国産のスッポンの養殖場があったという情報があり、この付近では幼体や成体が多く捕れることから、明石川のスッポンが在来種か外来種かは不明です。(神田大和)



秋に平野大池の用水路で捕まえたスッポンの幼体です。1度に10数匹捕れることもあり、昔はこの辺りに養殖場があったことから、在来種か外来種かはわかりません。



明石川中流で捕まえたスッポンの成体です。みんなで交代でスッポンの甲羅を持って、フニフニ感を確かめました。

アカミミガメ

赤耳亀

神(明)

Trachemys scripta

ヌマガメ科 アカミミガメ属

日本全国

28cm

特定外来生物

兵庫県警戒種

総合対策外来種

神戸版ブラックリスト

緊急対策外来種

外来生物種

日石川水系では深く流れがゆるやかな場所に生息し、雑食ですが成体になると藻をよく食べています。

日光浴が大好きで、日石川の堰では集団で甲羅干しをしていて、馬区除をしています。馬区除をしたアカミミガメは命を無駄にしないように肥料にしています。オスは前足の爪が長く伸びます。(佐野こころ)



アカミミガメ (絵: 駒板 なみ)



アカミミガメの幼体はミドリガメと呼ばれとてもかわいいですが、長生きして大きくなるので、そのことを知って最後まで責任を持って飼って欲しいです。



日石川中流の夏の様子です。アカミミガメをカゴ網やタモ網で馬区除しても、まだこんなにたくさんのアカミミガメがいます。

クサガメ

草亀・臭亀

(神) (明)

Mauremys reeresii

イシガメ科 クサガメ属

本州～九州

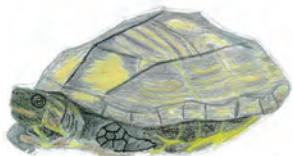
30 cm

外来種

明石川水系では最近では少しずつ捕れる回数が減っていて、甲羅にキールが3本あり、捕まえると独特の臭いを出します。

明石川水系ではアライグマに食べられたと思われる前足や後ろ足や尻尾の先がない個体が多くなります。

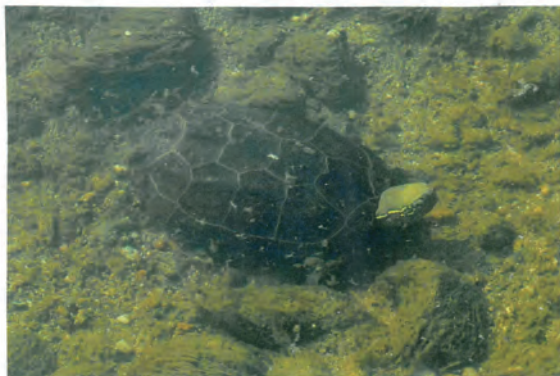
ニホンイシガメとの交雑を避けるため、クサガメが捕れるとなるべく下流に持って行ってリリースしているので、下流でよく見かけられるようになりました。(神田大和)



クサガメ (絵・駒板なみ)



明石川中流の流れがゆるやかな淀みの草の茂みで捕まえたクサガメの幼体です。初夏の頃によく捕れます。



明石川下流の合流点付近の支流の伊川にいたクサガメの成体です。クサガメが捕れたらできるだけ下流にリリースしているので下流でも見かけます。

ニホンイシガメ

日本石亀

神 明

Mauremys japonica

イシガメ科 イシガメ属

本州、四国、九州

13~20cm

兵庫県Cランク

神戸市Aランク

明石市Aランク

準絶滅危惧

明石川水系では、近年見かける回数が減っていて、特に幼体を見る機会が減っています。

明石川水系では、アライグマに食べられて前足や後ろ足や尻尾の先がない個体が多いです。

明石川上流~中流にいますが、支流の田中川や櫛谷川で見ることのほうが多いです。

数は少ないですが、下流にもいます。(徳田 桜花)



ニホンイシガメ (絵・駒板 なみ)



明石川支流の櫛谷川の近くにいたニホンイシガメの幼体です。幼体が特に減っています。



明石川中流にいたニホンイシガメの成体です。成体も減っています。

ニホトカゲ

日本蜥蜴

神 明

Plestiodon japonicus

トカゲ科 トカゲ属

本州西部、四国、九州、大隅諸島など

16～25cm

明石市Bランク

山地～住宅地に生息していますが、明石川水系では源流～中流の土手に多く生息しています。

幼体は黒地に黄白色の5本の縦縞模様があり、尻尾はきれいな青色で虹色ですが、成体になると月同はオリーブ色～茶褐色で体側に黒褐色の太い縦縞が入り尻尾も地味な色になります。

昆虫などの小さな生き物を食べる肉食で、光沢があり滑らかでカナヘビよりも体に対して尻尾が短いです。(北井 涼太)



ニホトカゲ (絵: 弓削 淳翔)



明石川中流の河川敷で捕まえたニホトカゲの幼体です。鮮やかでとてもきれいな色をしています。



明石川支流の印路川源流で捕まえたニホトカゲの成体です。重厚感があり滑らかな触り心地です。

ニホンカナヘビ

日本金蛇

神 明

Takydromus tachydromoides

カナヘビ科 カナヘビ属

北海道、本州、四国、九州および周辺の島

18cm~25cm

山地~住宅地に生息していますが、明石川水系では源流~下流の土手に多く生息し、中流の中州には特に多く生息しています。

幼体は黒褐色で、成体は背中が灰褐色でお腹は黄白色~褐色がかた黄色をしています。

昆虫などの小さな生き物を食べる肉食で、体の表面は光沢がなくざらざらしていて、体に対して尻尾が長いです。

耳がわかりやすいのもニホンカナヘビの特徴です。(宮本彩音)

ニホンカナヘビ (絵: 宮本 彩音)



明石川中流の中州で捕まえたニホンカナヘビの成体です。見た通りのざらざらした触り心地です。



この個体も明石川中流の中州で捕まえました。中州には野原もあって、倒木や枯れ草もあり、格好の場所みたくたくさん生息しています。

ニホンマムシ

日本蝮

神

Gloydius blomhoffii

クサリヘビ科 マムシ属

北海道～九州

45cm～60cm

平地～山地、森林などに生息し、水辺が好きなので川や用水路の茂みや田んぼの畔や土手などにもいます。

体に黒い縁取りのある黒褐色の斑紋が並んでいます。

ふつうのヘビは人が近づくと逃げますが、ニホンマムシは毒を持ち時には逃げずに口嚙んでくる場合があるので注意が必要です。

ニホンマムシが近くにいると化粧品のような独特のいい香りがします。

(西岡 龍え介)



ニホンマムシ (絵、弓削 朱花梨)



増水の際に明石川中流に流されてきて、茂みにひっかり死にかけていたニホンマムシの未成体です。



棚田の作業の帰りに水路で見つけたニホンマムシの成体です。ふつうのヘビと比べて体の模様や胴の太さなど違いがよくわかります。

ヒバカリ

日ばかり

神

Hebius vibakari

ナミヘビ科 ヒバカリ属

本州、四国、九州、壱岐、屋久島

情報不足 40~65cm 神戸市Cランク
明石市Bランク

明石川水系では明石川源流～中流、用水路などに生息しています。

昔は毒ヘビと思われていて、名前は「このヘビに噛まれたら命はその日ばかり」と言われていたからです。

水辺が好きで泳ぎも他のヘビより上手で、小魚やカエル、オタマジャクシやミズをよく食べ、水辺の草の茂みをガサガサしてウナギが捕れたのかと思ったらヒバカリだったことが何回もありました。

とても大人しくて かわいいヘビです。(佐野こころ)



ヒバカリ(絵、弓削朱花梨)



平野大池の用水路にいたヒバカリの幼体です。みんな交代して角を合ったあとリリースしました。



昔は毒ヘビだと思われていたヒバカリですが、本当はこんなに大人しくてかわいいヘビです。玉-アクリウムメンバーたちが大好きな生き物の1つがこのヒバカリです。

シマヘビ

縞蛇

神

Elaphe quadrivirgata

ナミヘビ科 ナメラ属

北海道～九州

80cm～150cm

神戸市要調査

水田や野原や森林などに生息し、河川敷にもいます。
体には4本の黒い縦縞模様が入り、幼体は縦縞
が無いが半り難しく、赤褐色の横縞が入ります。

大人しい個体もありますが、口噛んでくる個体もいて、頭部を三角
形にして、尾を震るわせて威嚇することもあります。(中村颯希)



シマヘビ(絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の福知川の更に支流の印路川の源流付近の
ため池の土手の石の下にいたシマヘビの幼体です。



まだ早春の寒い時期だったので、シマヘビの幼体を手の上
に乗せると、じっとしていました。

アオダイショウ

青大将

神

Elaphe climacophora

ナミヘビ科 ナメラ属

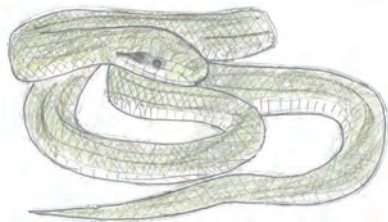
北海道～九州

1m～2m 神戸市要調査

明石川水系では明石川中流で見かけることが多く、河川敷や土手などに生息しています。

かなり大きくなるヘビで、目の後ろに黒い縞模様があります。個体差があり、大人しいのもいれば、狂暴で噛んでくるものもいます。

捕まえると、青臭い独特の臭いを出します。(佐野こころ)



アオダイショウ (絵、弓削 朱花梨)



明石川中流の田中川合流点付近の河原で捕まえた大人しいタイプのアオダイショウで触れ合いを楽しみました。



明石川中流の土手の農道で捕まえた狂暴なタイプのアオダイショウです。捕まようとすると、何度も噛まれ、更に何度も噛んできました。

カワセミ

翡翠

神 明

Alcedo atthis

カワセミ科 カワセミ属
北海道(夏鳥)
本州より南(留鳥)

17cm 明石市Aランク

明石川水系に1年中いる留鳥で、明石川全域で見られ、田中川用水路の特定の場所では、ホバリングしながらダイブしてヌマムツを捕まえる様子が見られます。

同じ場所で見られるのはほぼ同じ個体で、魚類の他に甲殻類や水生昆虫も食べる肉食です。

頭が大きくてくちばしが長く、足や尾は短いです。(佐野ころろ)



カワセミ(絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の福知川沿いで休んでいるカワセミです。支流でもよく見られます。



増水の時の強い流れて土手木の根元が掘れて根がむき出しになった所で休んでいるカワセミです。このすぐ近くに巣があります。

キセキレイ

黄鶺鴒

神

Motacilla cinerea

セキレイ科 セキレイ属

北海道～九州

20 cm

上流の溪流などの水辺に生息し、明石川水系の玉津地区では支流の田中川で時々見かけ、たまに明石川中流にもいます。頭から背中にかけて灰色で、お腹が黄色なので、セキレイの中ではわかりやすいです。

警戒心がとても強く人を見るとすぐに逃げてしまいます。

キセキレイとセグロセキレイとハブセキレイは少しずつ生息域が違って上手に住み分けています。(藤澤太一)



キセキレイ (絵: 西岡柚佳)



明石川中流の電線にいたキセキレイです。青い空に黄色いお腹がよく映えます。



明石川支流の田中川沿いの駐車場にいたキセキレイです。丸くふくらんでいました。

セグロセキレイ

背黒鶺鴒

神

Matacilla grandis

セキレイ科 セキレイ属

北海道～九州

20～22cm

中流の水辺に生息し、明石川水系でも中流や支流で見かけますが住宅地では見かけません。

頭から背中にかけて濃い黒色でお腹は白色でハクセキレイととてもよく似ています。

しかし、ハクセキレイと違って目の斜め後ろの耳羽が黒いので見分けることができます。(佐野こころ)



セグロセキレイ (絵、丸口葵)



石がごろごろした明石川中流で餌を探すセグロセキレイです。見ることはハクセキレイよりも少ないです。



ハクセキレイとよく似ていますが、目の斜め後ろの耳羽が黒いことで見分けられます。

ハクセキレイ

白鶺鴒

神 明

Motacilla alba lugens

セキレイ科 セキレイ属

北海道～九州

21cm

中流～下流の開けた水辺に生息し、明石川水系では中流～下流の他に用水路や住宅地の中や車が多く通る国道沿いなどにも姿を見せ、玉津第一小学校では休み時間にみんなが通るブリッジで巣作りをして産卵と子育てをしていました。

頭から背中にかけて黒色～灰色で お腹は白色です。

警戒心が弱く人を見ても逃げず、国道沿いの人通りが多く夜でも明るい場所に植えられた高い木に集まって寝ています。(丸口 葵)



ハクセキレイ (絵: 弓削 淳翔)



明石川下流で餌を探すハクセキレイです。水を飲んでいると思ったら、頭を水に突っ込んで川底の餌を探していました。



平野大池にいたハクセキレイです。目の斜め後ろの耳羽が白いので、セグロセキレイと見分けられます。

ホオジロ

頬白

神 明

Emberiza cioides

ホオジロ科 ホオジロ属

北海道、本州、四国、九州、沖縄

16~17cm

農耕地や草地に生息し、開けた場所で鳴いていますが、明石川水系の中流~下流の見晴らしの良い河川敷の木の枝で胸を張って鳴いています。

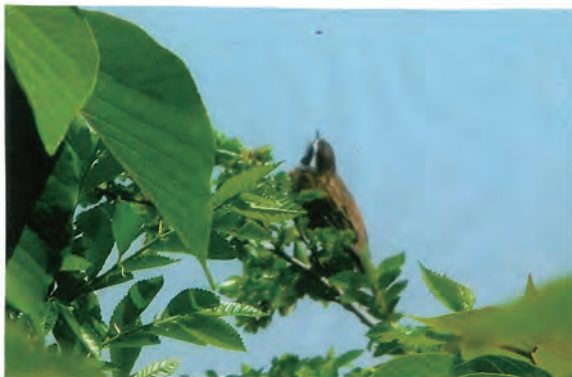
「チョッピ〜チチロ ピヒロピー」と複雑で澄んだ声で鳴き、「一筆啓上仕り候(いっぴふたいじょうつかまつりそうろう)」とも聞こえると言われています。

ホオジロのオスの頬は白と黒の模様がはきりとしています。

(神田大和)



ホオジロ (絵: 弓削 淳翔)



明石川中流の河川敷の木の枝で胸を張って鳴いているホオジロのオスです。



こちらは明石川中流の土手の木の枝で鳴いているホオジロです。いつも明石川の開けた場所で鳴いています。

ヒシクイ

菱喰

神

Anser fabalis

カモ科 マガン属

神戸や明石に来ることは珍しい

78cm ~ 89cm

平野大池に来ることはとても珍しい鳥で、オオヒシクイ1羽、オオマガン1羽とともに3羽で来ていました。3羽で平野大池と平野大池のまわりの田んぼを行ったり来たりしていました。

水草のヒシの実が大好きなのでヒシクイという名前がつけられ、平野大池にはヒシがたくさん生えています。
(西岡 龍之介)

ヒシクイ (絵・弓削 朱花梨)



明石川水系の平野大池です。コウノトリやクロツラヘラサギなど珍しい鳥がよく来ます。



3羽のマガン属です。一番前(右)がヒシクイで川原にオオヒシクイ、オオマガンと続きます。

オオマガン

大真雁

神

Anser albifrons gambelli

カモ科 マガン属

神戸や明石に来ることは珍しい

65 cm ~ 86 cm

平野大池に来ることはとても珍しい鳥で、ヒシクイ1羽、オオヒシクイ1羽とともに3羽で来ていました。

3羽で平野大池と平野大池のまわりの田んぼを行ったり来たりしていました。

オオマガンは顔の前面部が白いのが特徴です。

(西岡 龍之介)

オオマガン (絵・藤澤太一)



明石川水系の平野大池です。コウトリやクロツラヘラサギなど珍しい鳥がよく来ます。



3羽のマガン属です。前(右)から川原にヒシクイ、オオヒシクイで、一番後ろ(左)がオオマガンです。

マガモ

真鴨

神明

Anas platyrhynchos

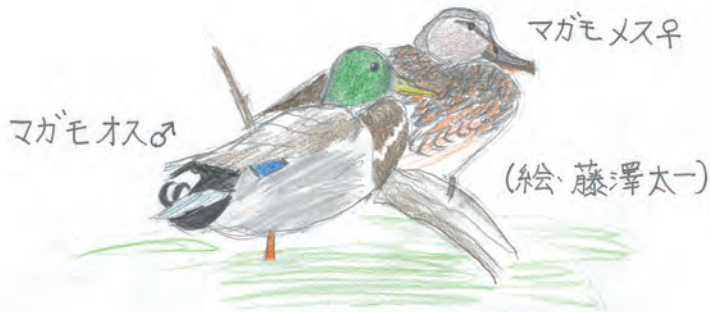
カモ科 マガモ属

日本全国

50～65 cm

日本で冬を過ごす渡り鳥で、明石川水系の河川でも見られ、繁殖期のオスは濃い緑色の頭と白い首輪模様から青首とも呼ばれています。

主に水草や植物の種を食べる草食ですが、小魚や甲殻類や貝類なども食べます。(竹葉 真心)



明石川中流の玉津大橋付近にいたマガモです。前の2羽がメスで、後ろの1羽がオスです。



こちらも明石川中流の玉津大橋付近にいたマガモです。3組のペアが並んで泳いでいました。

カルガモ

軽鴨

神 明

Anas zonorhyncha

カモ科 マガモ属

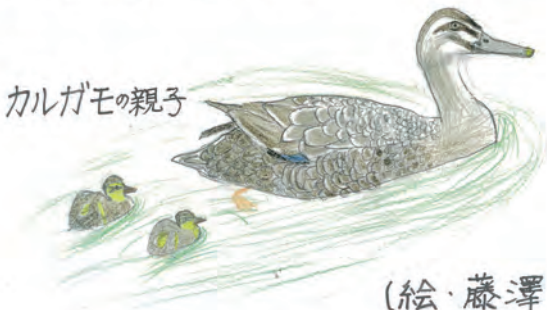
本州より南

50~65cm

神戸市や明石市に1年中いる留鳥で、明石川水系の川や平野大池や水を張った田んぼでもよく見られます。

オスもメスも同じ色をしていて、1年中変わりません。草食の他に魚貝や昆虫なども食べる雑食で、初夏に明石川中流~下流や支流の櫛谷川や田中川などで、カルガモの親子が見られます。(藤澤太一)

カルガモの親子



(絵・藤澤太一)



明石川中流の玉津大橋付近にいたカルガモの群れです。カルガモはオスもメスも同じ色をしています。



平野大池の近くの田んぼに飛んできたカルガモです。カルガモは田んぼにもよく来ます。

カイツブリ

鳥

神

Tachybaptus ruficollis

カイツブリ科 カイツブリ属
本州中部より南 (留鳥)
本州北部～北海道 (夏鳥)

26cm

明石川水系に1年中いる留鳥で、明石川中流でよく見られ、主に魚貝や甲殻類や昆虫を食べる肉食です。

潜水がとても上手で潜水して餌を捕まえますが、他の鳥と違って、足が体の後ろの方について、泳ぐのに便利になっています。

琵琶湖は昔から「鳥の湖(におのうみ)」と呼ばれ、カイツブリは滋賀県の県鳥にもなっています。(西岡 龍介)



カイツブリ (絵・藤澤 太一)



カイツブリが捕れた明石川中流です。この付近の茂みで捕れました。



茂みを探っていて、たまたまタモ網に入ったカイツブリの成鳥です。冬羽なので地味な色をしています。放すとすぐに潜って水の中に消えました。

カワウ

川鵜

神 明

Phalacrocorax carbo

ウ科 ウ属

本州、四国、九州

80 cm

川に潜り魚を追いかけて捕ります。
色が黒いので、カラスと間違えている人も多くいます。
翼に油が少ないので水をはじきにくく、河原や岩の上で
翼を広げて乾かしている姿をよく見かけます。
夜明けに群れて明石川に魚を食べに飛来します。
(佐野こころ)



カワウ (絵、鈴木 詩)



夜明けに群れて魚を食べるために明石川中流の玉津大橋付近に集まってきたカワウたちです。



カワウは翼に油が少なく水をはじきにくいので、明石川の河原で翼を広げて乾かしている姿をよく見ます。

アオサギ

青鷺

神(明)

Ardea cinerea

サギ科 アオサギ属

日本全国

90cm

明石川水系や平野大池でよく見るサギで、ダイサギと共に明石川水系では最も大きなサギです。魚や甲殻類、昆虫、カエル、トカゲ、ヘビなど、川や池にいる生き物を食べ、河原や池畔で待ち伏せしている姿をよく見ます。青みがかった灰色をしているので、アオサギと呼ばれています。
(弓削淳翔)



アオサギ(絵・宮本彩音)



明石川下流の輝く水面で獲物を待ち伏せするダイサギとアオサギです。手前がダイサギ、後ろがアオサギです。



平野大池で獲物を待ち伏せしているアオサギです。アオサギは明石川水系の他に平野大池にもよく飛来します。

ダイサギ

大鷺

神明

Ardea alba

サギ科 アオサギ属

日本全国

90cm 神戸市Bランク

明石川水系ではよく見るサギで、アオサギと共に明石川水系では最も大きなサギです。

魚や甲殻類、昆虫、カエル、トカゲ、ヘビなど、川にいる生き物を何でも食べ、待ち伏せやゆっくり歩いて餌を探します。

冬羽は飾り羽がなく、くちばしが黄色くて足は黒いです。

(駒板 なみ)

ダイサギ (絵 藤澤太一)



明石川中流に集団で餌を食べに来ているダイサギとコサギの群れです。大きいのがダイサギです。



明石川中流で餌を探してゆっくり歩くダイサギです。ダイサギは待ち伏せもしますが、歩いて餌を探すこともあります。

コサギ

小鷺

神 明

Egretta garzetta

サギ科 コサギ属

日本全国

60 cm 神戸市Bランク

明石川水系ではよく見るサギで、体が小型なので、小さな水路などにもよく飛来します。

魚や甲殻類、カエルなどを食べますが、大型のサギのように待ち伏せではなく歩きながら足を小刻みに震わせて、驚いて飛び出した獲物を捕まえたり、逃げる獲物を追いかけて軽く飛んで捕まえることもあります。

くちばしは黒く足の指が黄色で、夏羽には冠羽が現れます。(北井 涼太)



コサギ (絵: 駒板 なみ)



明石川中流で獲物を探しながら歩くコサギです。くちばしが黒く足の指が黄色なので、すぐにコサギとわかります。



サギの中では小型で小回りも利くので、コンクリートに囲まれた小さな水路にもよく来ます。後頭部には夏羽で見られる冠羽があります。

クロツラヘラサギ

黒面篋鷺

神

Platalea minor

トキ科 ヘラサギ属

九州～沖縄県

70～80cm

絶滅危惧IB類 明石市Aランク

世界的に数が減っていた鳥でしたが最近では増えてきています。平野大池で3匹見られました。

クロツラヘラサギという名前がイマイチですがトキの仲間にくちばしを水の中に入れて左右に振って、くちばしに当たった魚や甲殻類を食べるようすは、コウノトリの餌の食べ方に似ています。(和田勇翔)

クロツラヘラサギ

(絵・藤澤太一)



平野大池で餌を探する羽のクロツラヘラサギです。クロツラ(黒い顔)がよくわかります。



仲良く餌を探すクロツラヘラサギです。一番後ろのクロツラヘラサギが魚(フナ?)を捕らえました。

コウトリ

鶴

神

Ciconia boyciana

コウトリ科 コウトリ属

東アジア

110cm ~ 115cm

絶滅危惧IA類 特別天然記念物

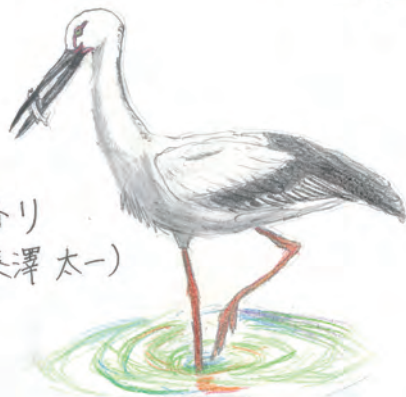
明月石川水系の平野大池に冬の水位が低くなった時に来て、多い時は10羽以上います。

全身と尾羽の色は白色で風切羽と大雨覆は黒色です。

くちばしは黒く、目のまわりは赤いですが皮膚の色です。

魚類や甲殻類、カエル、ヘビ、昆虫などを食べています。

(佐野 ころ)



コウトリ

(絵・藤澤 太一)



平野大池を飛ぶコウトリです。飛ぶと全身と尾羽の白さがよくわかります。



平野大池には冬の水位が低くなった時に時々コウトリが飛来するようになりました。

ヒクイナ

緋水鶏

神

Porzana fusca

クイナ科 ヒメクイナ属

日本全国

23cm

準絶滅危惧 神戸市Bランク
兵庫県Bランク 明石市Aランク

明石川水系に生息し繁殖しています。

明石川水系の水辺や岸の茂みで、カエルやミズヤ虫や植物の種子を食べています。

幼鳥は、真っ黒で、足が太くしっかりしています。(西岡 龍介)



ヒクイナ (絵・藤澤太一)



明石川中流の玉津大橋付近の浅瀬で餌を探している成鳥です。



明石川支流の櫛谷川で、アオダイショウに驚いて飛び出してきたところを保護した幼鳥です。茂みの中から親鳥の声が聞こえ、放すとすぐに親鳥の元に戻りました。

コチドリ

小千鳥

神 明

Charadrius dubius

チドリ科 チドリ属

北海道、本州、四国、九州、沖縄

16 cm

神戸市Cラン

河川や湖沼、農耕地や砂利地に生息し、明石川水系では
中流～下流の河原にいます。

目のまわりに黄色いアイリングがあり、足は長いですが、くちばし
は短いです。

「ピオピオ」といった独特の透き通った美しい声で鳴きます。

擬傷といって巣に近づく敵に羽を怪我して飛べないふりを
して敵を巣の反対方向に誘導することがあります。(藤澤太一)



コチドリ (絵・神田大和)



工事中の明石川中流の河原で餌を探すコチドリです。



目のまわりの黄色いアイリングもコチドリの特徴のひとつです。

カヤネズミ

茅 鼠

神

Micromys minutus

ネズミ科 カヤネズミ属

宮城県から南

6cm 神戸市Bランク

明石市Aランク

明石川水系では明石川上流～中流の河川敷や野原や田んぼのイネやイネ科の植物の葉で直径10cm位の球形の巣を上手に作ります。

イネ科の草の種や昆虫を食べ、収穫前のイネにも巣を作りますが、イネの穂は食べません。

神戸市西区平野町の玉-アクアリウムのナセリーの中でも、カヤネズミがチガヤに巣作りをしいて、カマキリに食べられているところも見たことがあります。(佐野こころ)



カヤネズミ (絵、弓削朱花梨)



早春に明石川中流調査をした時に河川敷で見つけたカヤネズミの巣です。みんなで観察しました。



アクアリウムのナセリーの園内で見つけたカヤネズミの巣です。住宅もあり人がよく通り、車もよく通るのに、カヤネズミが巣を作っていました。

ヌートリア

沼狸

神 明

Myocastor coypus

ヌートリア科 ヌートリア属
東海地方より西の西日本各地

40~60cm

特定外来生物

総合対策外来種

緊急対策外来種

兵庫県警戒種

神戸版ブラックリスト

外来生物種

南アメリカ原産で毛皮を取るために移入したものが野生化し、西日本各地で増えています。

明石川水系では、明石川中流～下流の他に支流の田中川や櫛谷川や伊川などでもよく見られます。(神田大和)



ヌートリア (絵・弓削朱花梨)



明石川支流の田中川の段差のところにいたヌートリアの幼体たちです。近くで親が見守っていました。今、田中川ではヌートリアがとても増えています。



明石川支流の櫛谷川の水辺の巣にいたヌートリアの成体のペアです。この付近では泳いでいる姿もよく見ます。

ニホンイノシシ

日本猪



Sus Scrofa leucomystax

イノシシ科 イノシシ属

本州、四国、九州

110 cm

明石川水系では、支流の福知川の更に支流の印路川の源流近くに多く生息しています。

その場所にはイノシシが寝転がって全身に泥を塗る沼田場や、その近くの田んぼにはたくさんの足跡や浅く土を掘り起こした跡があり、印路川の源流は玉-アクアリウムが自転車で山菜採りや調査に来る場所なので、ニホンイノシシは私たちの身近にいます。また、上流の支流の蛇谷川の源流にもいます。

(西岡 龍之介)

ニホンイノシシの親子(絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の福知川の更に支流の印路川の源流付近にいたニホンイノシシの未成年体です。まだ小さいです。



このニホンイノシシは、すぐ近くの道路で事故にあつたのか後ろ足に怪我をしていました。ニホンイノシシは意外と私たちの身近にいます。

終わりに

〈佐野 ころ〉

私たち玉一アクアリウムの手作り図鑑は
どうでしたか？

私は、この図鑑で少しでも外来種のことや
在来種や魚のことなどを知ってもらえると嬉しい
です！

今年の図鑑は植物も増えたのですごく大変
でした。

一番大変だったのは、図鑑の字を清書したこと
です。

これからもみんなで、玉一アクアリウムの活動を
がんばっていきたいです。

索引

(佐野こころ)

あ行

アオサギ	173
アオダイショウ	161
アオモンイトトンボ	34
アカエイ	71
アカミガメ	153
アサザ	8
アサヒオカワトンボ	36
アベハゼ	122
アメリカザリガニ	25
アユ	75
イシガイ	67

イセゴイ	72
イブシアシオガドロムシ	63
ウキゴリ	132
ウシエビ	18
ウシガエル	149
ウスバキトンボ	45
ウチワゼニクサ	7
ウチワヤンマ	39
ウデマガリコカゲロウ	57
ウロハゼ	129
エビモ	4
オイカブ	86

オオカナダモ	6
オオキンケイギク	14
オオクチバス	100
オオトゲエラカゲロウ	60
オオヒライソガニ	28
オオマガソ	168
オナシカワゲラ属	61
オニヤンマ	41
オランダガラシ	11
か行	
カイツブリ	171
カダヤシ	137
カマツカ	77

カムルチー	98
カヤネズミ	180
カラドジョウ	95
カルガモ	170
カワアナゴ	115
カワウ	172
カワセミ	162
カワムツ	88
カワヨシノボリ	123
カワリヌマエビ属	24
キイロサナエ	37
キカラスウリ	16
キクイモ	13

キセキレイ	163
キチヌ	111
ギギ	139
ギンブナ	82
ギンヤンマ	42
クサガメ	154
クサフグ	147
グッピー	138
クロダイ	110
クロツラヘラサギ	176
クロベンケイガニ	27
クロホシフエダイ	104
クロホシマンジュウダイ	105

ゲシコロウブナ	81
コイ	80
コウナトリ	177
コウライニゴイ	79
コウライモロコ	78
コオイムシ	48
コオニヤンマ	38
コガタシマヒケラ	62
コカナダモ	5
コガムシ	65
ゴクラクハゼ	126
コサギ	175
コシボソヤンマ	44

コチドリ	179
コトヒキ	108
コフキトンボ	47
さ行	
サホコカゲロウ	58
サワガニ	33
シオカラトンボ	46
シマイサキ	109
シマヒレヨシボリ	124
シマフグ	148
シマヘビ	160
シマヨシボリ	125
シロギス	107

シロタニガワカゲロウ	54
シロネ	9
シロハラコカゲロウ	59
スギナ	2
スジエビ	22
スズキ	99
スッポン	152
スミウキゴリ	133
セイヨウカラシナ	12
セキショウモ	3
セグロセキレイ	164

た行

タイコウチ	49
ダイサキ	174
タイリクバラタナゴ	84
タイワンウチワヤンマ	40
タイワンオオヒライソガニ	29
タイワンジジミ	70
タイワンドジョウ	97
タイワンヒライソモドキ	31
タコリアシ	10
タマリフタバカゲロウ	55
タモロコ	91
チチブ	128

チャイロカワモズク ———— 1

チュウガタスジマトジョウ ———— 93

チラカゲロウ ———— 52

ツルニチチソウ ———— 15

テナガエビ ———— 19

テングヨウジ ———— 144

ドジョウ ———— 94

ドンコ ———— 117

な行

ナマズ ———— 141

ニホンイシガメ ———— 155

ニホンイノシシ ———— 182

ニホンウナギ ———— 73

ニホンカナヘビ	157
ニホントカゲ	156
ニホンマムシ	158
ヌートリア	181
ヌマガエル	151
ヌマムツ	89
は行	
ハイロゲシゴロウ	64
ハクセキレイ	165
ハグロトンボ	35
ヒクイナ	178
ヒシクイ	167
ヒナハゼ	120

ヒバカリ	159
ヒメハゼ	119
ヒメミズカマキリ	51
ヒラテテナガエビ	21
フタバコカゲロウ	56
ブルーギル	102
ホオジロ	166
ボラ	145
ま行	
マガモ	169
マゴチ	134
マシジミ	69
マタナゴ	113

マツカサガイ	68
マハゼ	130
ミズカマキリ	50
ミゾレヌマエビ	23
ミナミタガイ	66
ミナミテナガエビ	20
ミナミメダカ	135
ミミズハゼ	131
ムラソイ	112
メジナ	114
メナダ	146
モクスガニ	32
モツゴ	92

ヤ行

ヤリタナゴ	83
-------	----

ヨシエビ	17
------	----

ラ行

ロングノーズガー	96
----------	----

参考文献

(竹葉真心)

- 松沢陽士著 ポケット図鑑 日本の淡水魚258 文一総合出版
刈田敏三著 新訂 水生生物ハンドブック 文一総合出版
白山義久ほか 指導・執筆 ネオポケット水辺の生物 小学館
沖山宗雄 監修・指導 新ポケット版 学研の図鑑 魚 Gakken
細谷和海 編・監修 山溪ハンディ図鑑15 日本の淡水魚 山と溪谷社
梅田孝著 写真 写真でわかる! ヤゴの見分け方全130種 世界文化社
永井真人著 鳥くんの比べて識別! 野鳥図鑑670 第4版 文一総合出版
神戸市 神戸の希少な野生動植物 神戸版レッドデータ2020
明石市 明石市の大切にしたい生きもの～明石市レッドリスト～ガイドブック
土井ほか 南紀生物
永田ほか 兵庫陸水生物
土井ほか 兵庫県生物学会

イラストの絵は、ホームページの画像も参考にしています

監修 西岡 龍之介

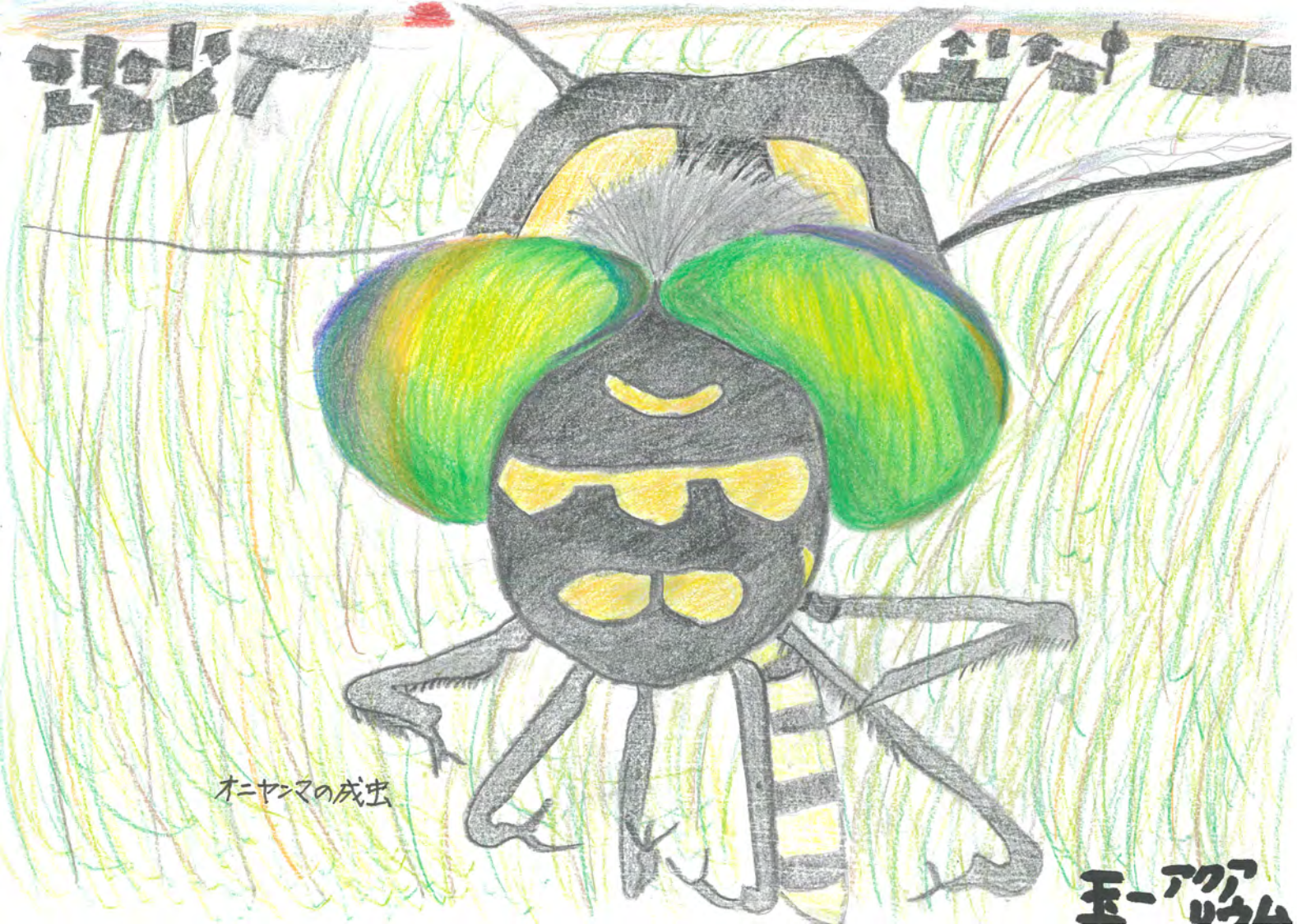
(西岡 龍之介)

表紙・裏表紙 → 駒板 なみ

文章 →	藤澤 太一	西岡 龍之介	徳田 桜花	中村 颯希
	弓削 朱花梨	駒板 なみ	宮本 彩音	竹葉 眞子
	和田 勇翔	佐野 ころ	神田 大和	丸口 葵
	北井 涼太	西岡 柚佳	弓削 淳翔	

イラスト →	永田 惇人	藤澤 太一	徳田 桜花	鈴木 詩
	弓削 朱花梨	駒板 なみ	宮本 彩音	人見 歩
	佐野 ころ	神田 大和	丸口 葵	北井 涼太
	西岡 柚佳	弓削 淳翔		

(編集 玉-アクアリウム)



オニヤンマの成虫

玉-アケアケ